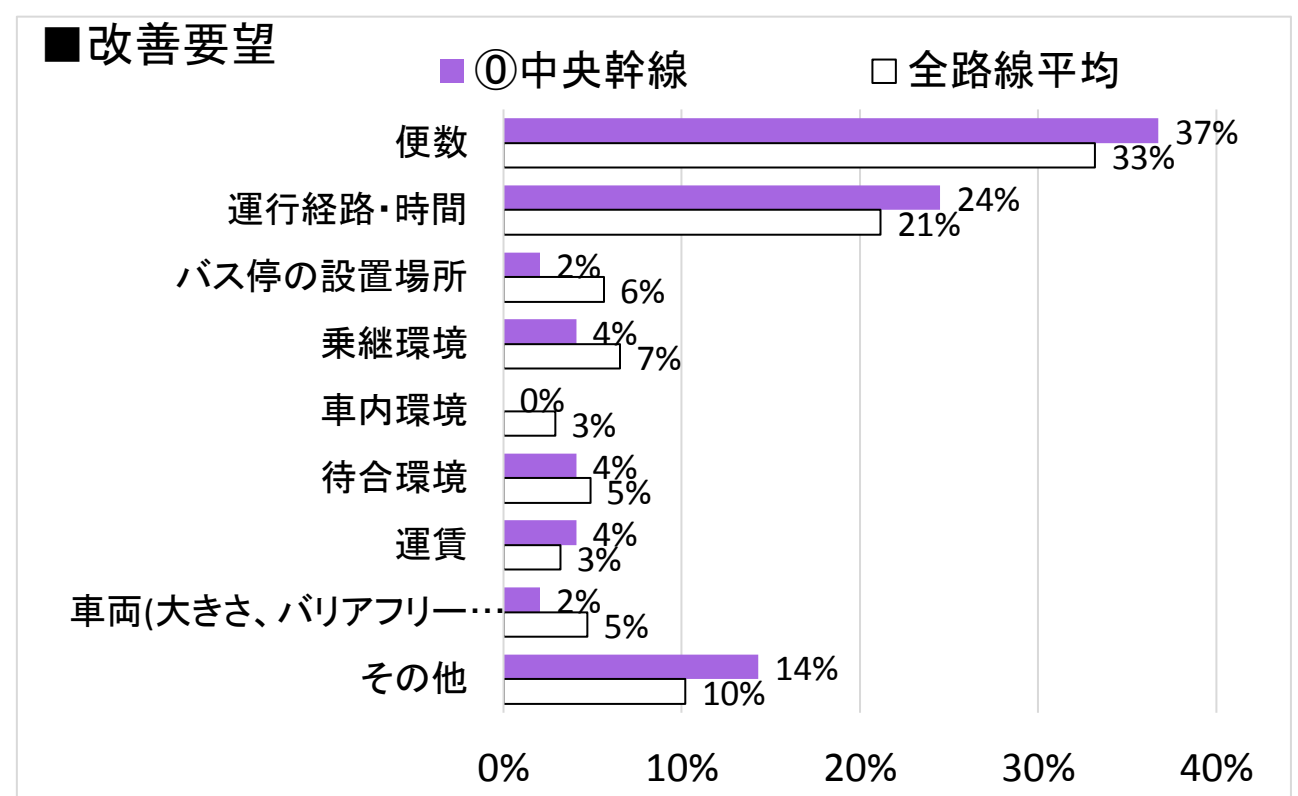
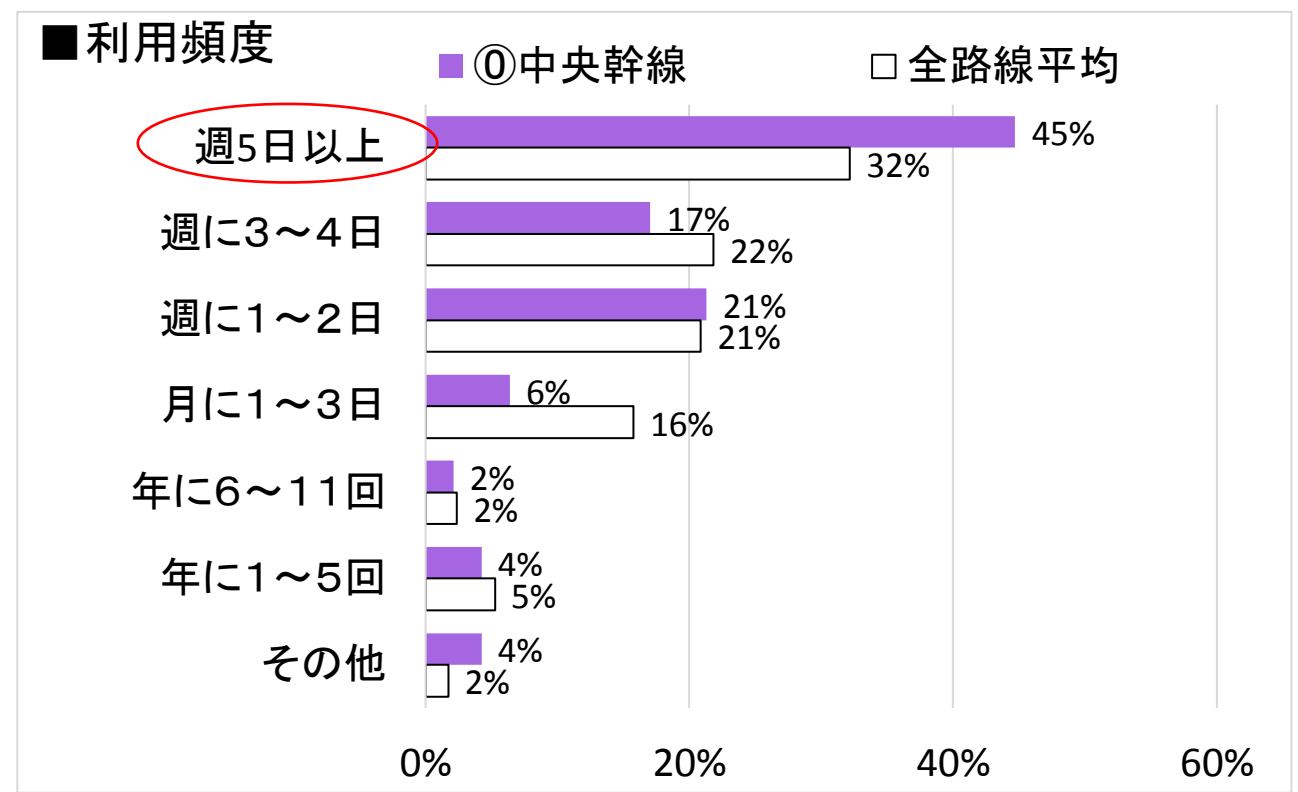
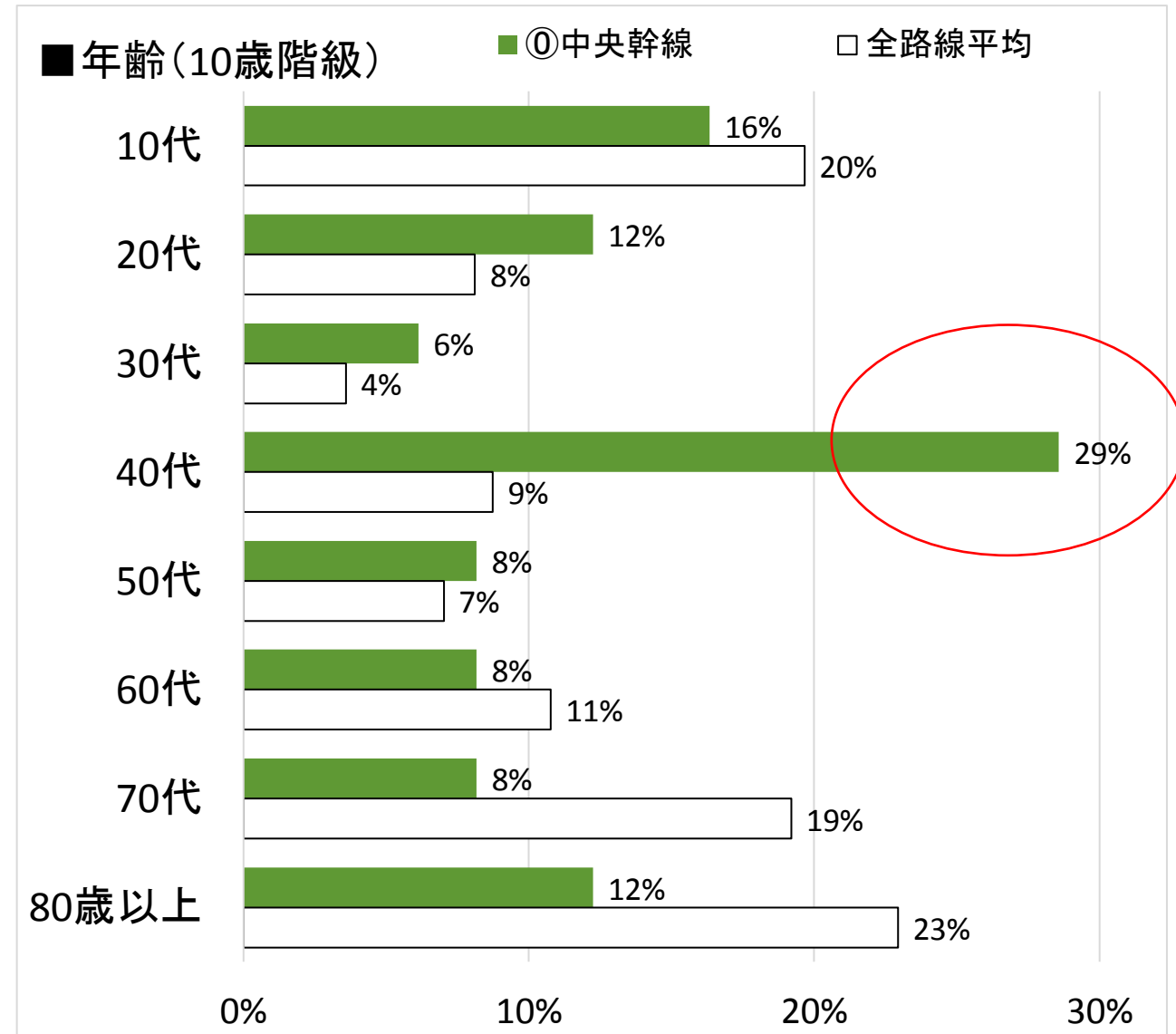
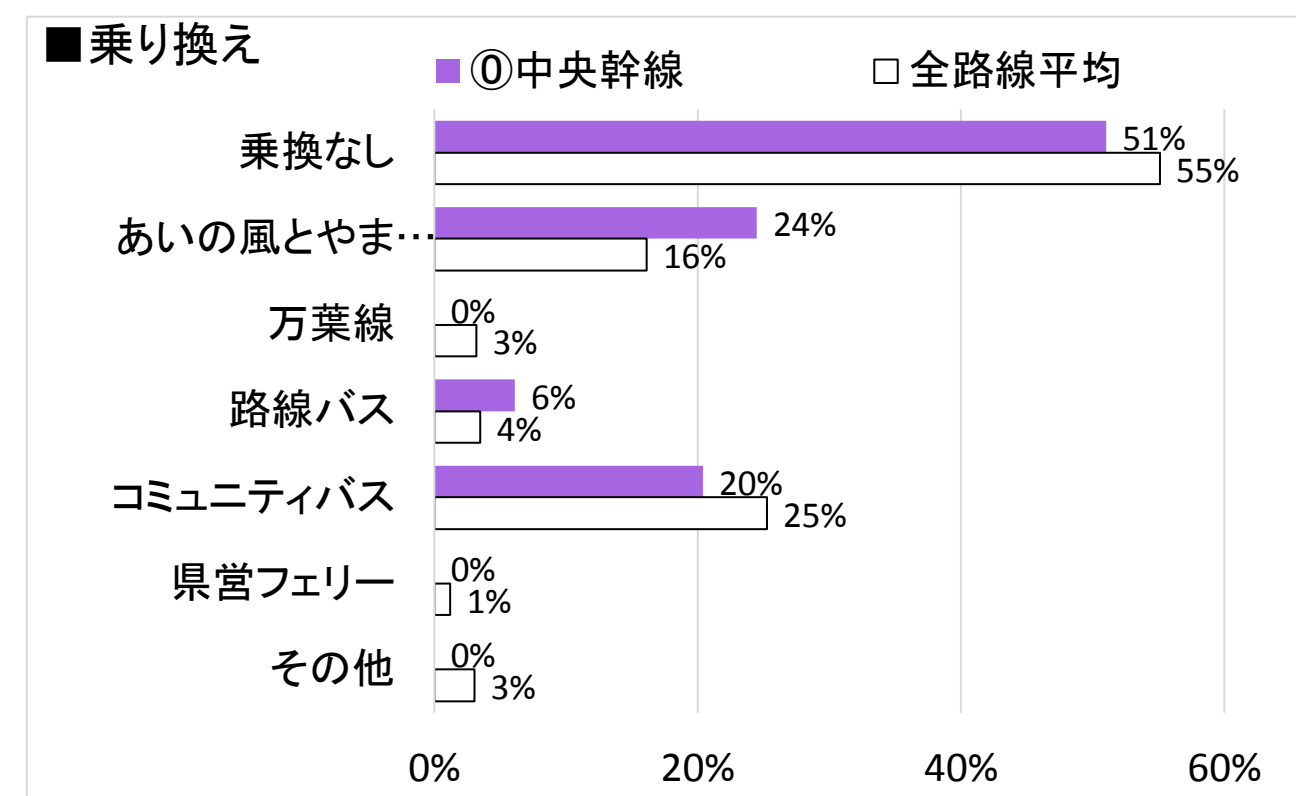
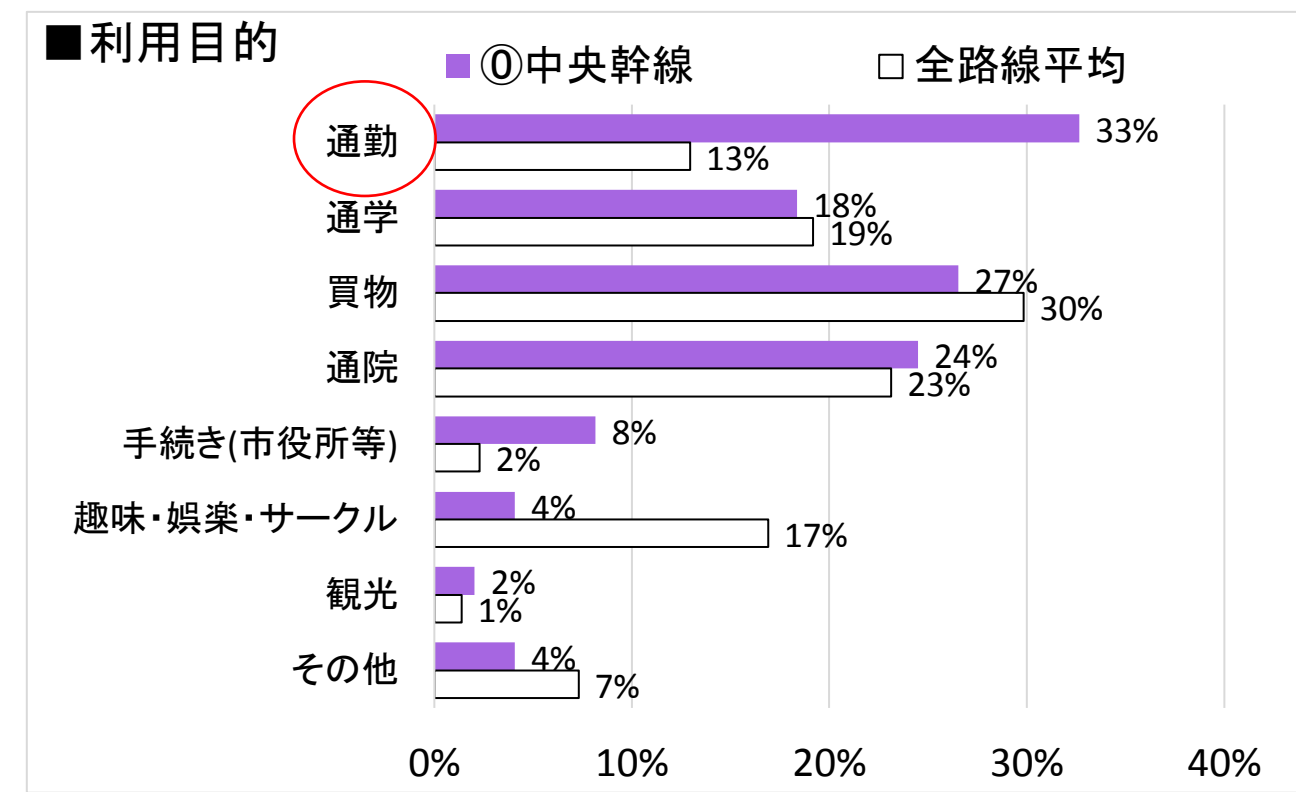
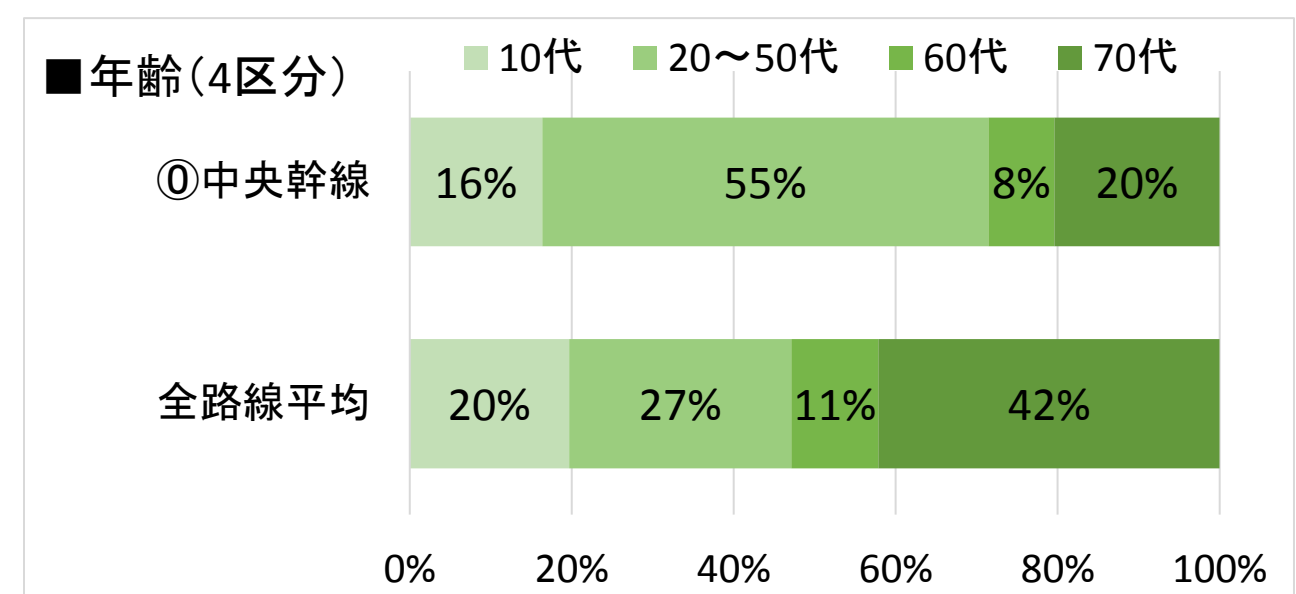
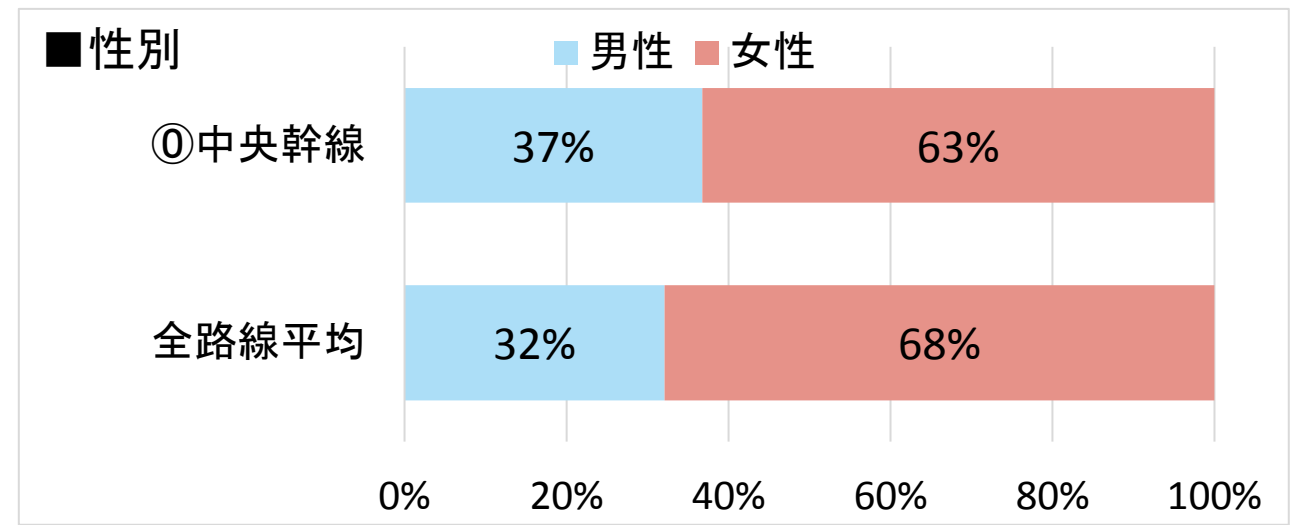


路線別カルテ

①中央幹線

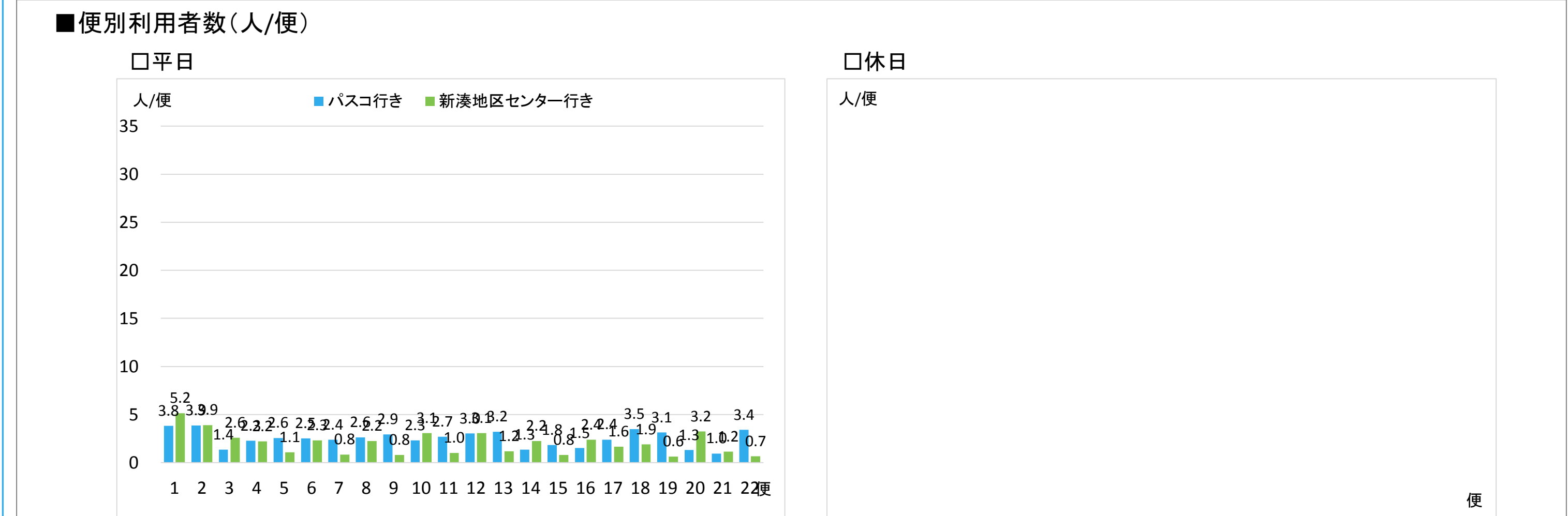
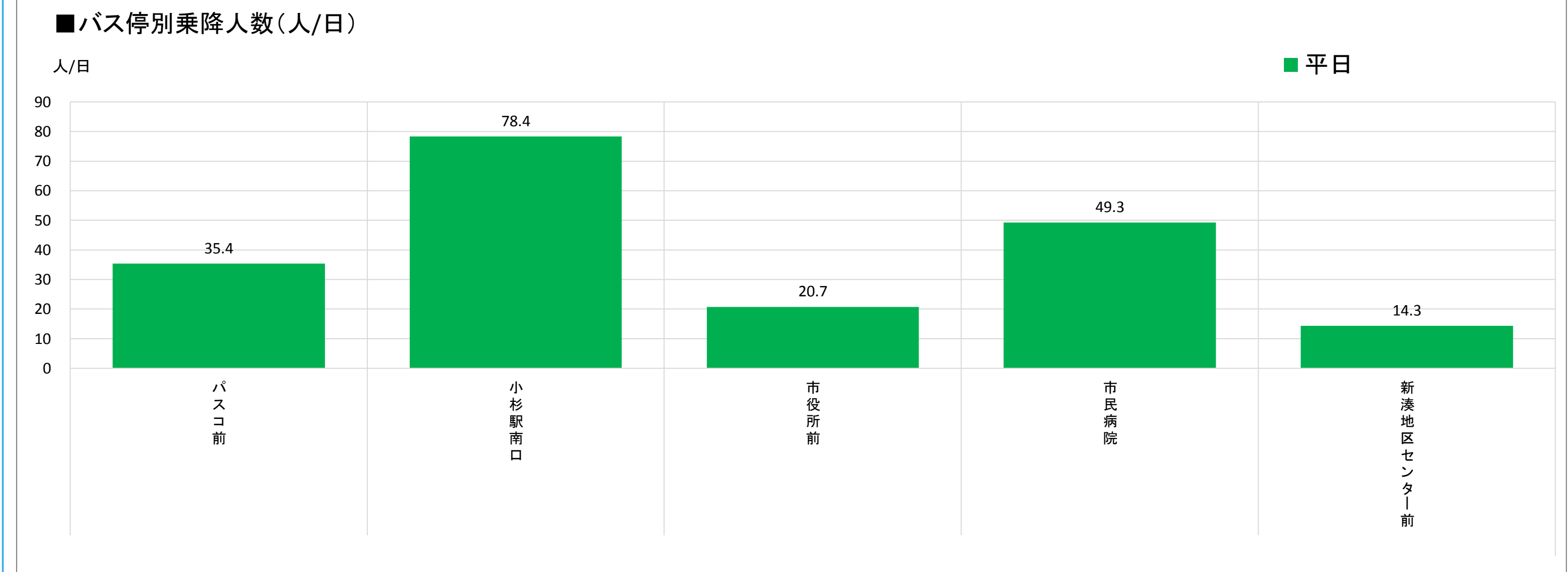
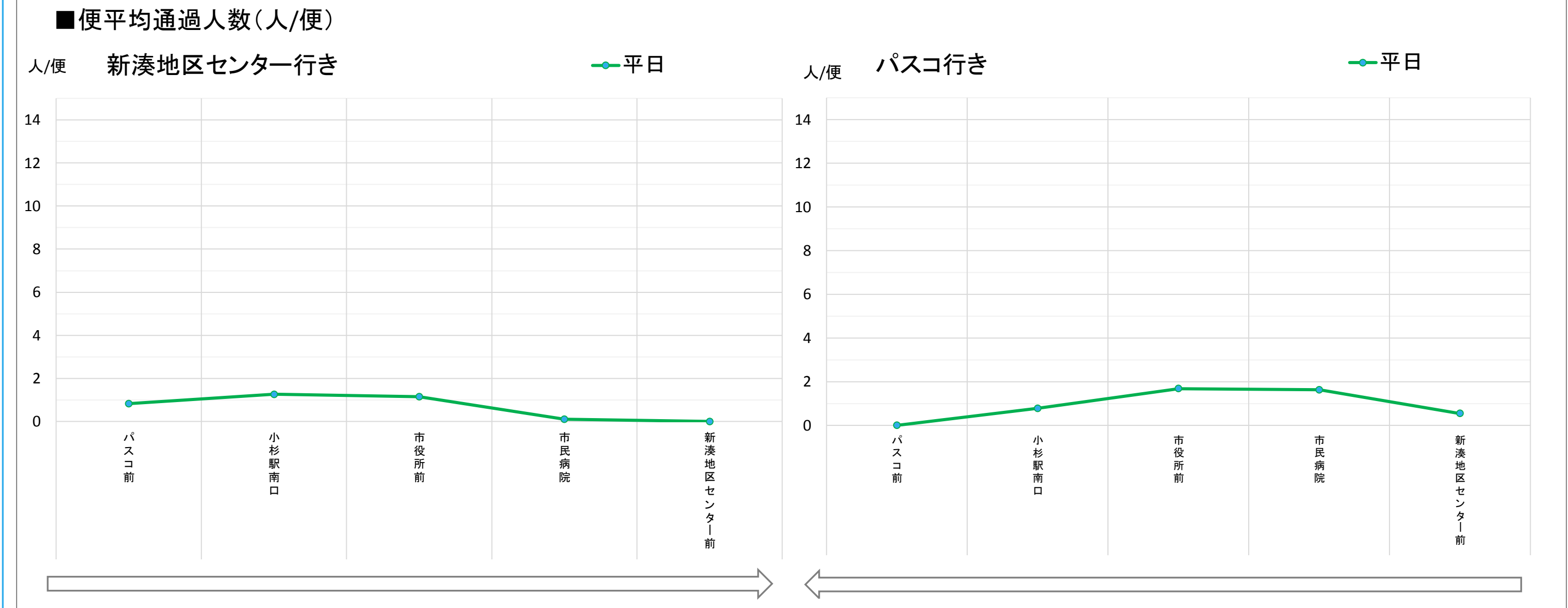
- ・40代を中心とした壮年層による定期的な通勤利用が多い。
- ・近年利用が伸びているものの、便あたりの利用は低く、多くの運行に見合った利用とは言えない
- ・便別の利用状況を見ると、朝の利用は見られるが、日中は利用が少なく、特に新港地区センター行きは1.0人/便を下回る便が多数を占めている。
- ・現状の朝夕の通勤需要の受け皿は確保しつつ、それ以外については路線の大きな見直しが求められる。

○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

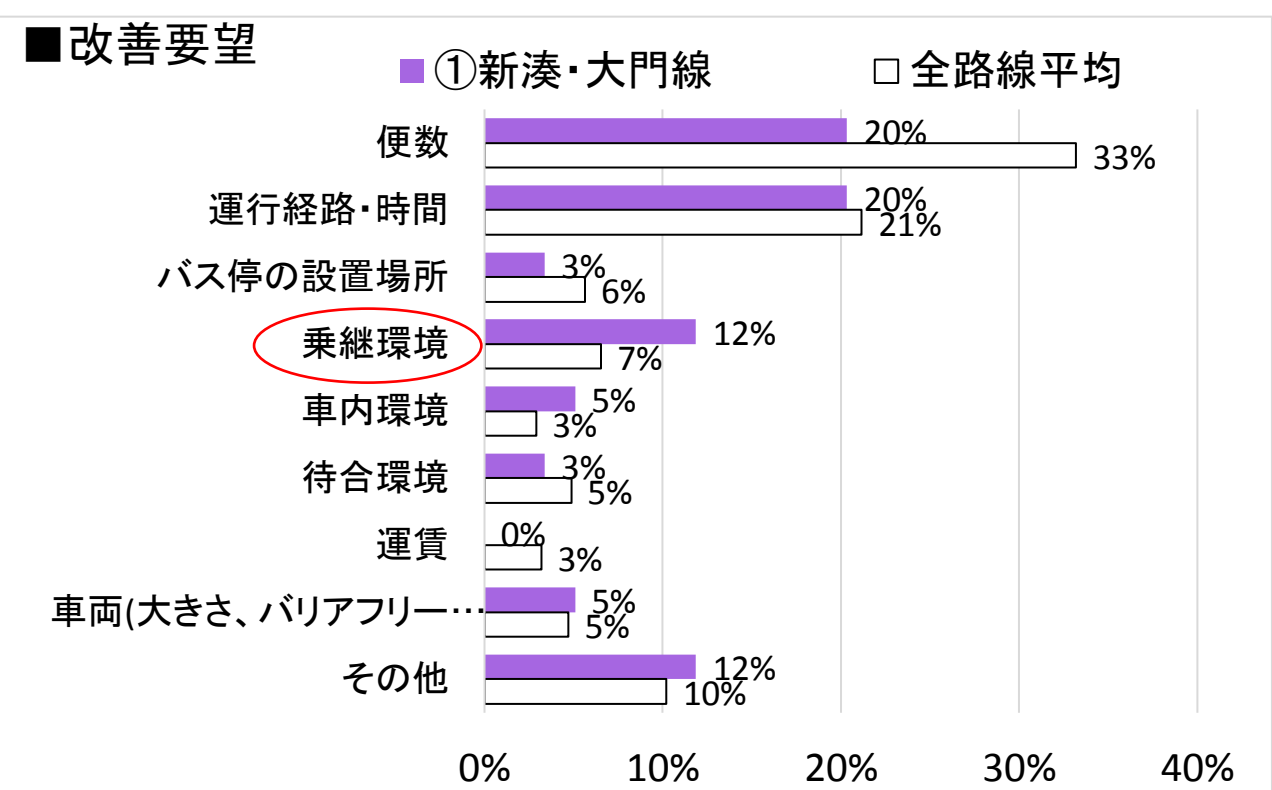
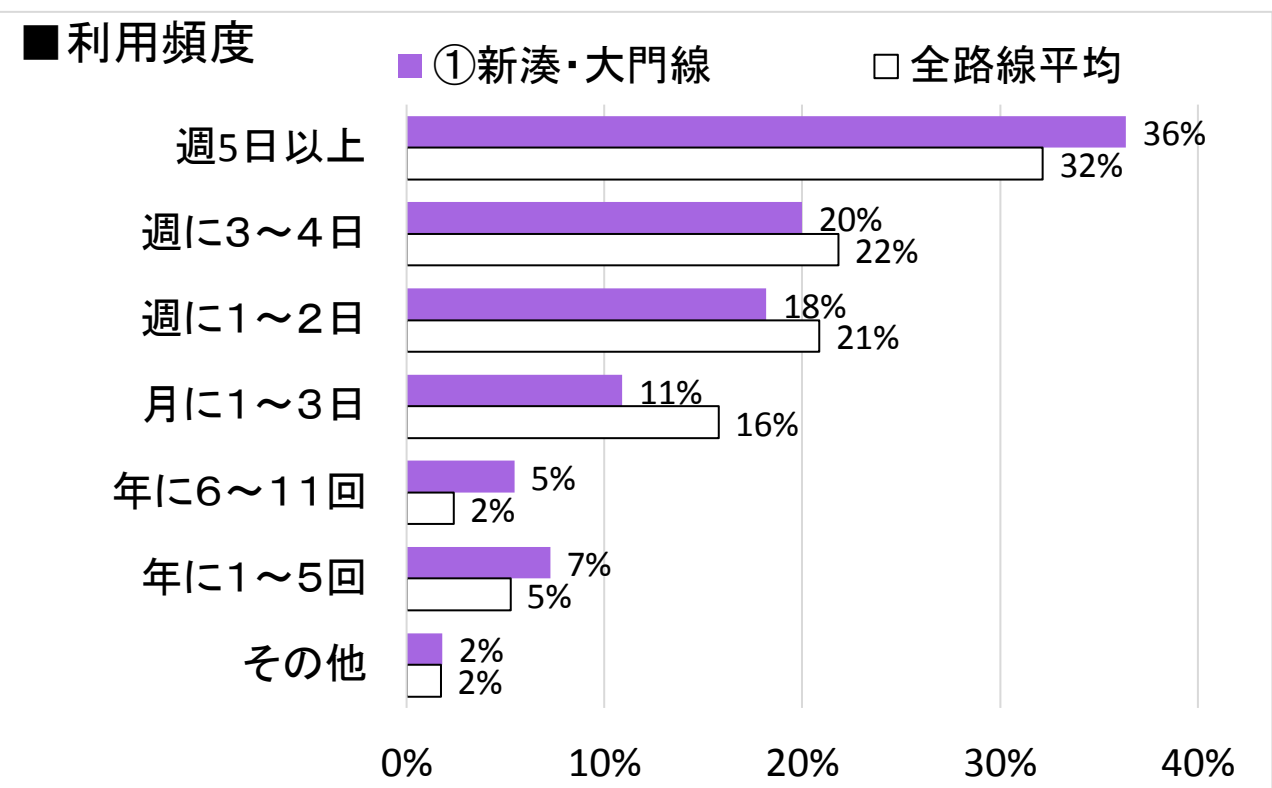
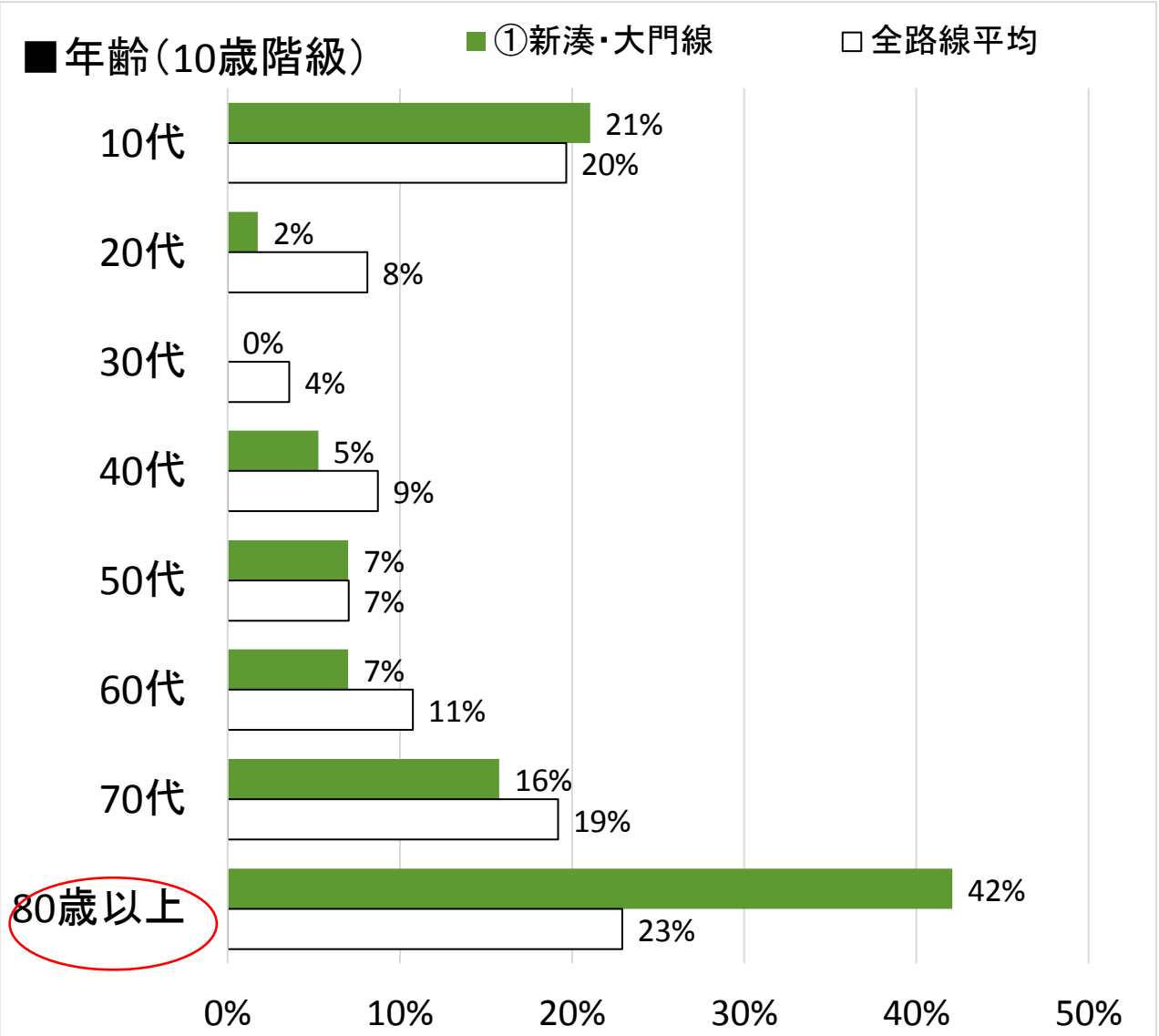
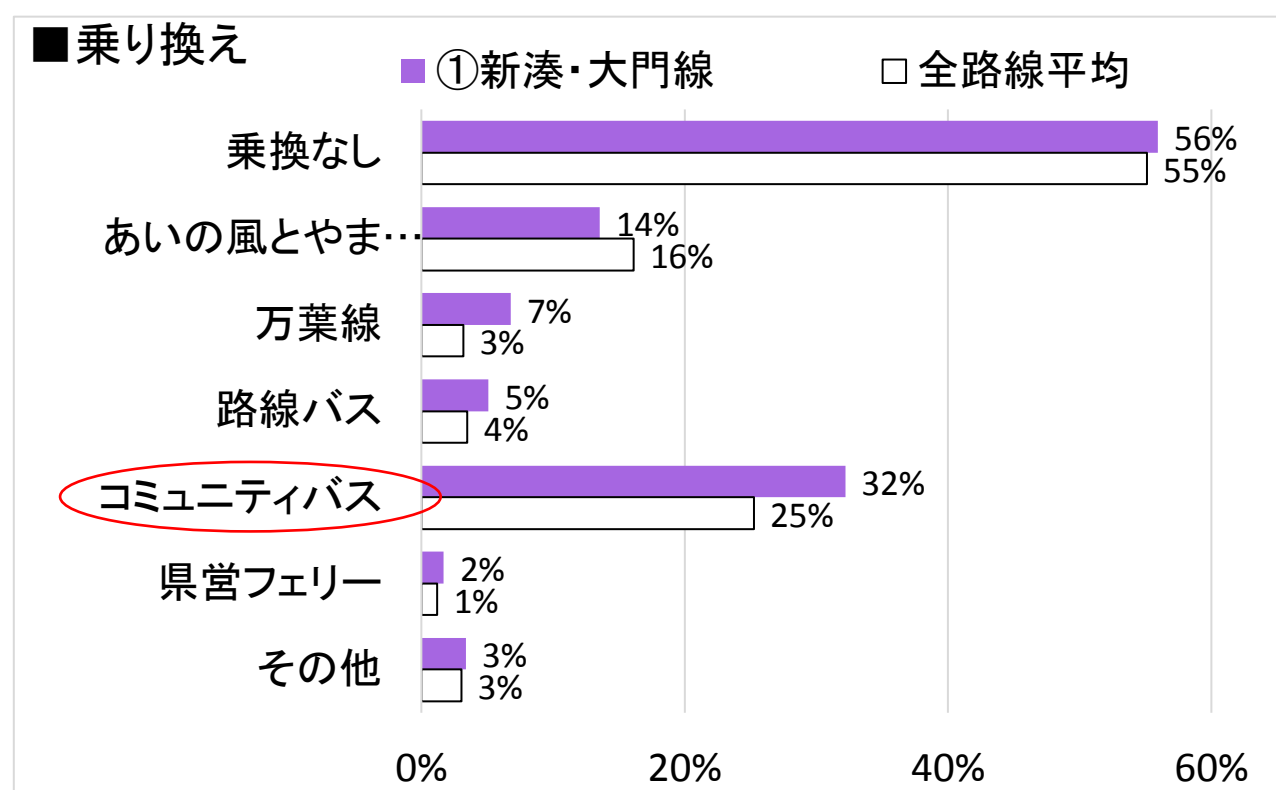
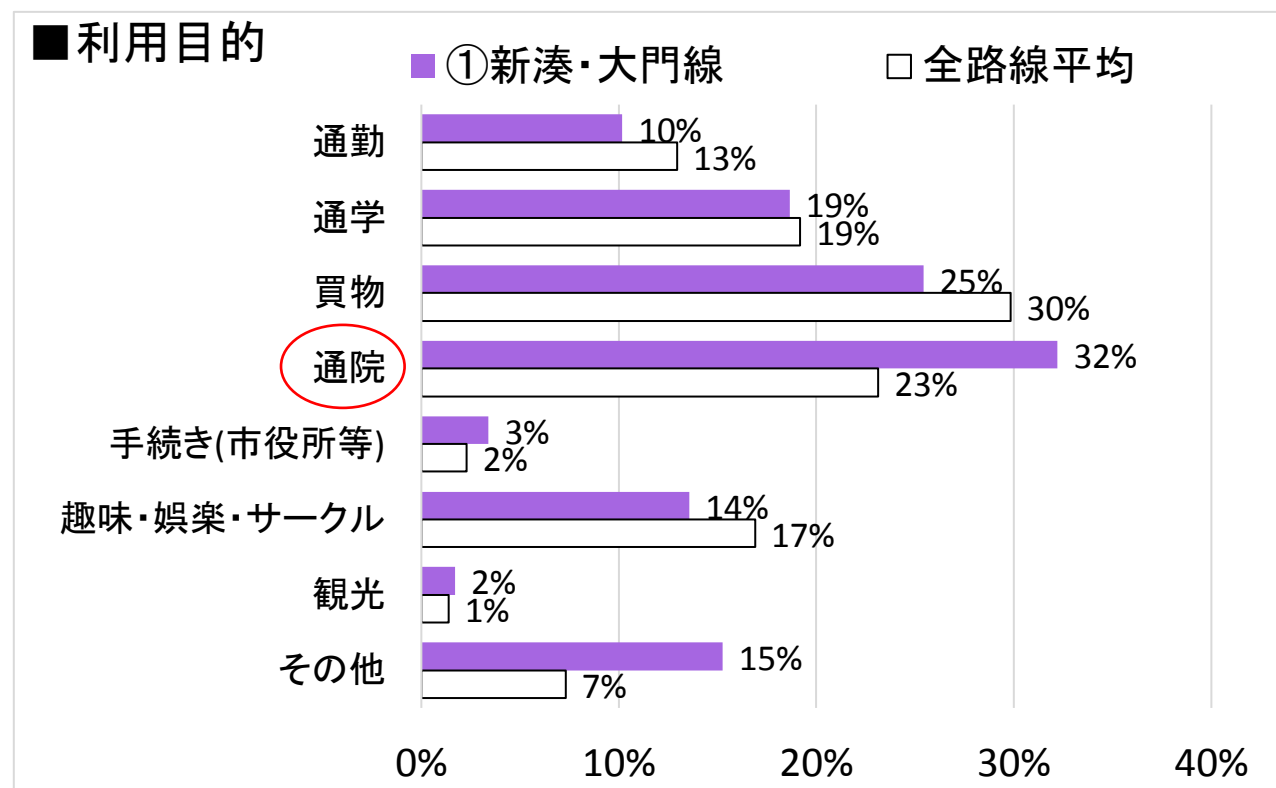
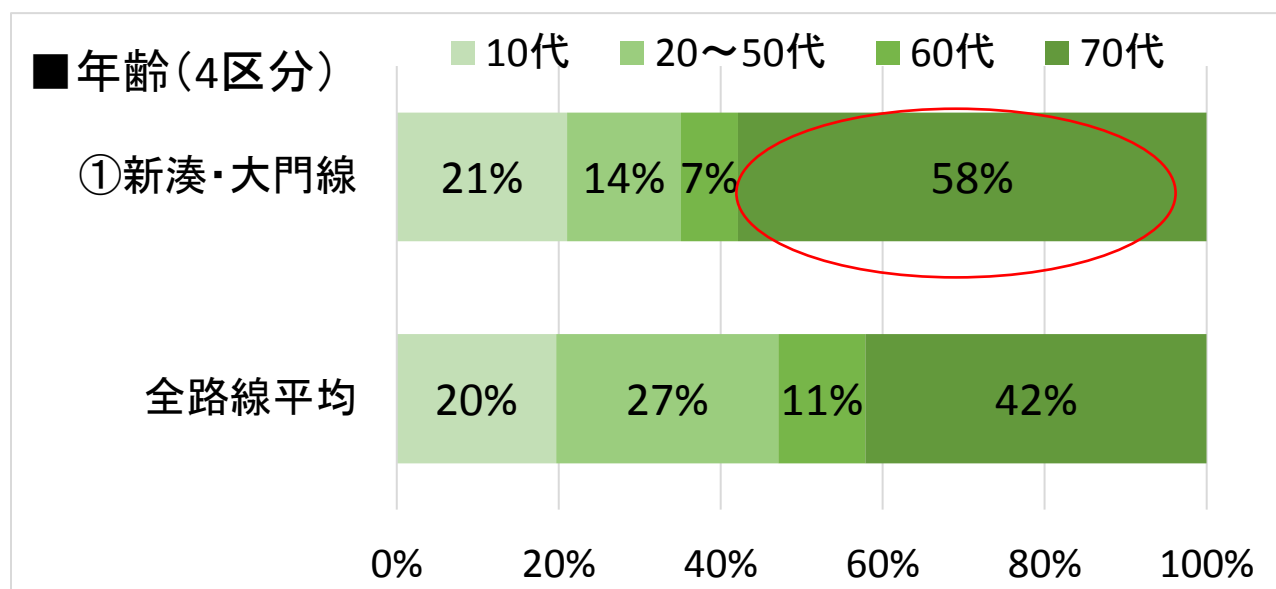
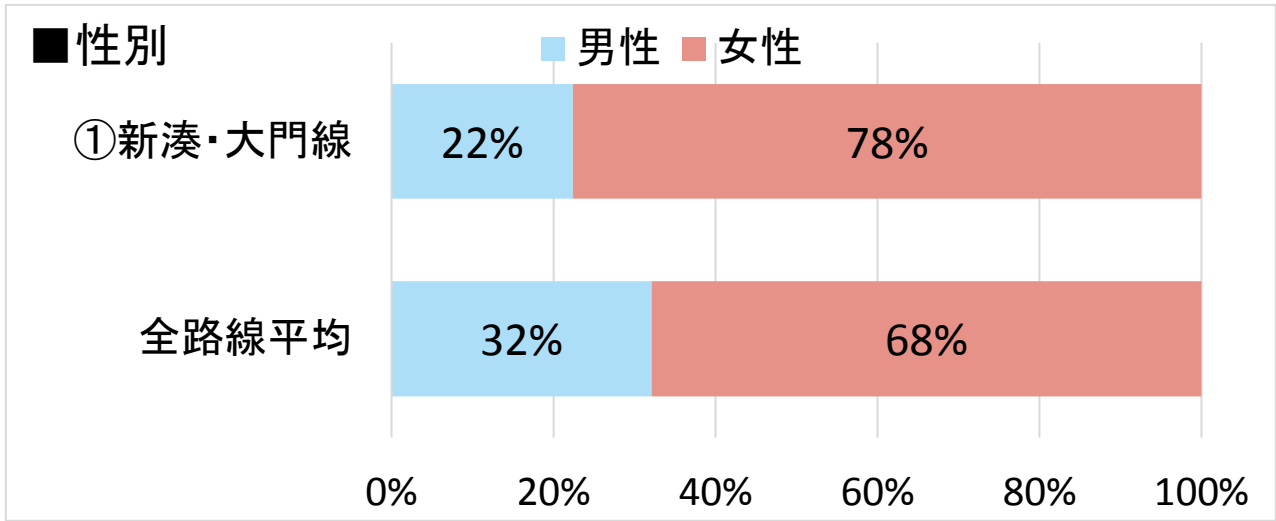
■終日利用者数 (人/日)	平日	休日
	2017	88
	2018	99
伸び率	13%	



①新湊・大門線

- ・高齢者の利用、特に80歳以上の市民病院への通院利用が多い。また、大門高校への通学利用も見られる。
- ・コミュニティバス同士の乗り換え利用も比較的多くみられ、市民病院で乗り換えていると考えられる。
- ・便別の利用状況を見ると、学生利用とみられる第1便の大門方面行きが多いほか、日中便も5人程度の利用が見られる。
- ・運行便数に対する改善要望は全路線平均と比べて低いが、乗継環境への要望が高めである。
- ・長期的には利用が減少傾向であることから、乗継改善などの利便性向上策が必要と考えられる。

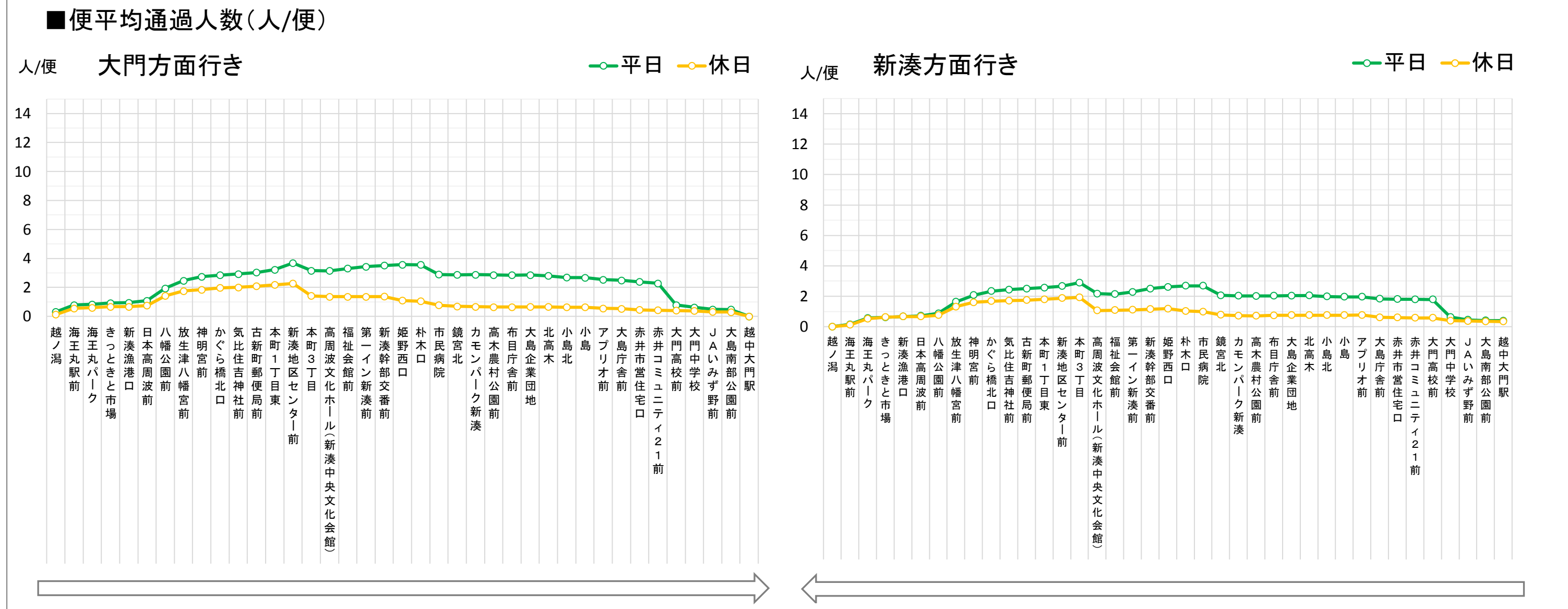
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



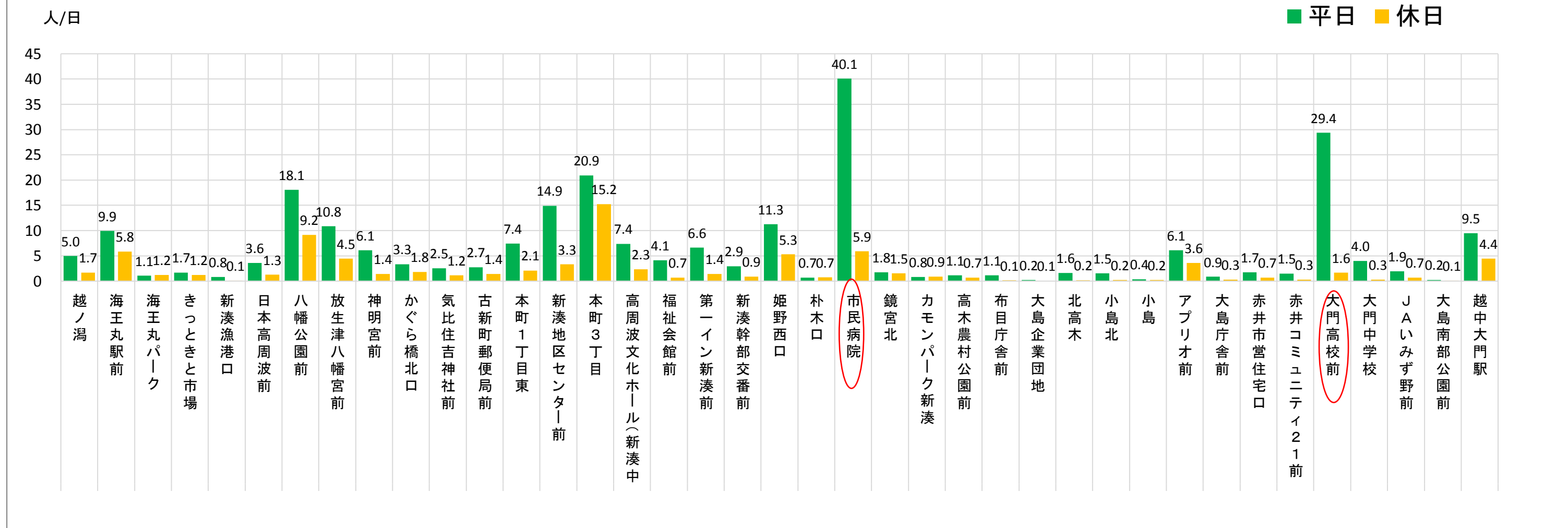
○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数
(人/日)

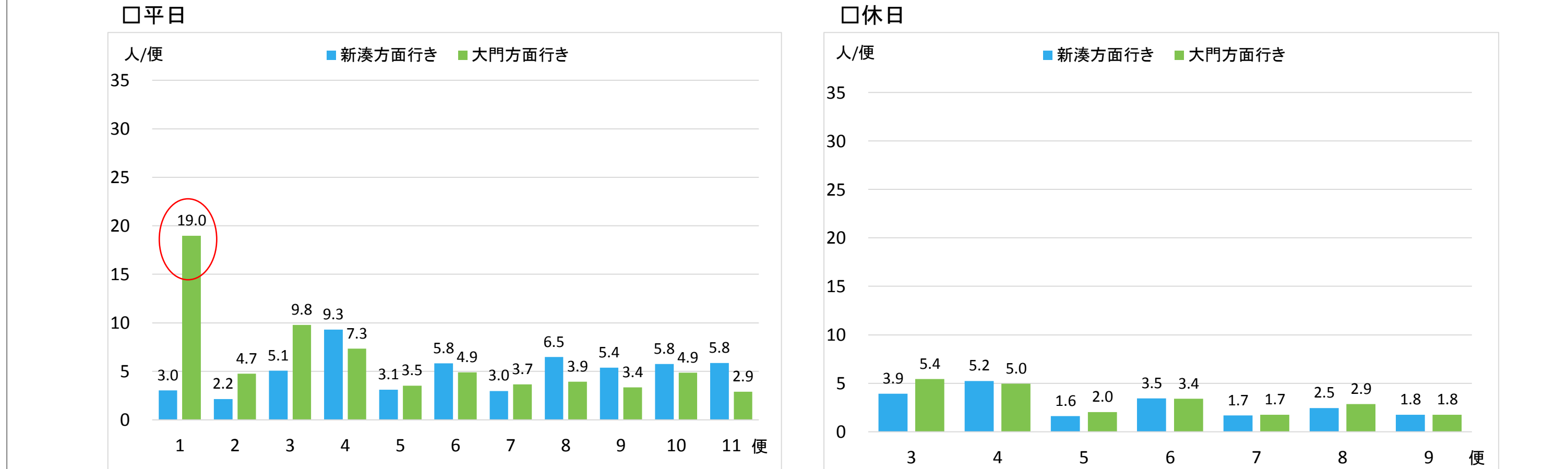
	平日	休日
2017	123	39
2018	123	42
伸び率	0%	0



■バス停別乗降人数(人/日)



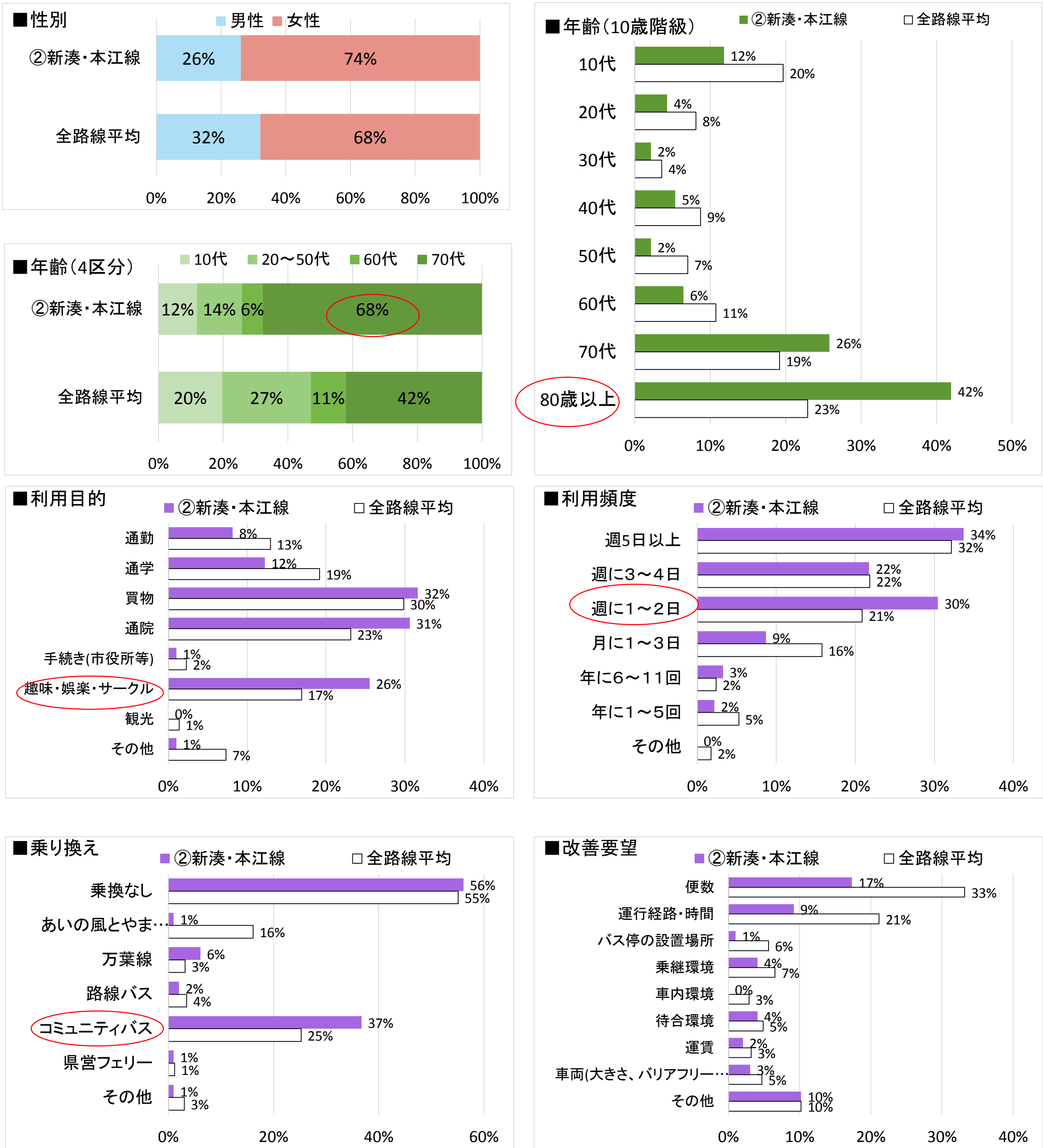
■便別利用者数(人/便)



②新湊・本江線

・70歳以上の高齢者の通院・買物利用が多く、通院先としては市民病院が多い。また、射北中学校への通学利用も見られる。
・コミュニティバス同士の乗り換え利用も比較的多くみられ、市民病院で乗り換えていると考えられる。
・便別の利用状況を見ると、学生利用とみられる第1便利用が多いほか、日中便も10人程度の安定した利用が見られる。
・改善要望も全路線平均と比べて総じて低く、満足度が高い状態と考えられる。
・比較利用が多くニーズに合っている一方、長期的には利用が減少傾向であることから、情報提供強化や意識啓発活動等などの利用促進活動を継続実施する必要がある。

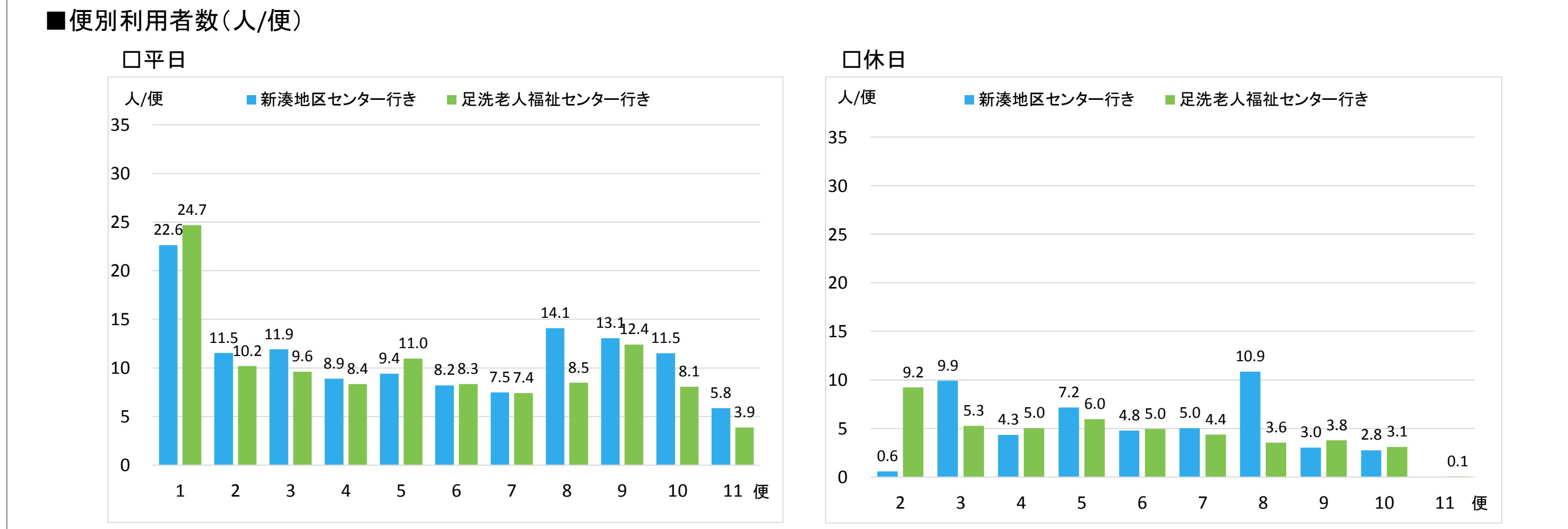
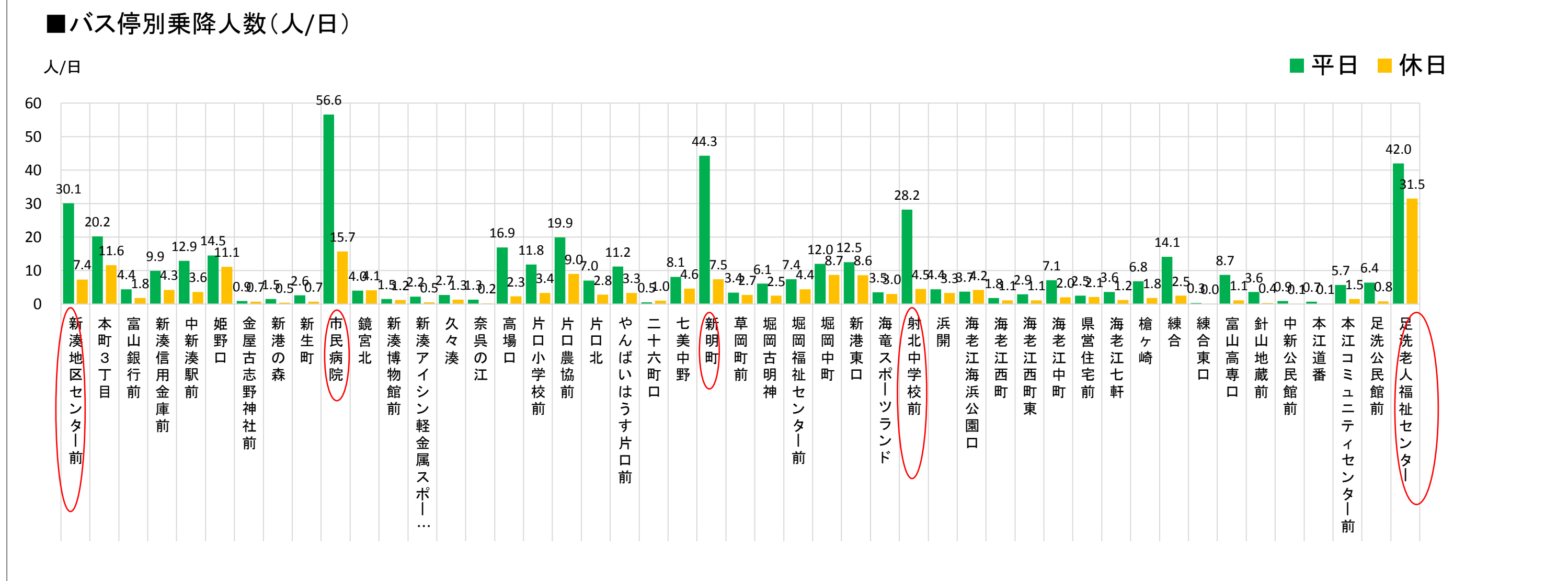
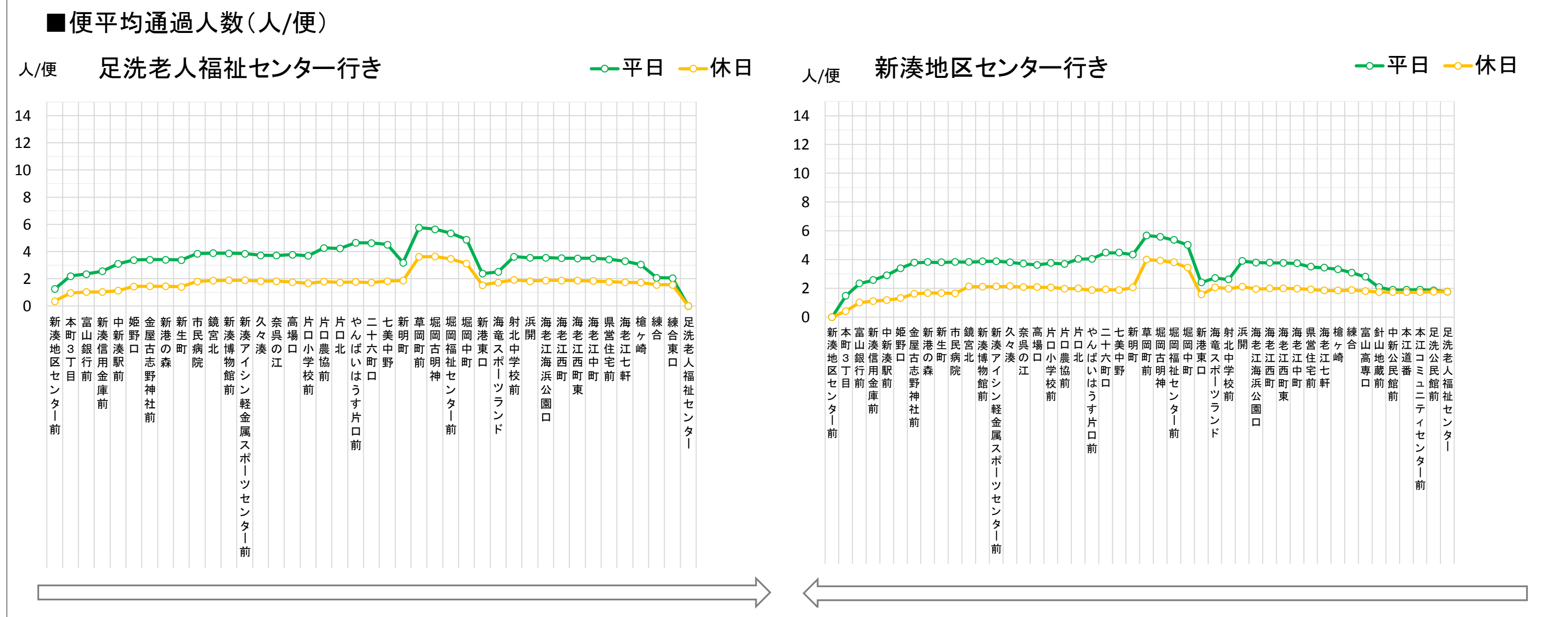
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

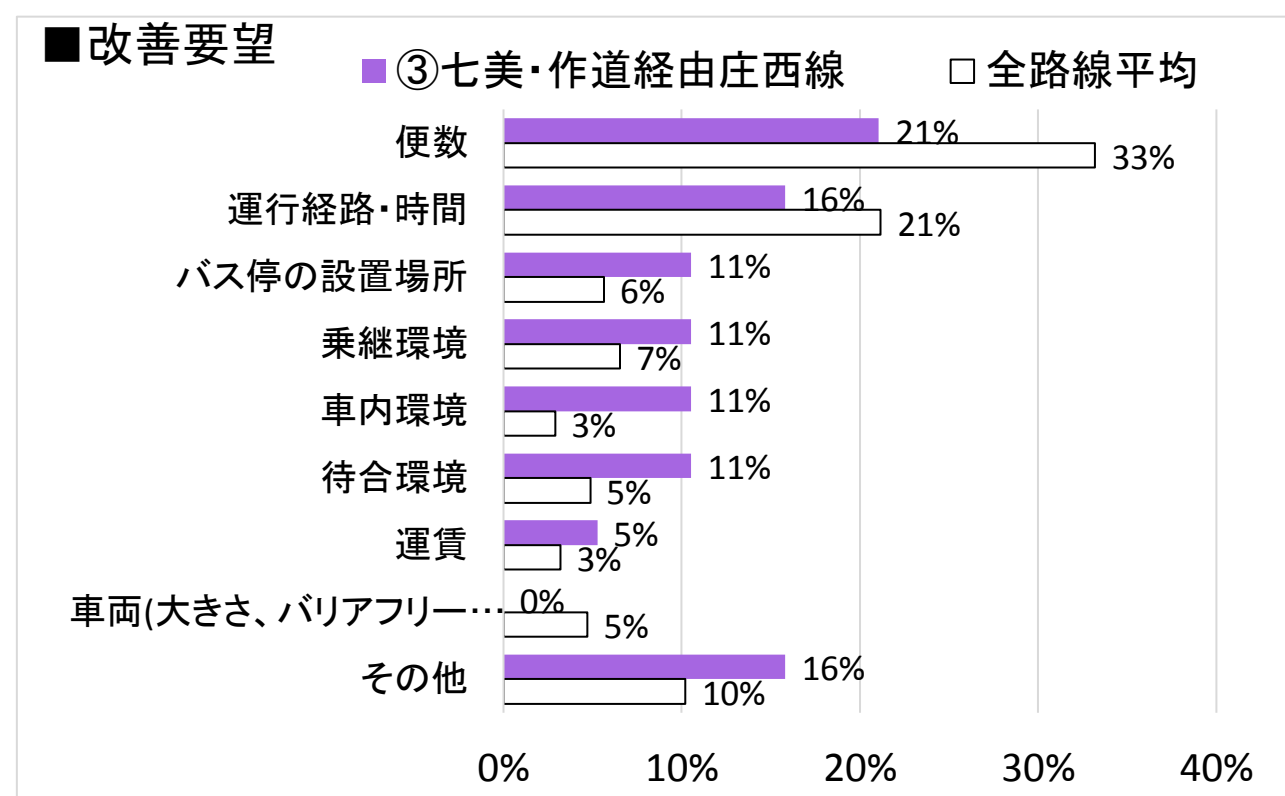
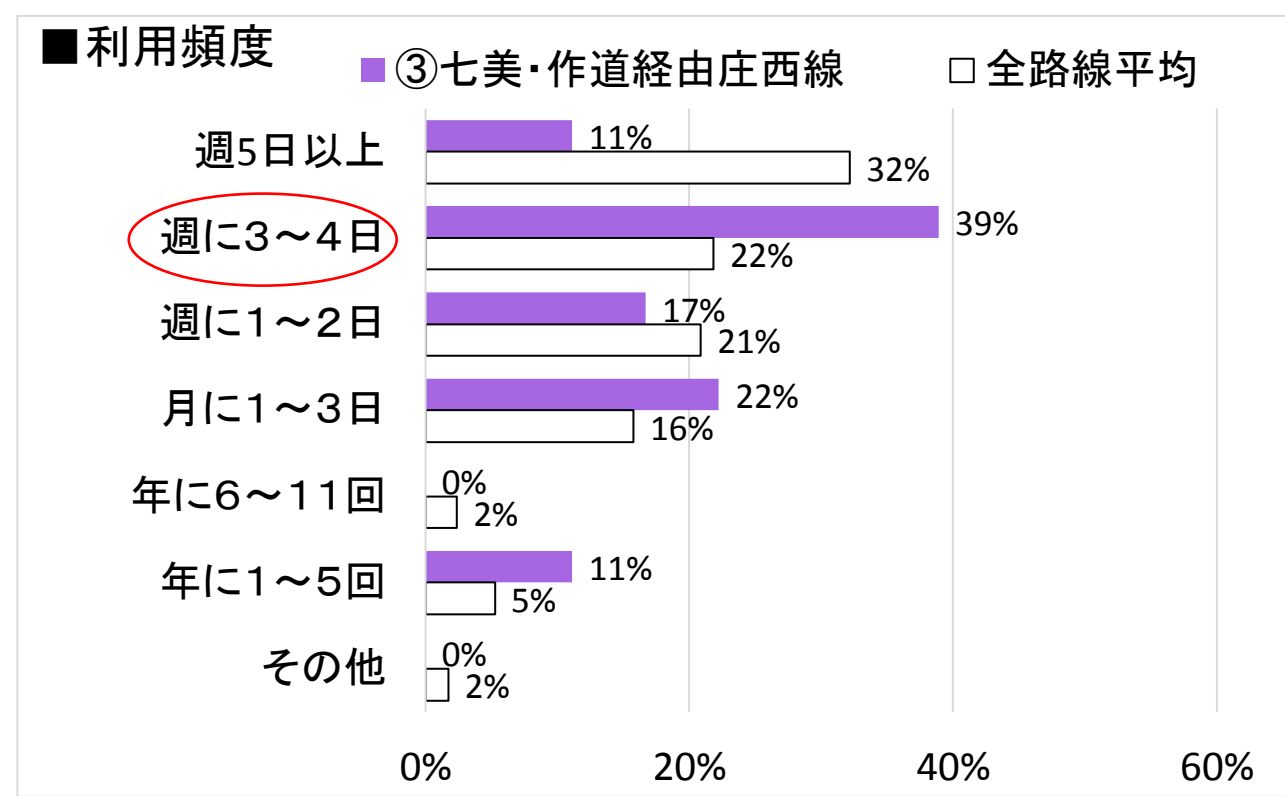
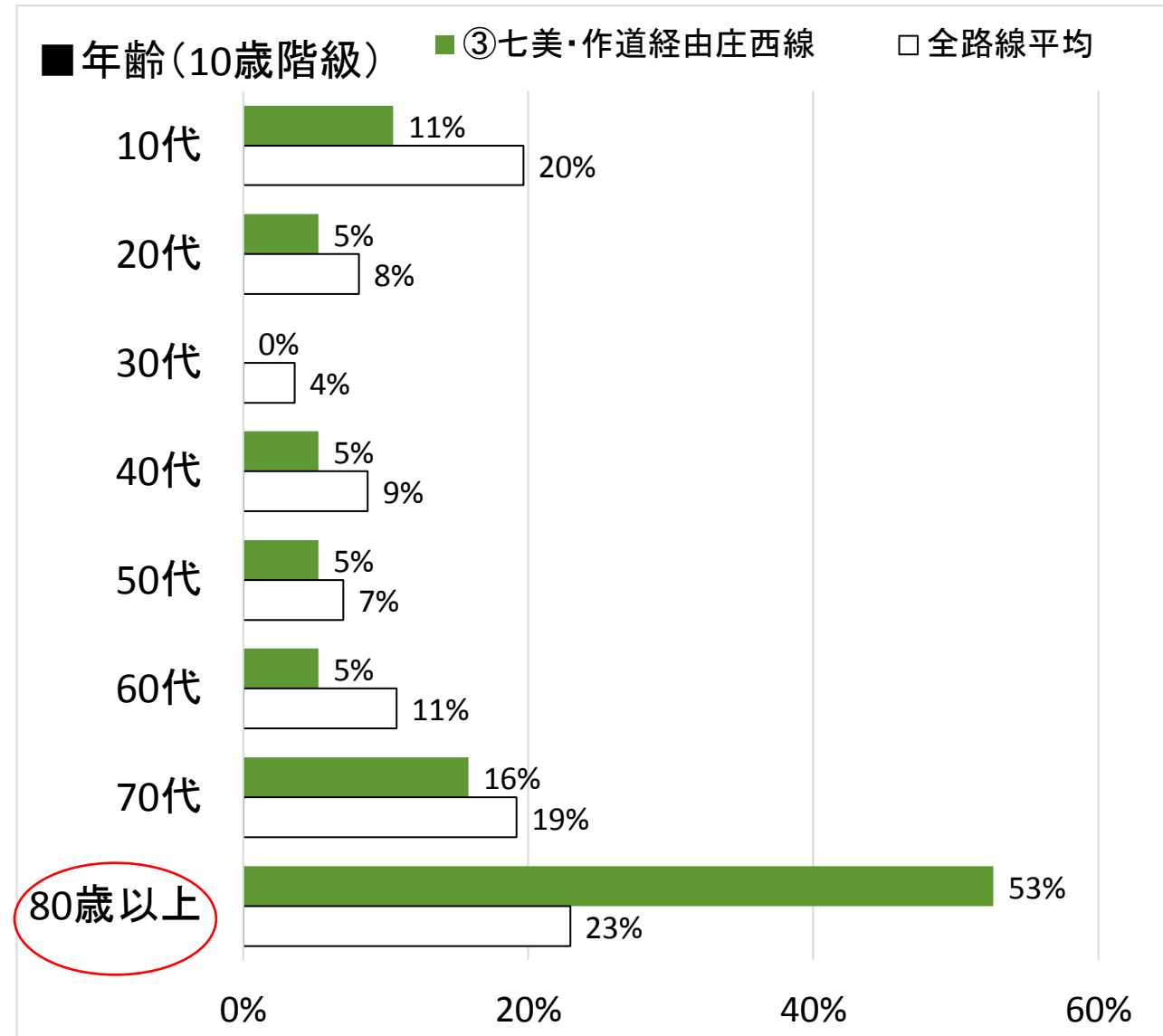
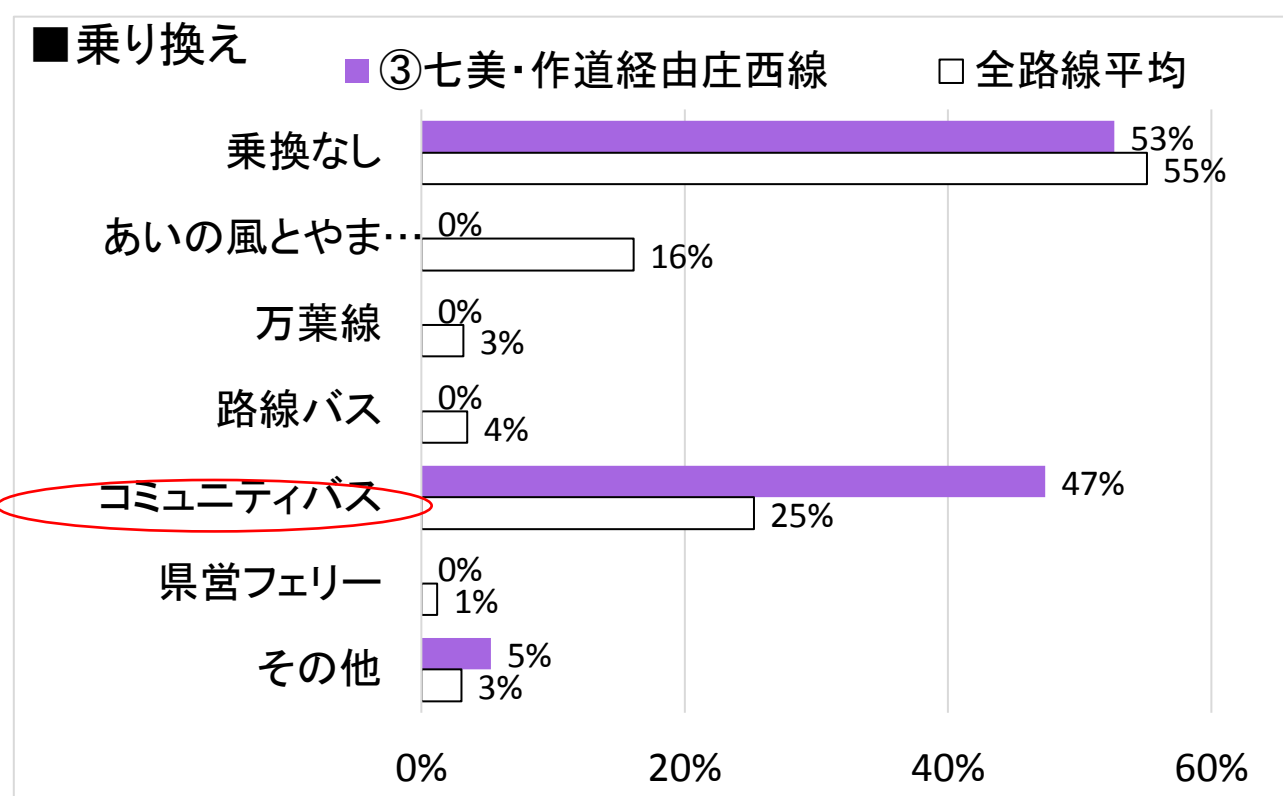
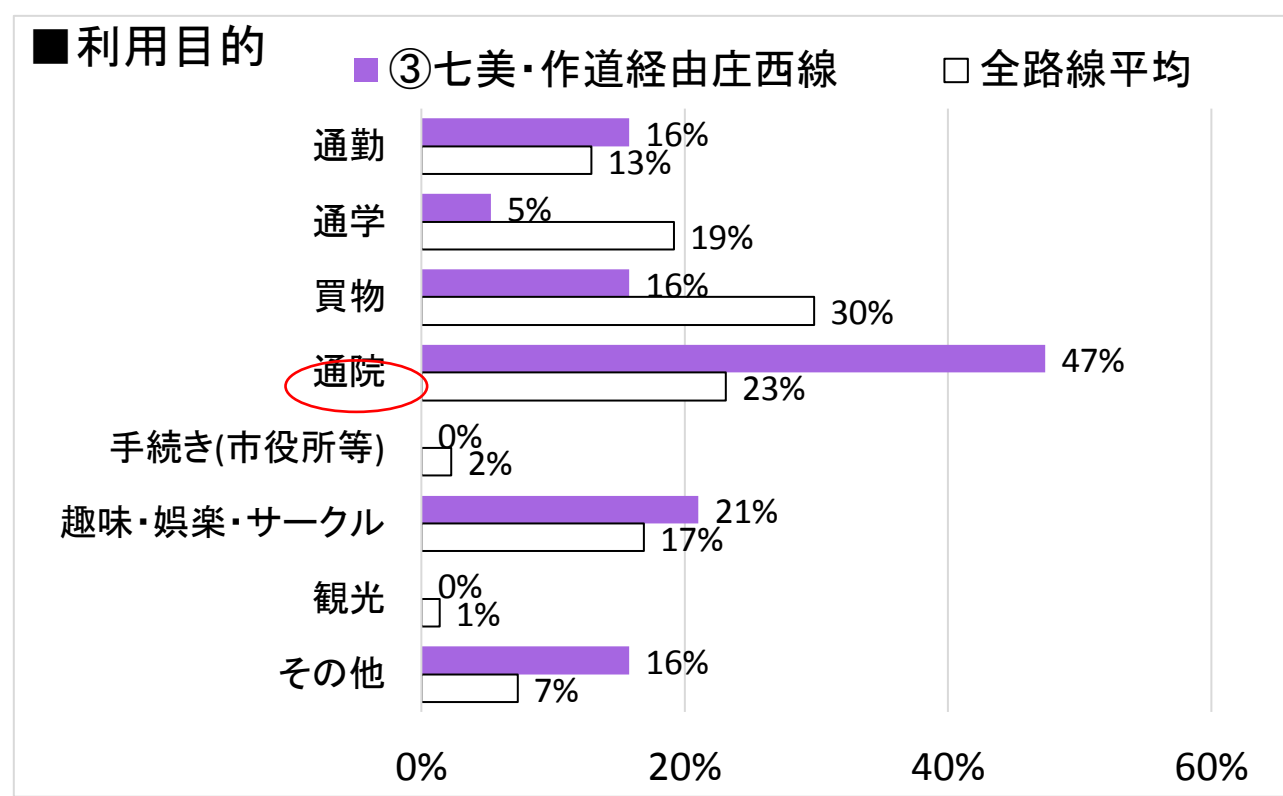
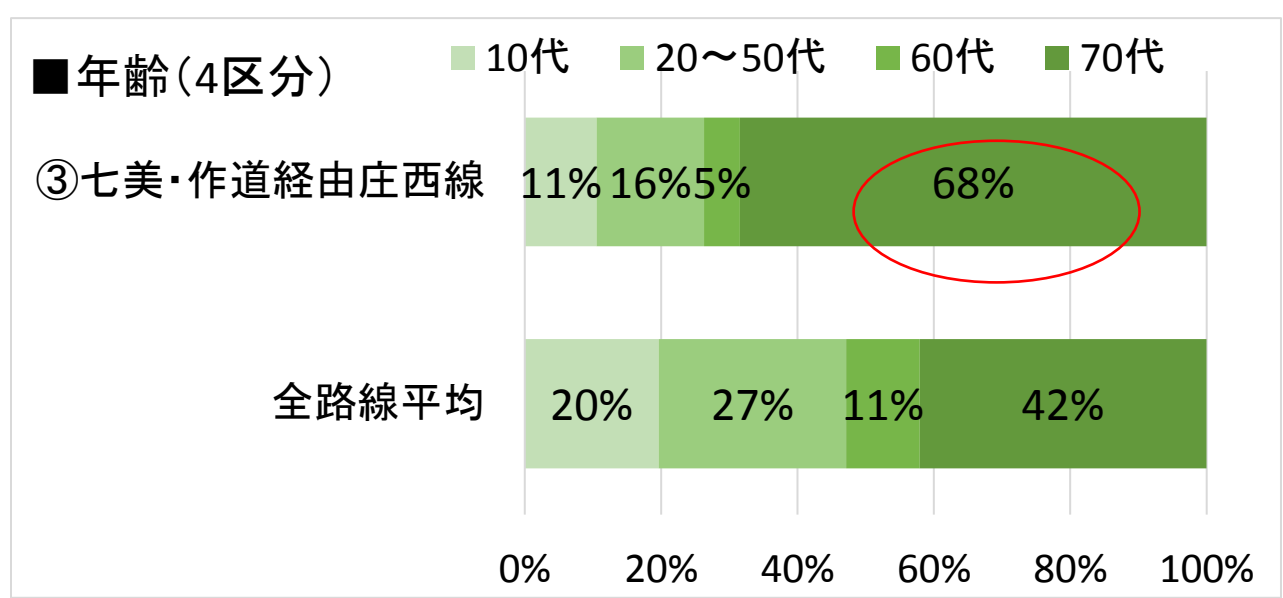
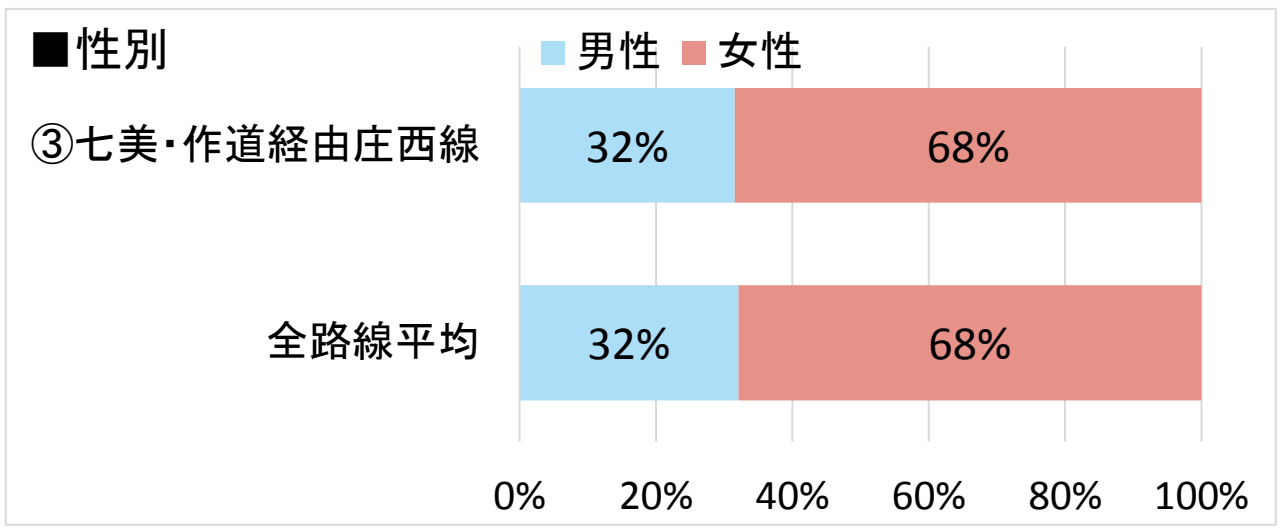
	平日	休日
2017	241	98
2018	237	94
伸び率	-2%	-0



③七美・作道經由庄西線

- ・80歳以上の高齢者の通院利用が多く、通院先としてはは市民病院が多い。
- ・コミュニティバス同士の乗り換え利用も比較的多くみられ、市民病院で乗り換えていると考えられる。
- ・便別にみると、朝夕は5人程度の利用が見られるが、その他の便は2人程度と低調である。
- ・直近で利用者数は少し回復したが、長期的には大きく減少傾向が続いており、路線の見直しも含めた対策が必要である。

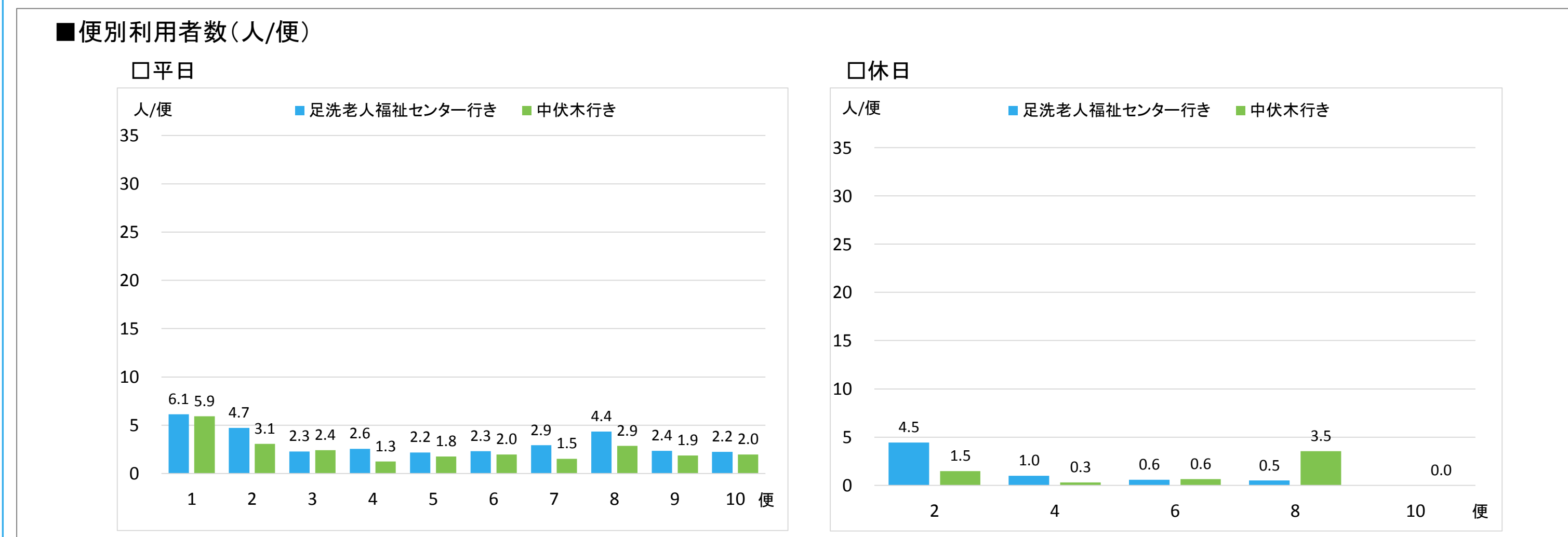
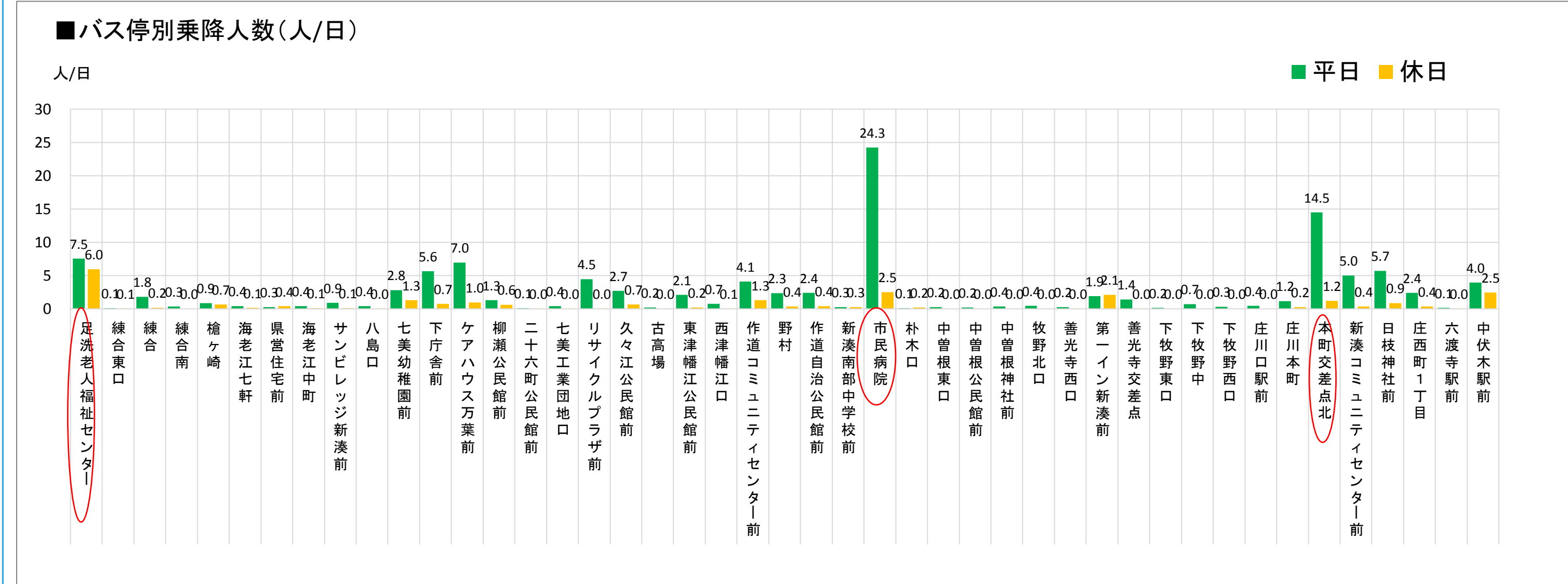
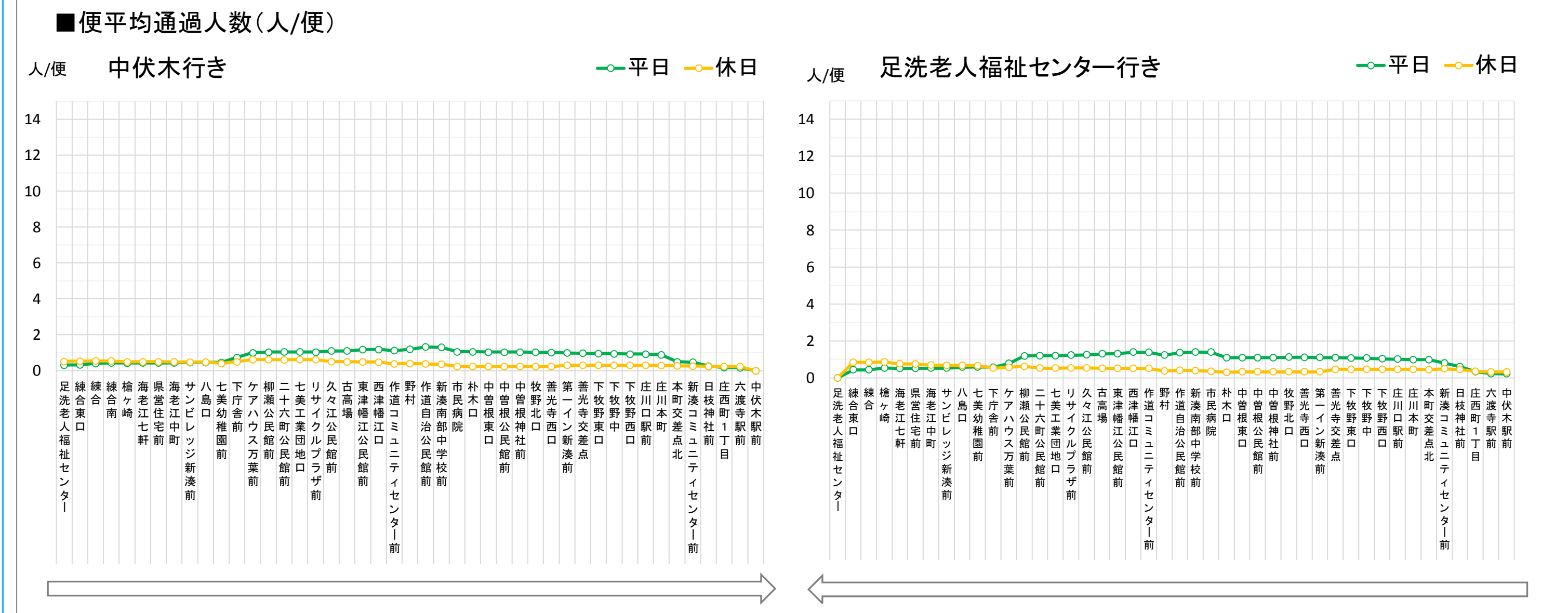
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

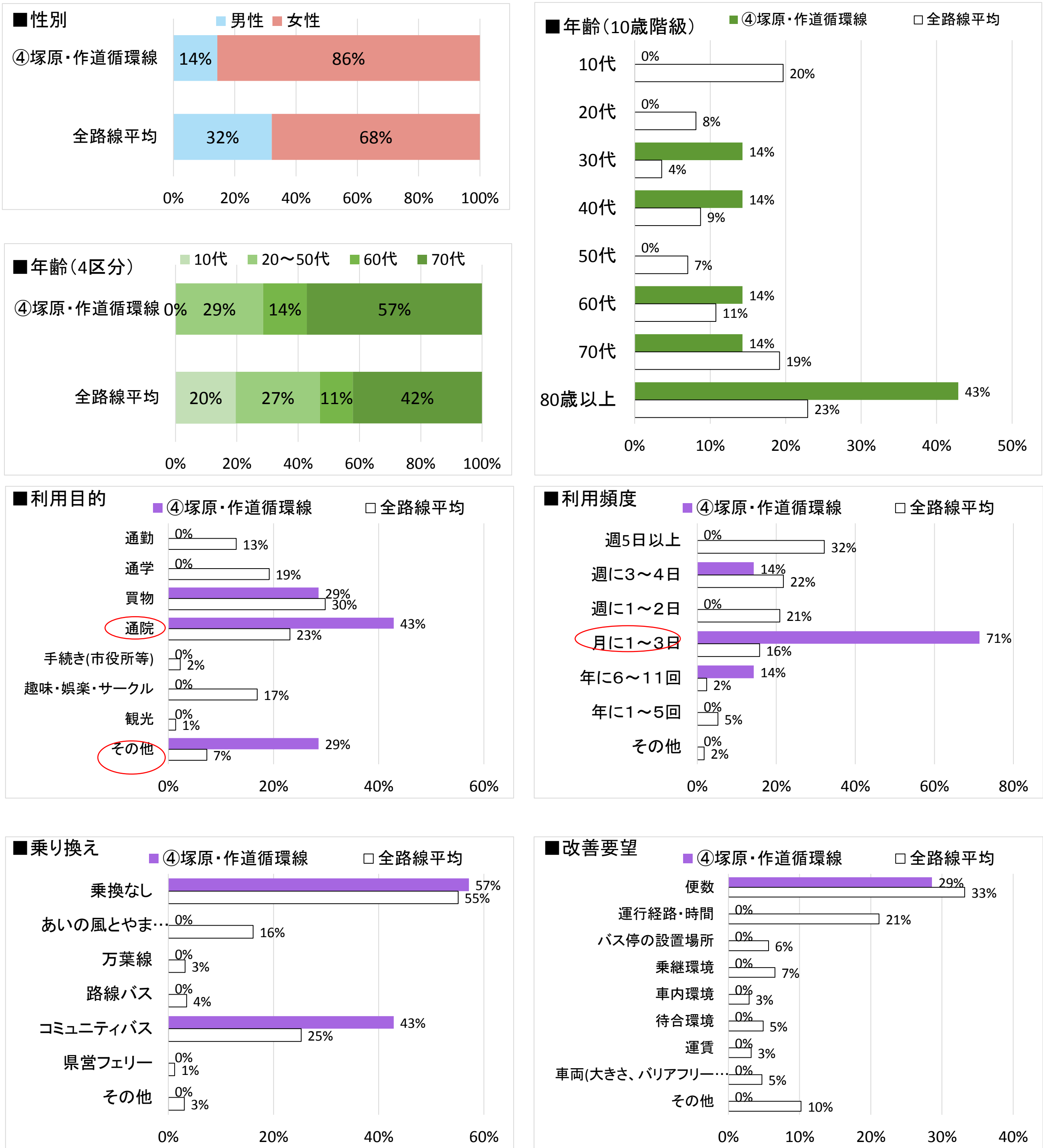
	平日	休日
2017	53	10
2018	57	12
伸び率	7%	0



④塚原・作道循環線

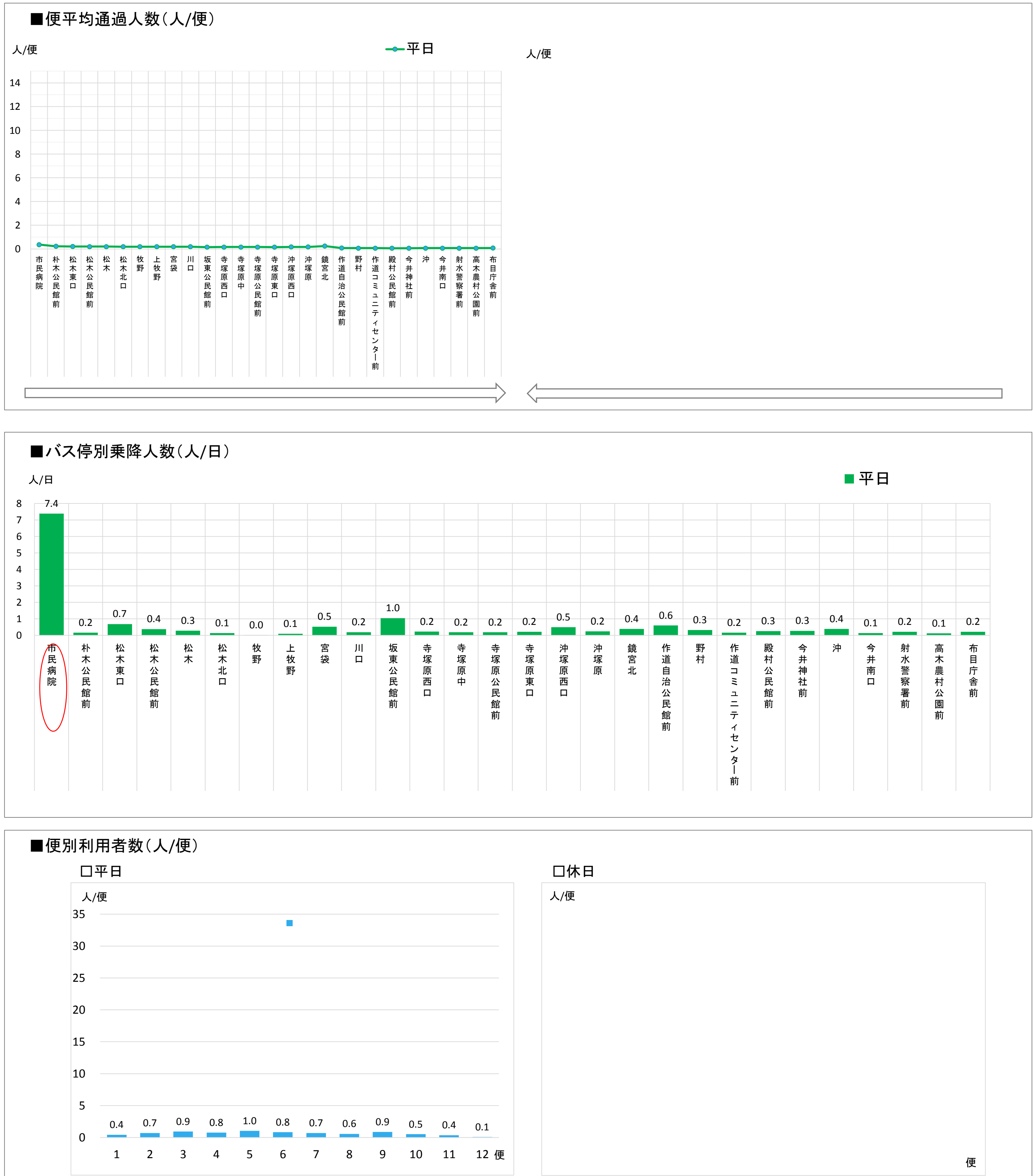
・80歳以上の高齢者の通院利用が多く、通院先としてはは市民病院が多い。一方、他路線と比べて週1回以上の高頻度利用者が少なく、低頻度利用者の割合が高い。
・長期的に利用者は大きな減少傾向であり、利用状況も全区間・全便通して極めて低調であり、抜本的な見直しが必要と考えられる。

○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

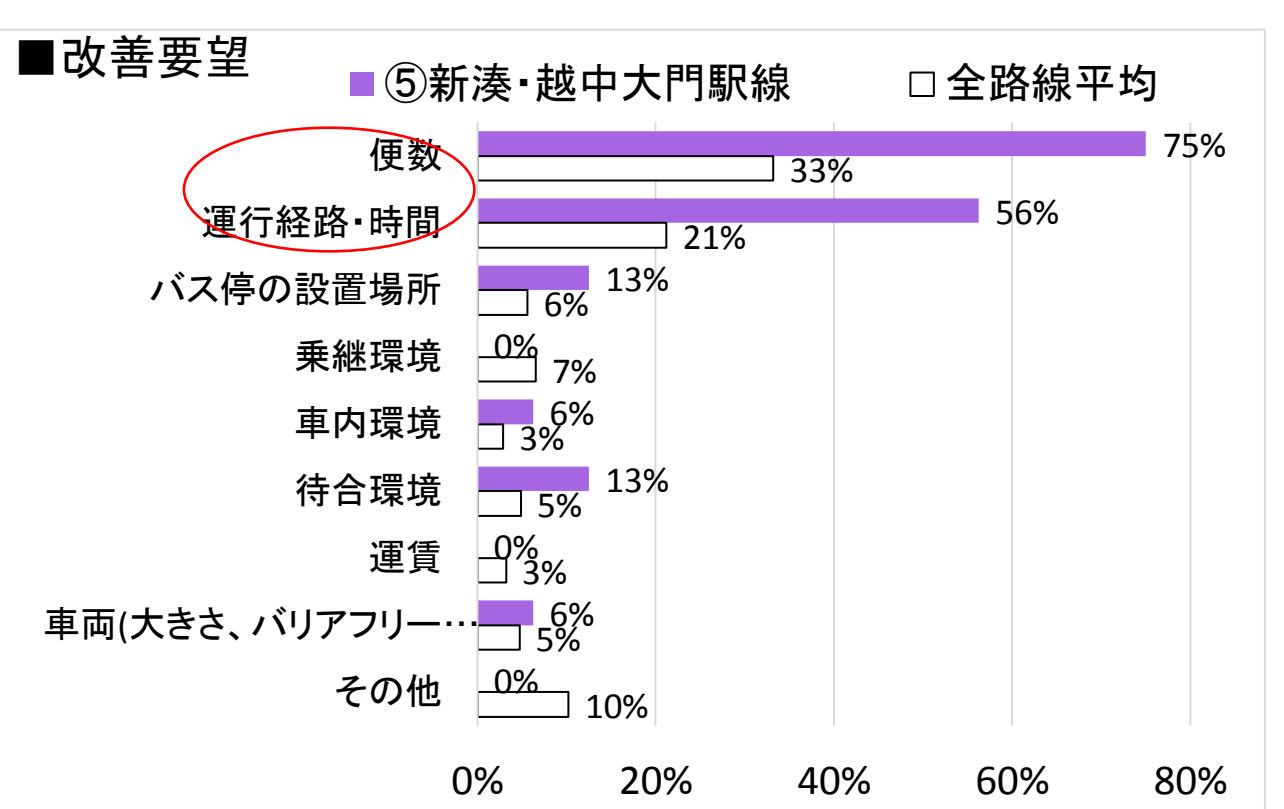
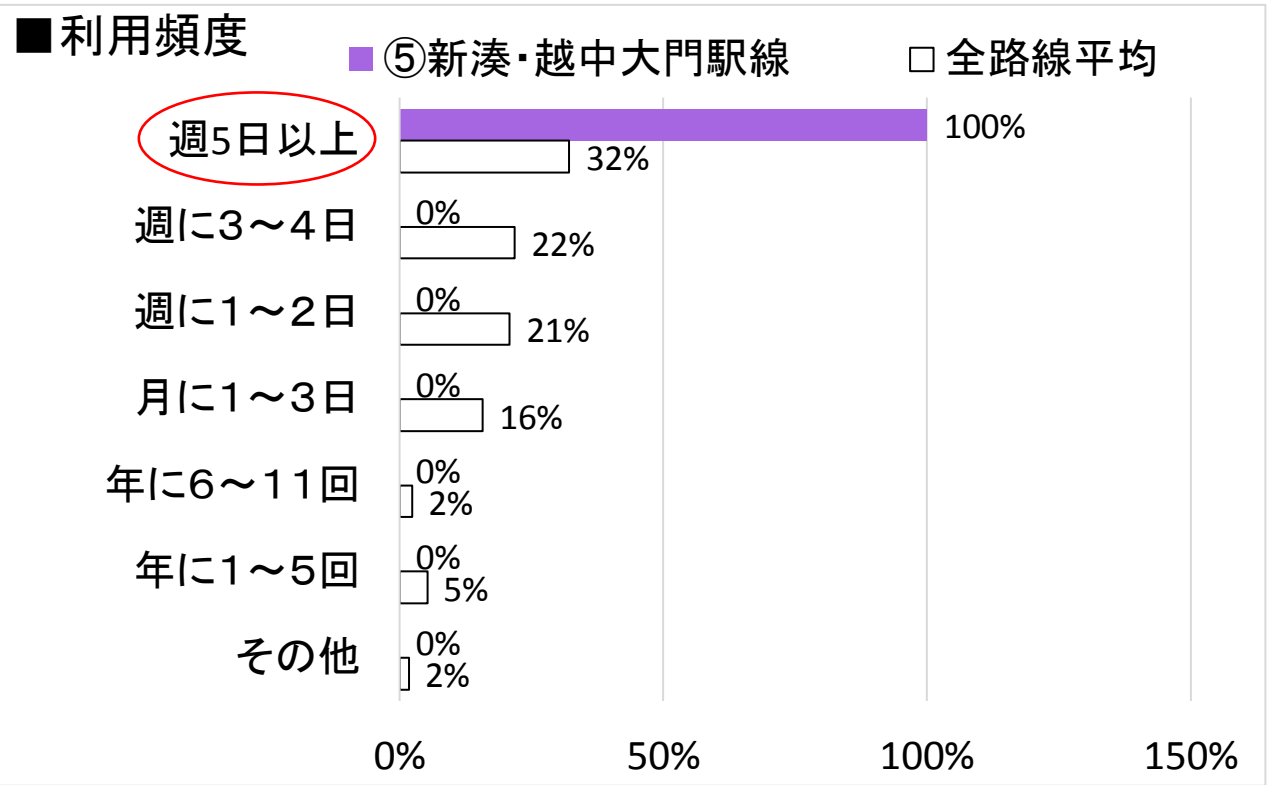
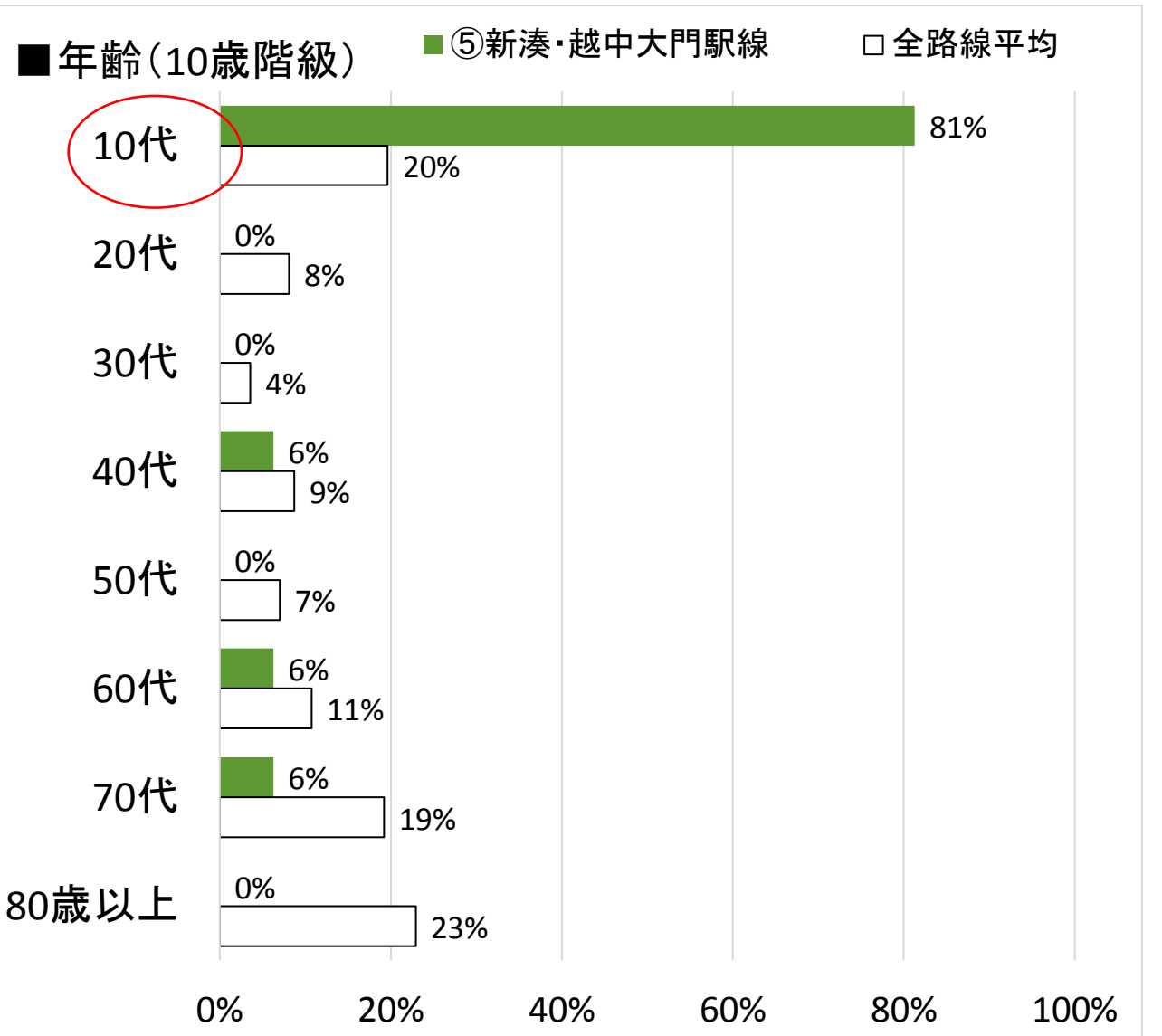
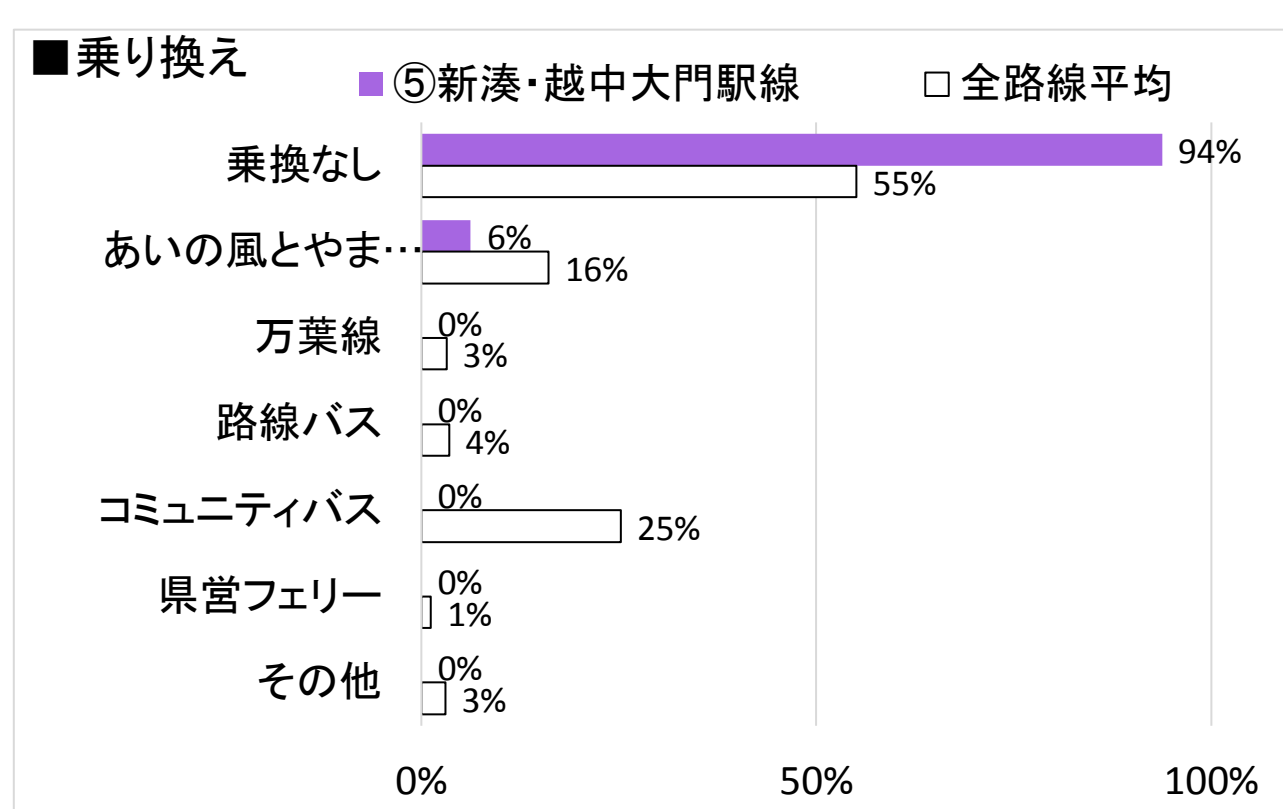
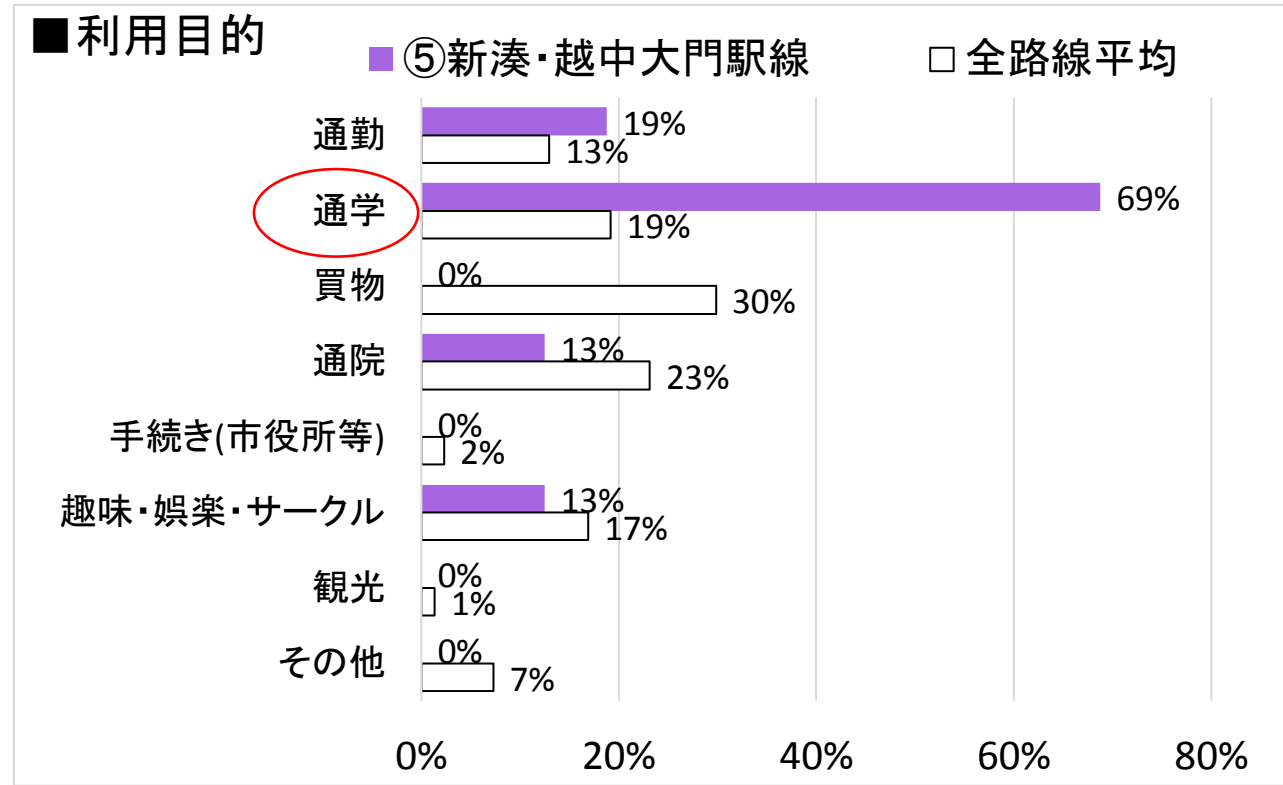
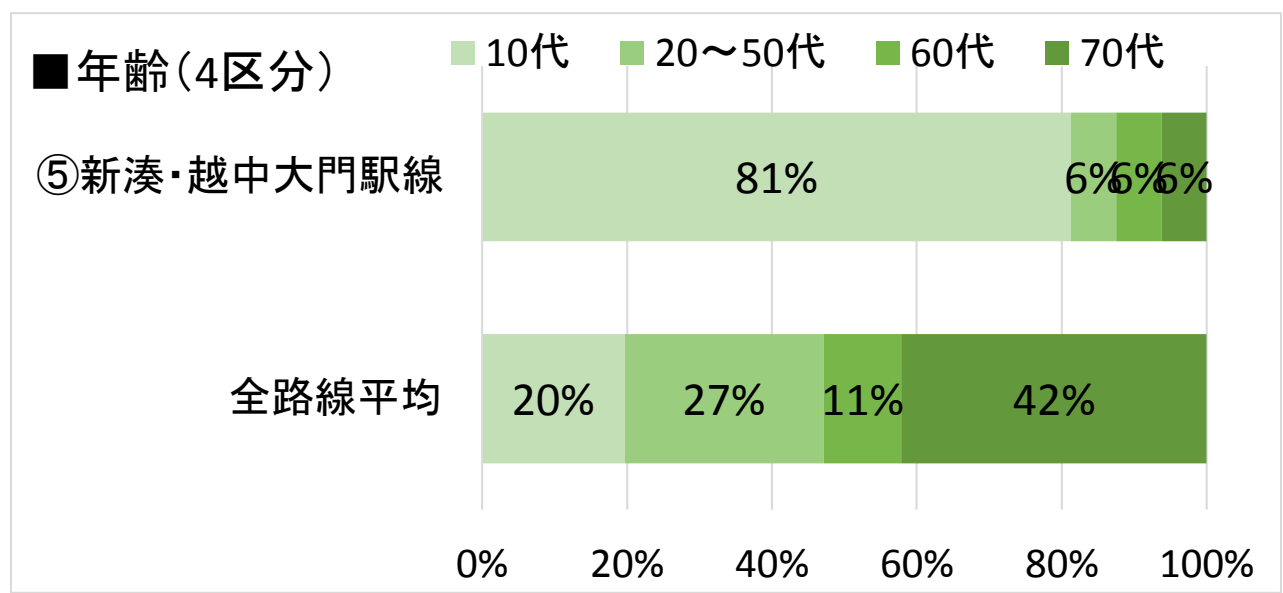
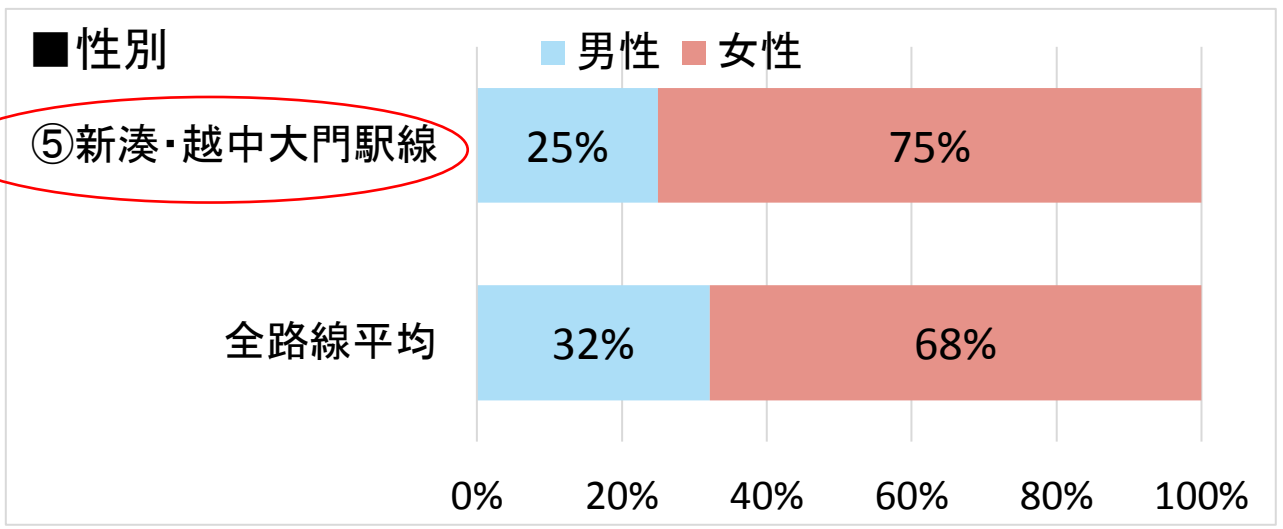
	平日	休日
■終日利用者数(人/日)	7	0
2017	7	0
2018	8	0
伸び率	6%	



⑤新湊・越中大門駅線

・利用者のほとんどが10代であり、越中大門駅から大門高校への通学利用が主であると考えられる。
・便数や運行経路・時間への要望が多いが、これは朝便の利用と比較して夕方便の利用が少ないことから、下校に使いやすくなるような改善要望と考えられる。
・直近では利用が減少しているが長期的には増加傾向であり、引き続き通学の足として運行しつつ、下校便の利便性向上策を検討する必要がある。

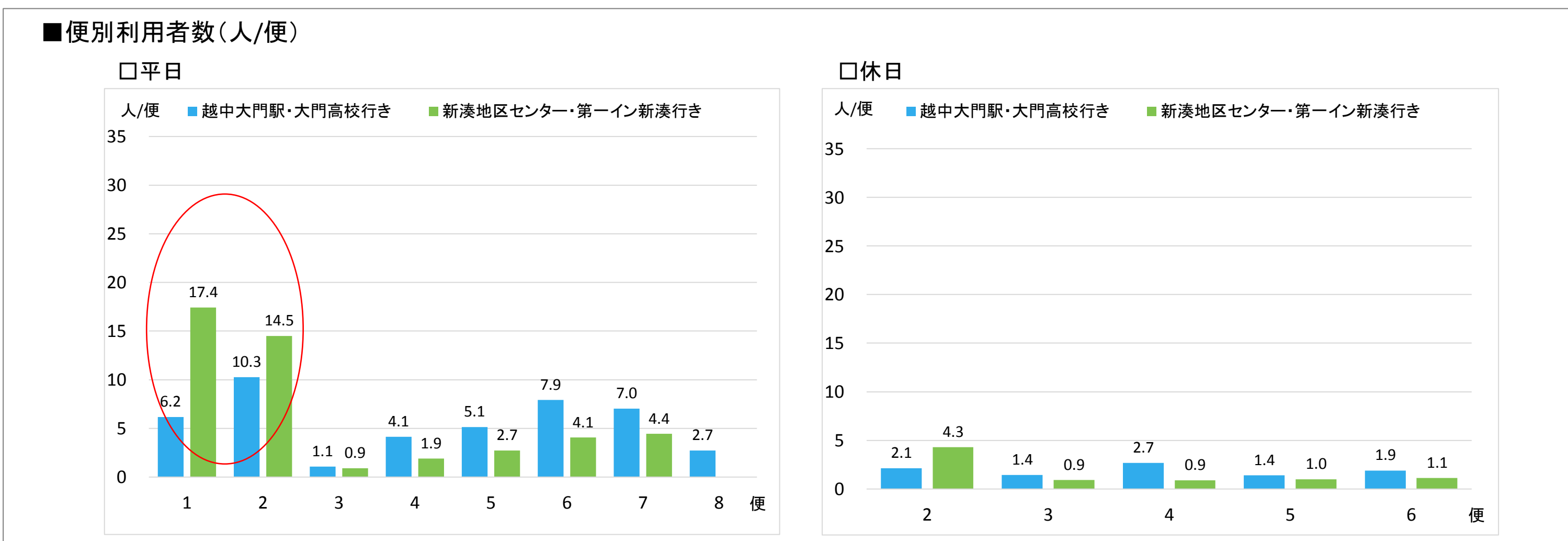
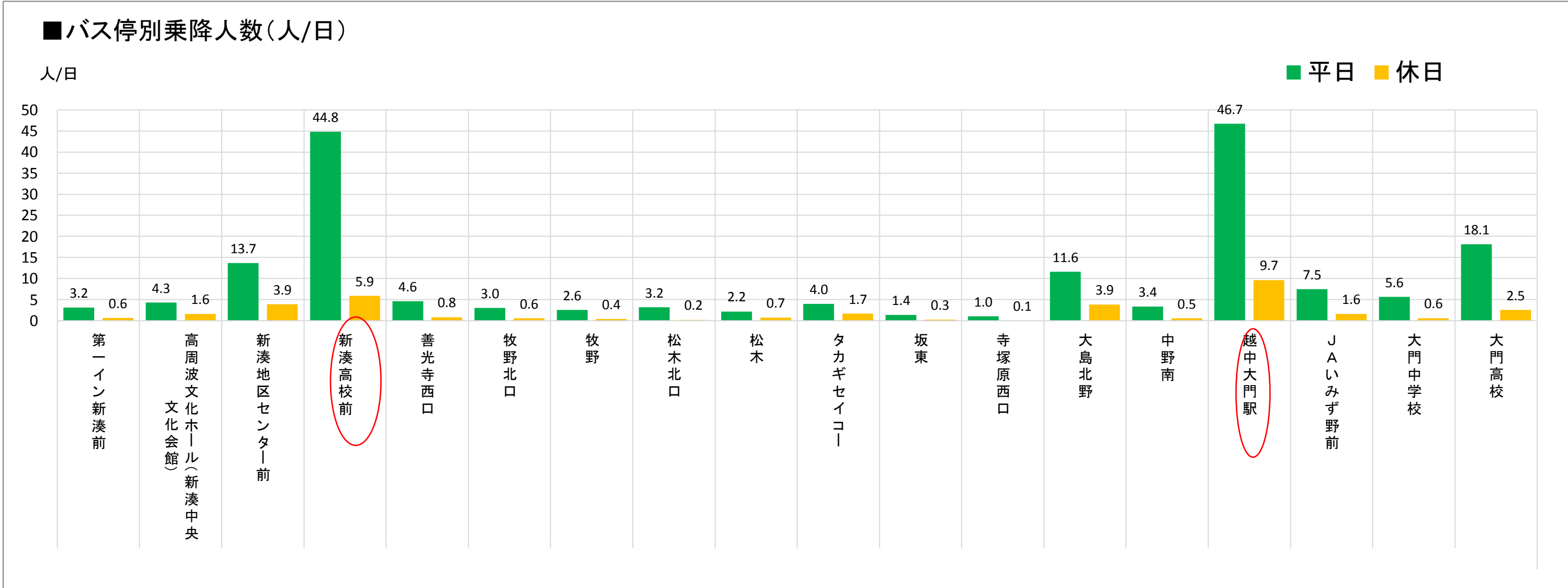
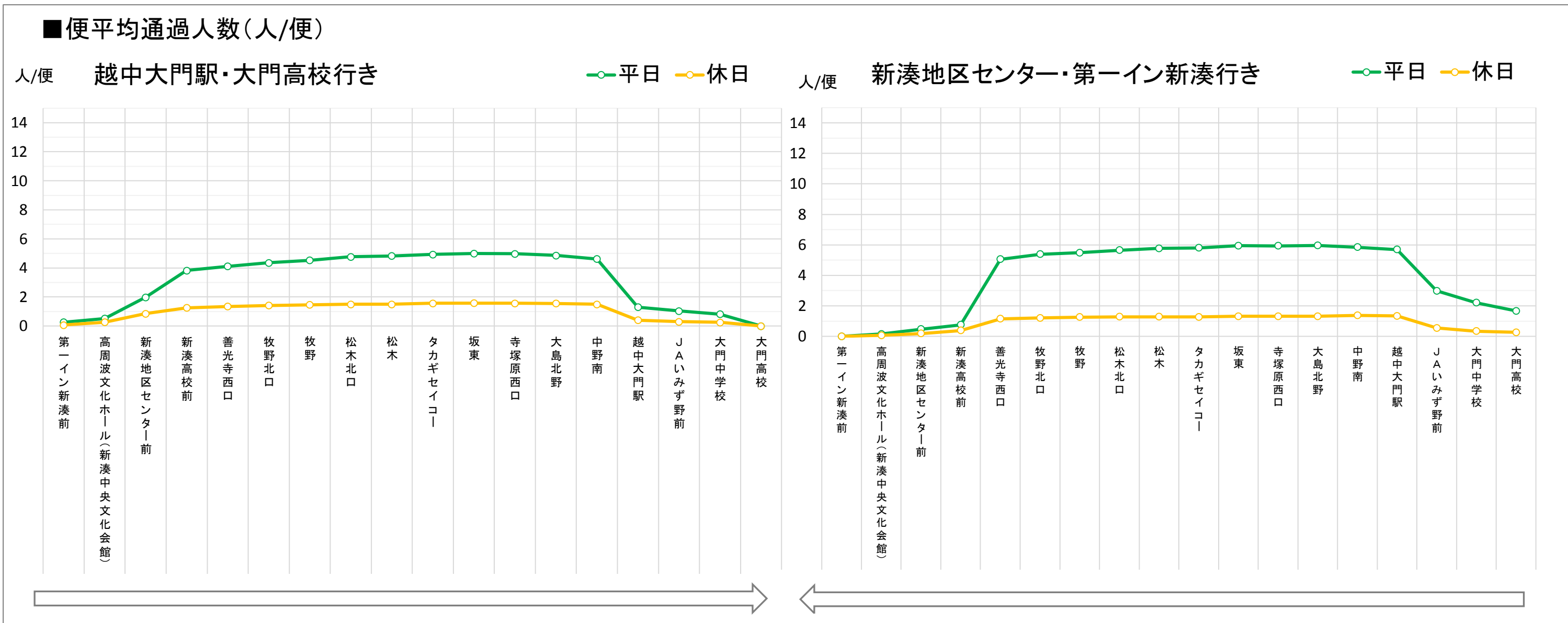
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

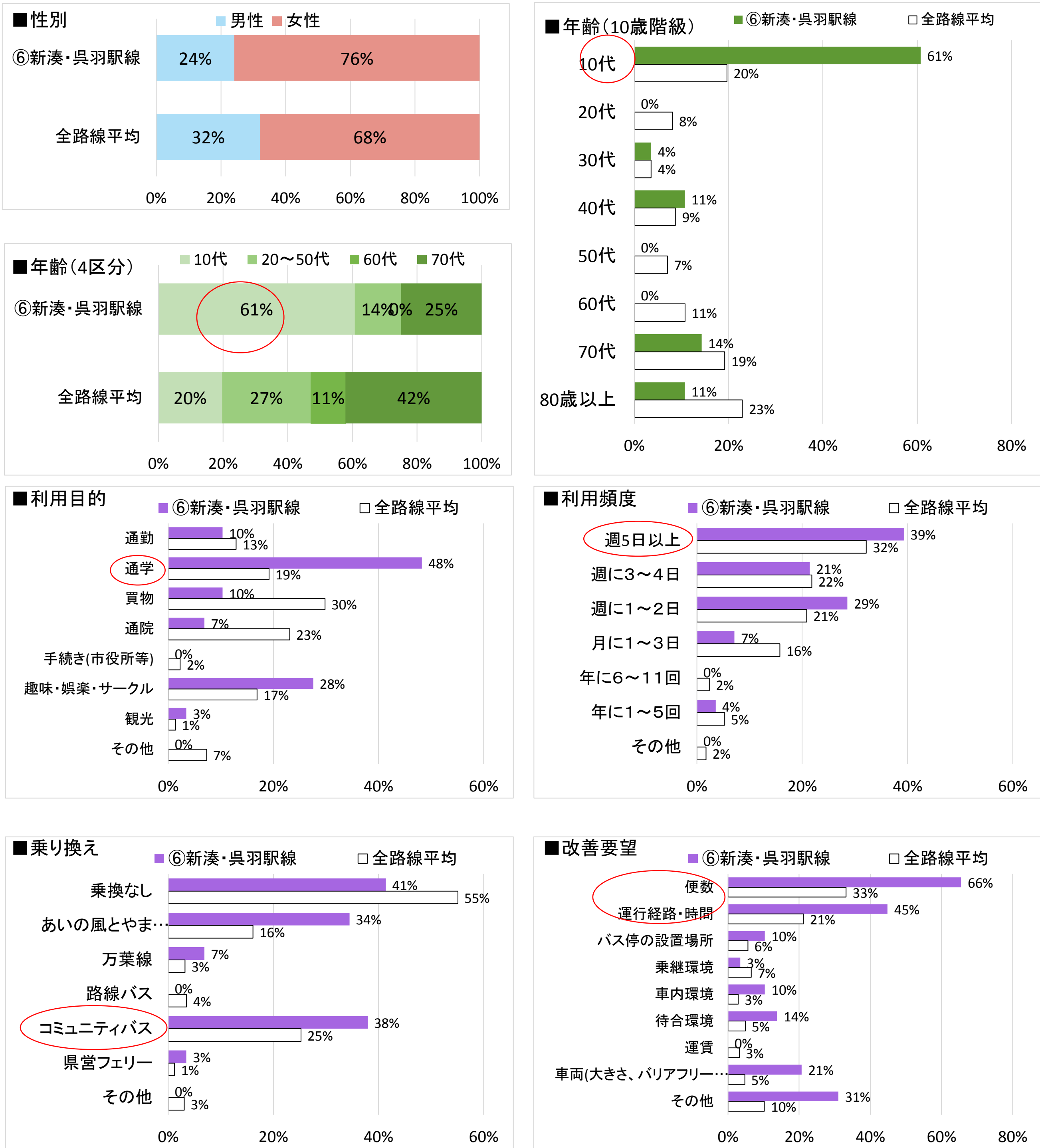
	平日	休日
2017	95	20
2018	90	18
伸び率	-5%	-0



⑥新湊・呉羽駅線

- ・利用者の多くが10代であり、新湊～海老江の各地区から富山短大、呉羽高校、呉羽駅への通学利用が主であると考えられる。
- ・上記を反映して、朝夕便の利用は多めだが、昼間は利用の少ない便もある
- ・便数や運行経路・時間への要望が多いが、これは朝便の利用と比較して夕方便の利用が少ないことから、下校に使いやすくなるような改善要望と考えられる。
- ・長期的に利用減少傾向であり、通学の足の確保に加え、利用の低い昼間時間帯（高齢者ターゲット）の利用促進策の検討が必要である。

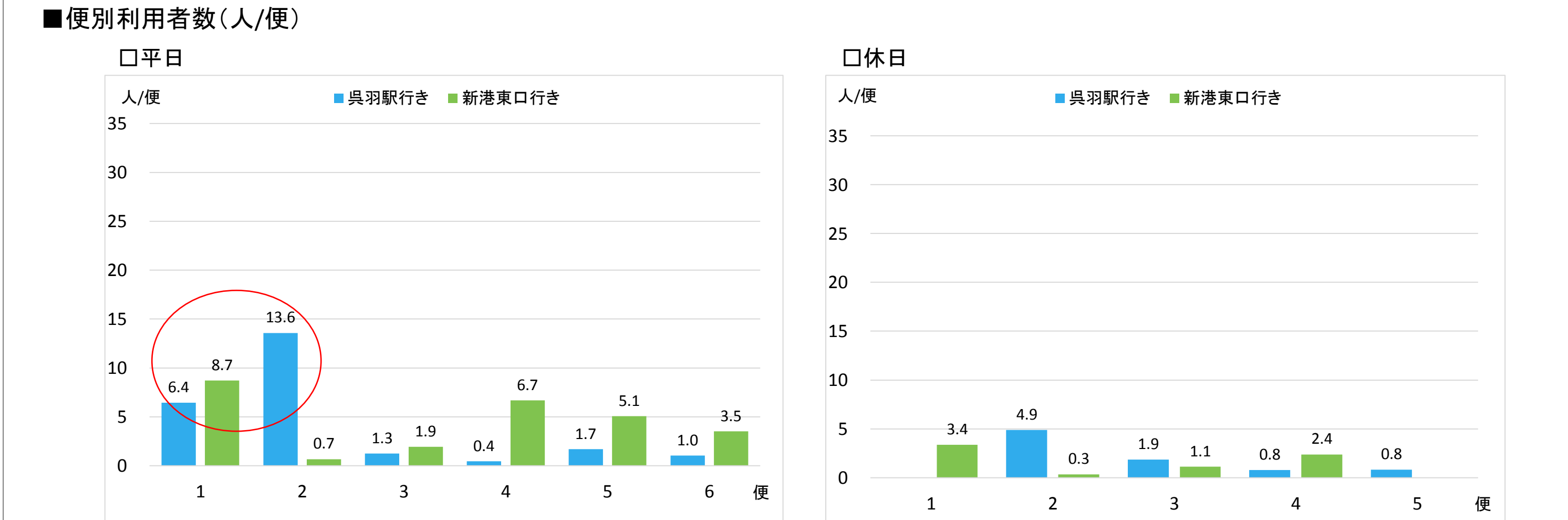
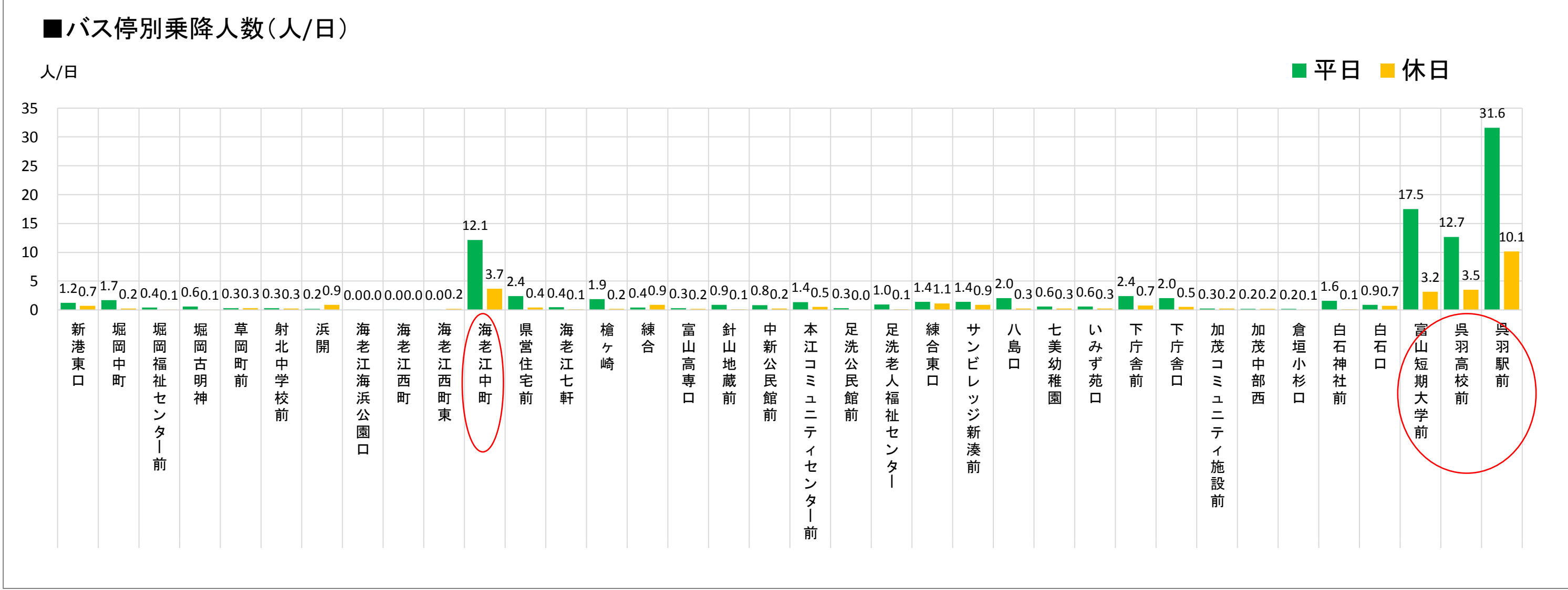
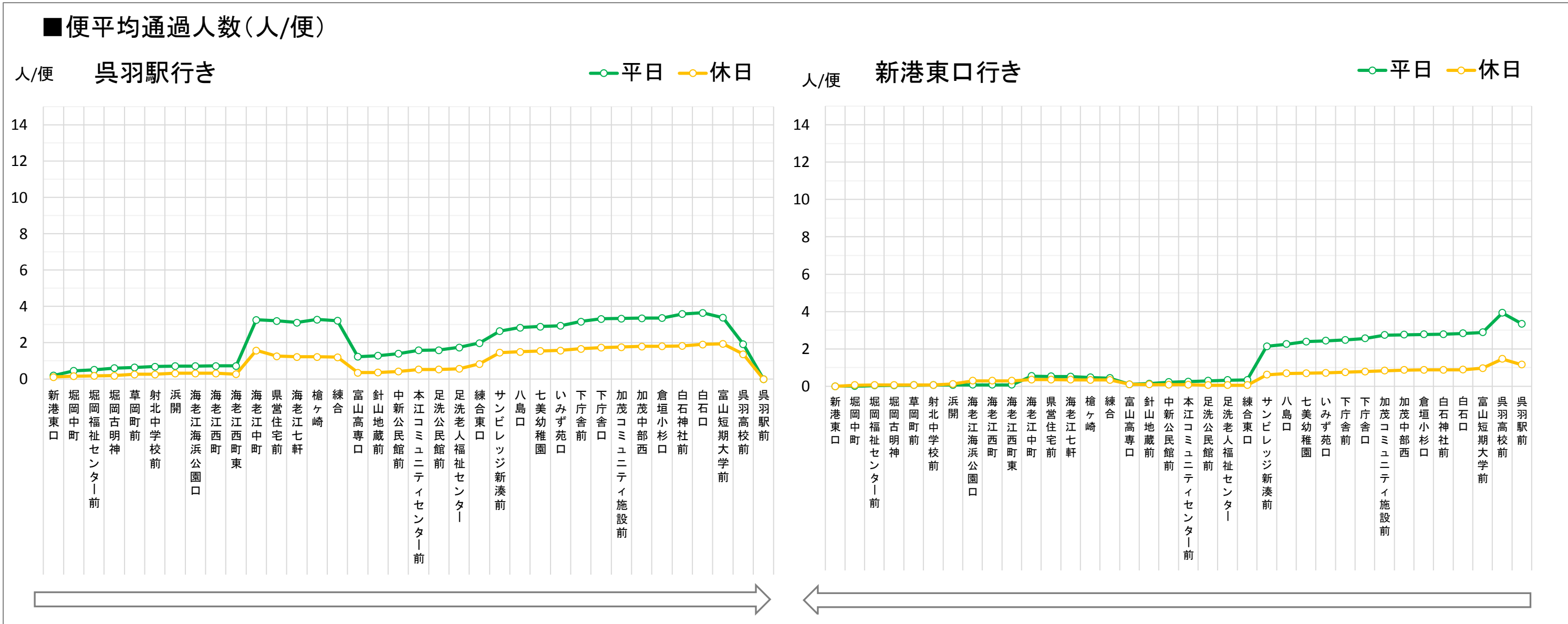
○利用者の実態（利用者アンケート調査（H30）より）



○利用動向（利用実績（2018年度）

■終日利用者数（人/日）

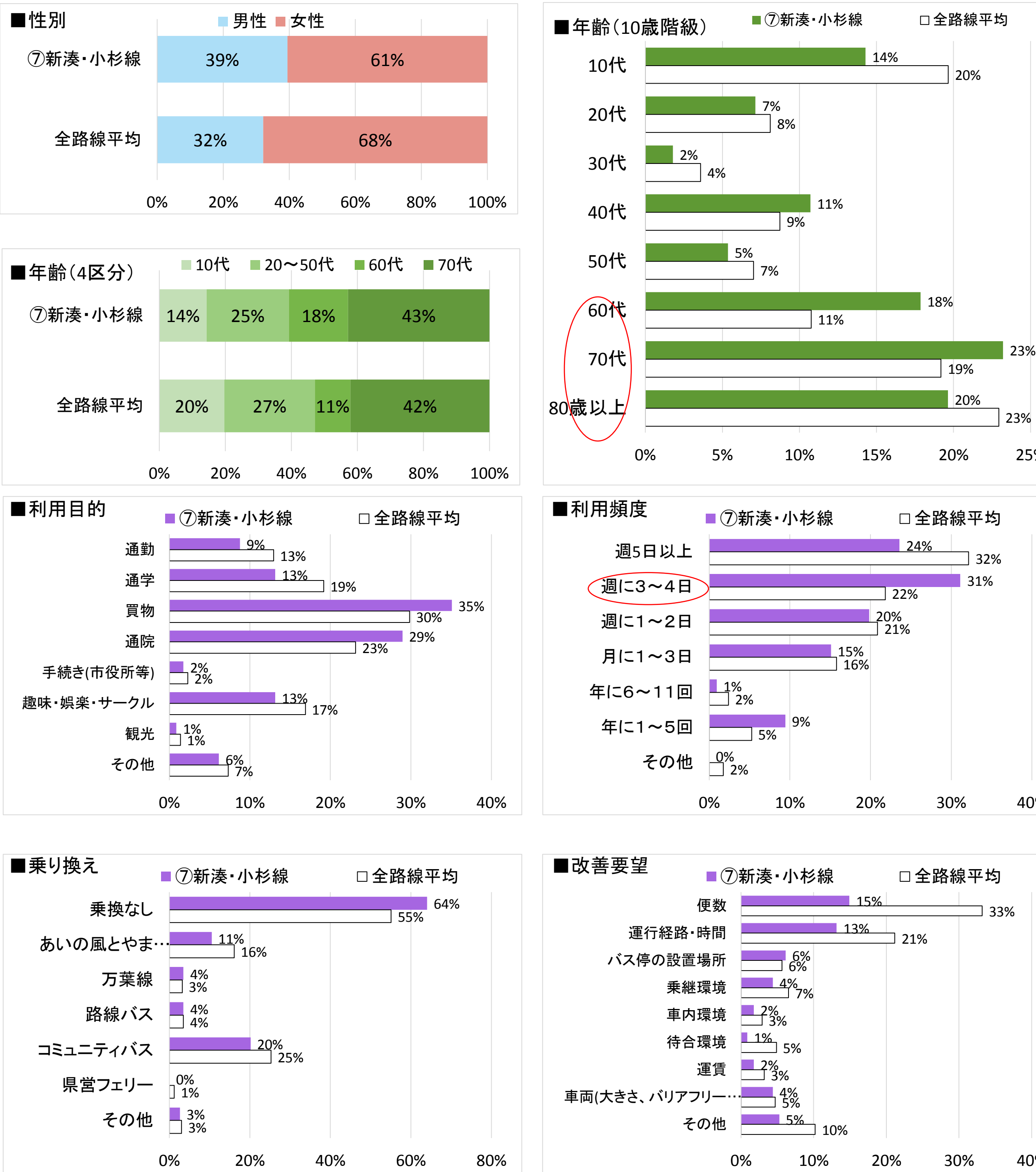
	平日	休日
2017	53	17
2018	51	16
伸び率	-4%	-0



⑦新湊・小杉線

・60代～70代の前期高齢者の利用が多めであり、利用目的は買物、通院が多く、目的地は新湊地区センター、市民病院、イータウン、小杉駅と複数の目的地の利用が多くなっている。
・朝の便の利用が特に多いが、昼間も多くの便が10人/便程度と、まんべんなく多くの利用が見られる状況である。
・改善要望は全路線平均と比較してかなり低めであり、現状の運行形態がニーズにマッチしていると言える。
・直近では利用が微減したものの、長期的に大きく利用が増加しており特に重要度の高い路線として位置づけることによるさらなる利用促進が求められる。

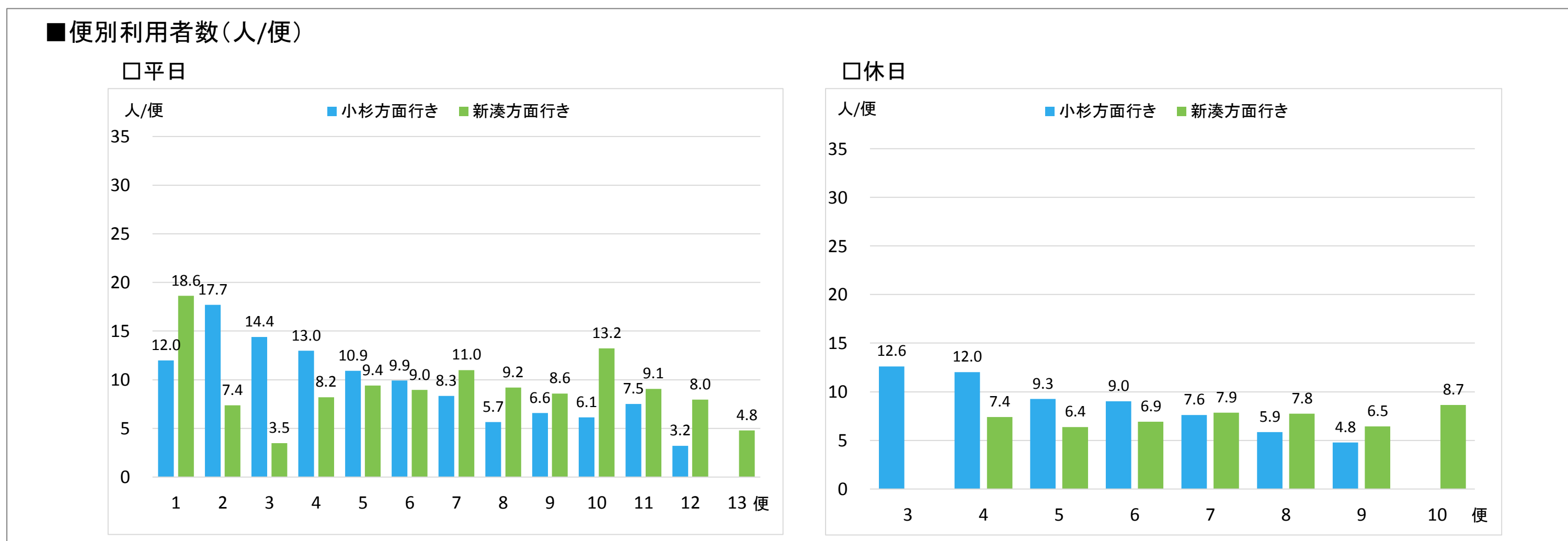
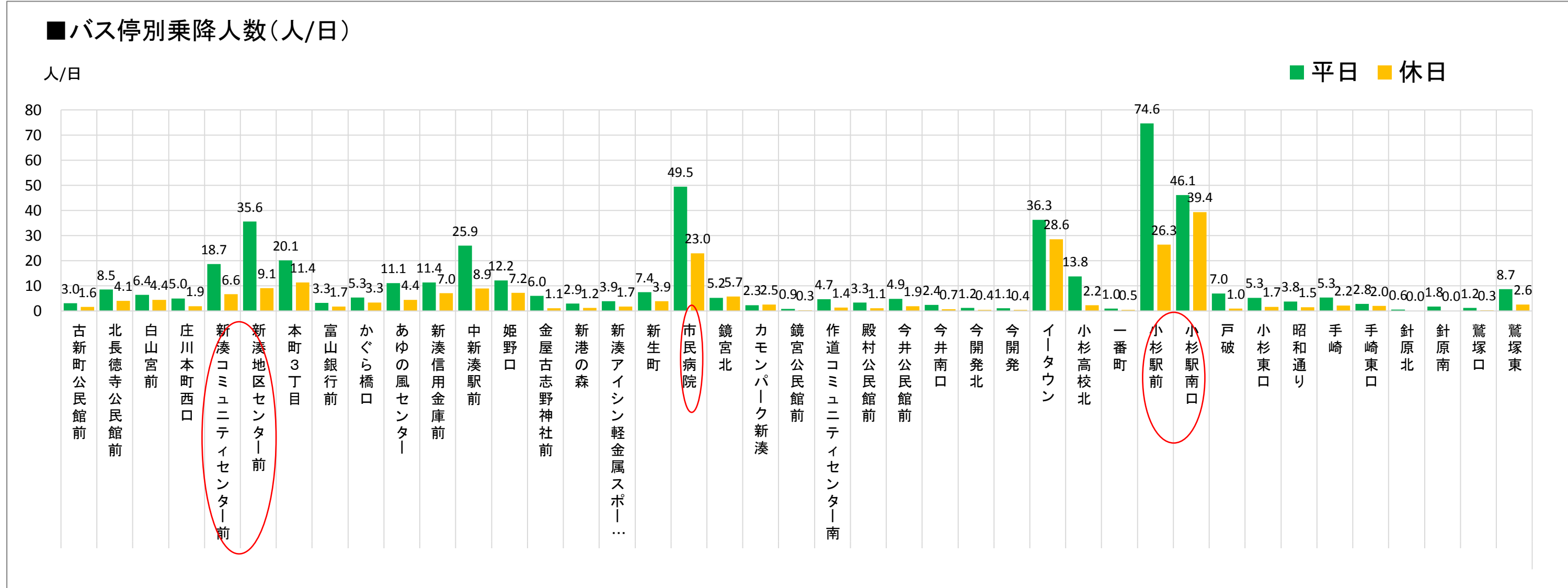
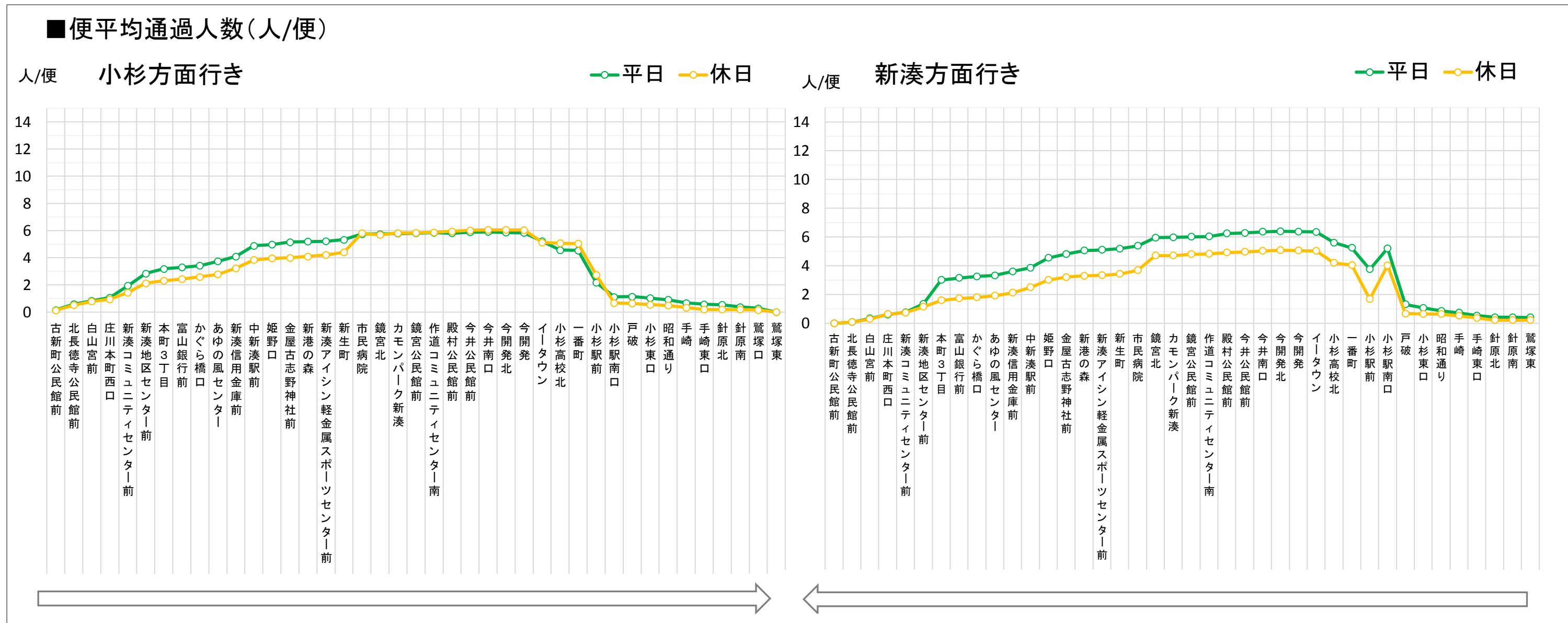
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

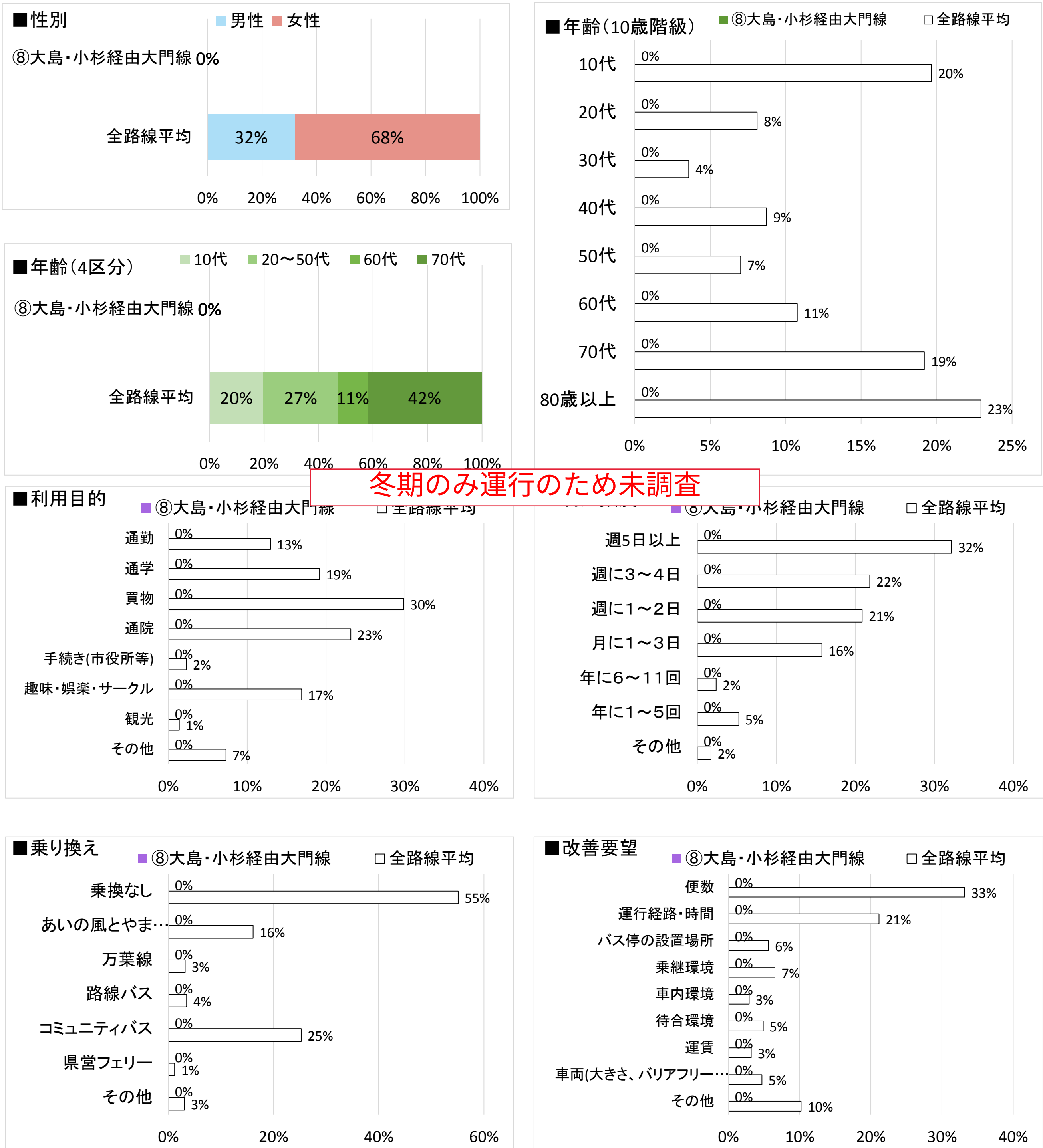
	平日	休日
2017	246	110
2018	235	113
伸び率	-4%	0



⑧大島・小杉經由大門線

・デマンドタクシー運行エリアである大門地区における、冬季の通学便として位置づけられており、大門各地区及び小杉駅から、大門高校・中学への通学利用が主であると想定される。
・朝便の利用は6人/便程度だが、帰り便は1.6人/便であり、下校利用は少ない。
・冬季の通学の足として、中学・高校の意向も踏まえながら、引き続き運行を継続することが求められる。

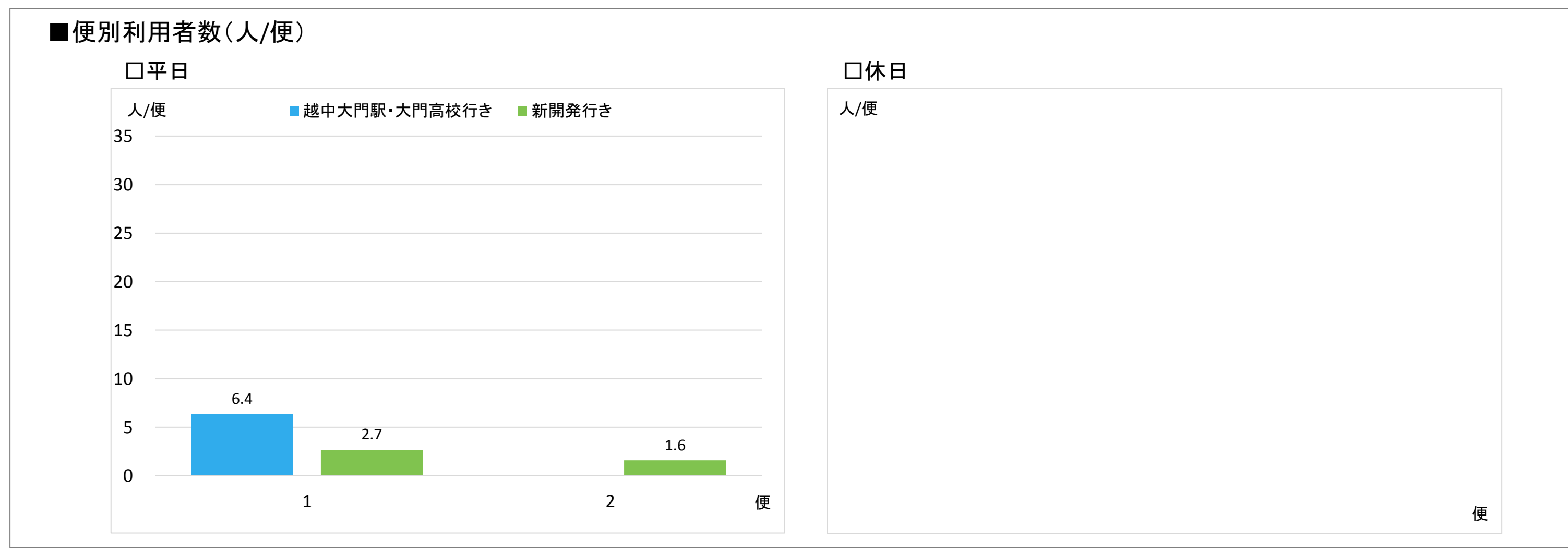
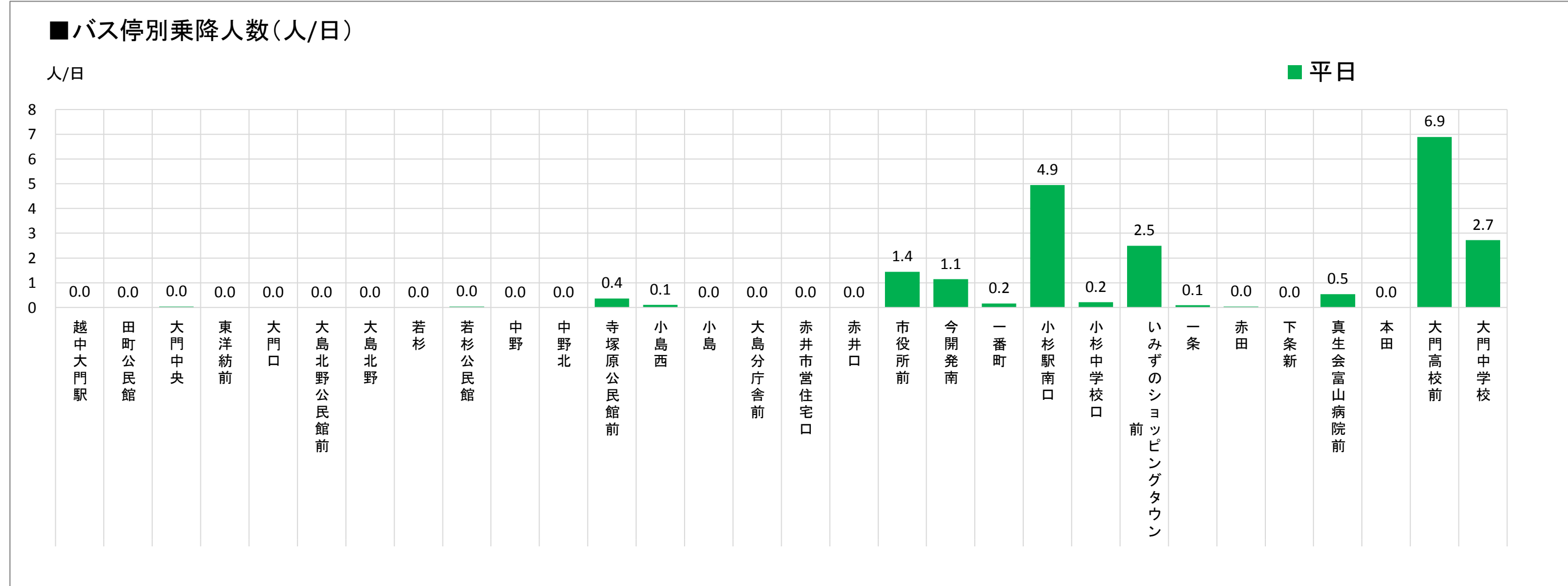
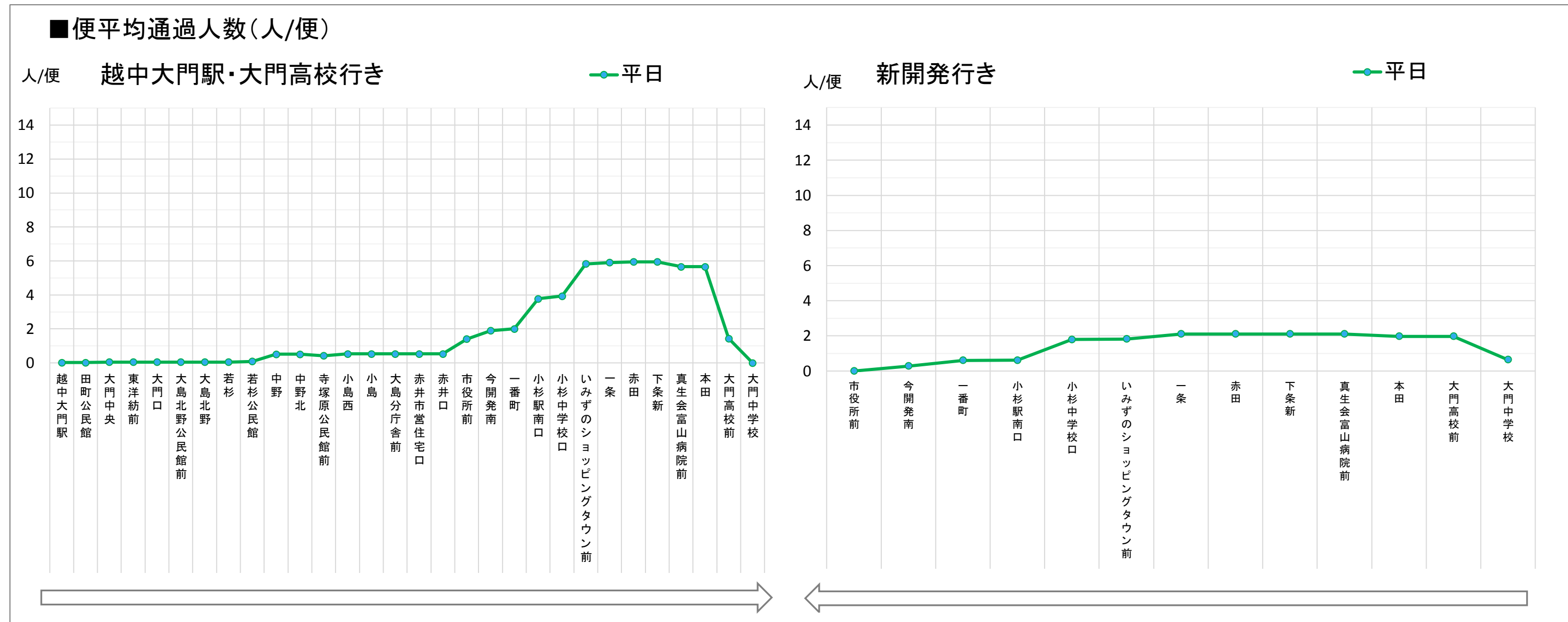
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



冬期のみ運行のため未調査

○利用動向(利用実績(2018年度))

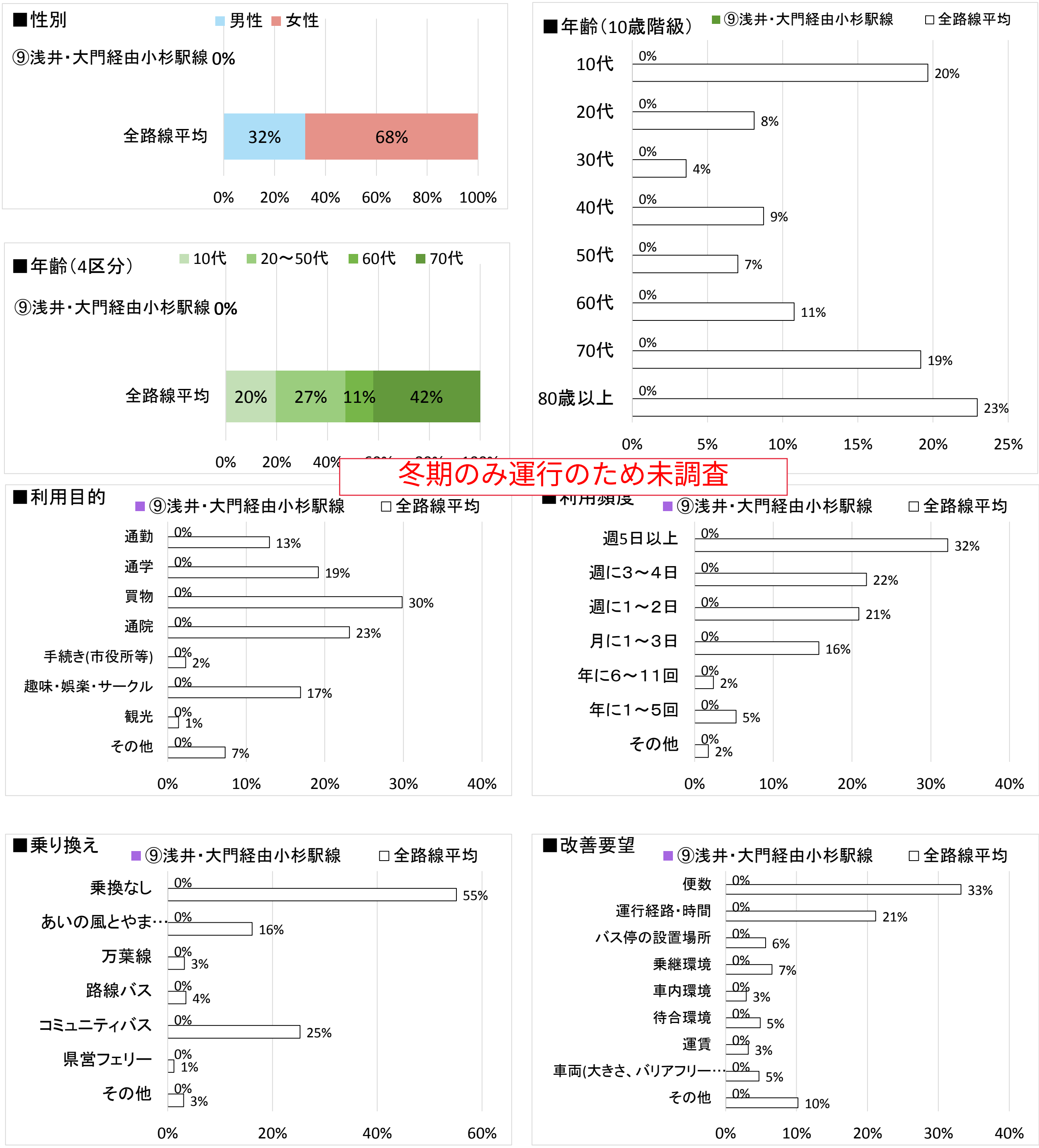
	平日	休日
■終日利用者数(人/日)	2017 9	0
	2018 11	0
伸び率	13%	



⑨浅井・大門経由小杉駅線

・デマンドタクシー運行エリアである大門地区における、冬季の通学便として位置づけられており、なかでもほたる野ビレッジから大門中学への通学利用が多い。
・朝便の大門高校域は34人/便と全路線のなかでも突出した利用状況である。
・近年利用が上昇傾向であることから、冬季の通学の足として、中学・高校の意向も踏まえながら、引き続き運行を継続することが求められる。

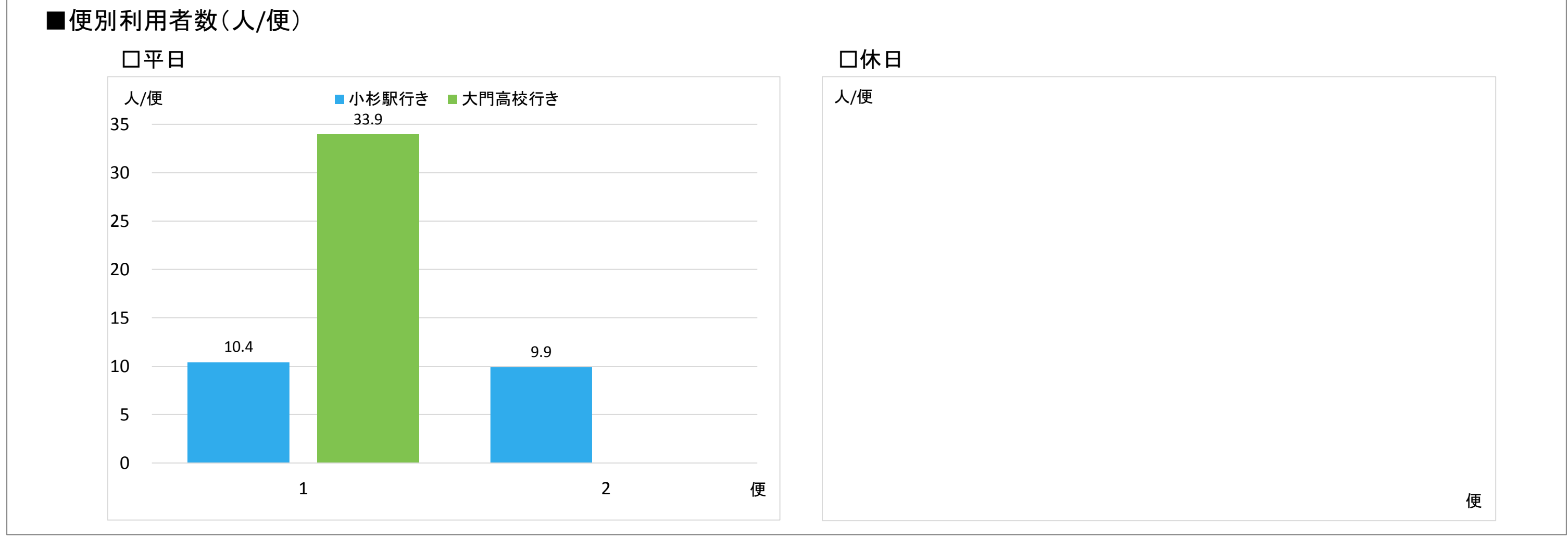
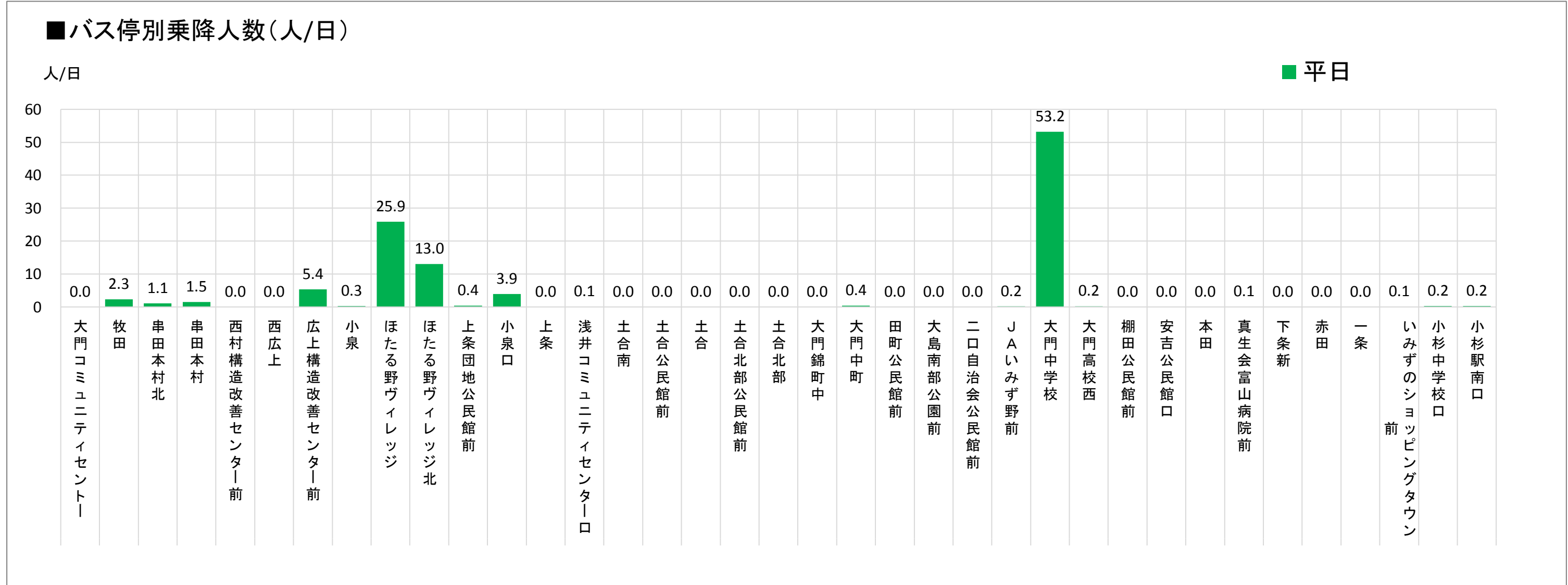
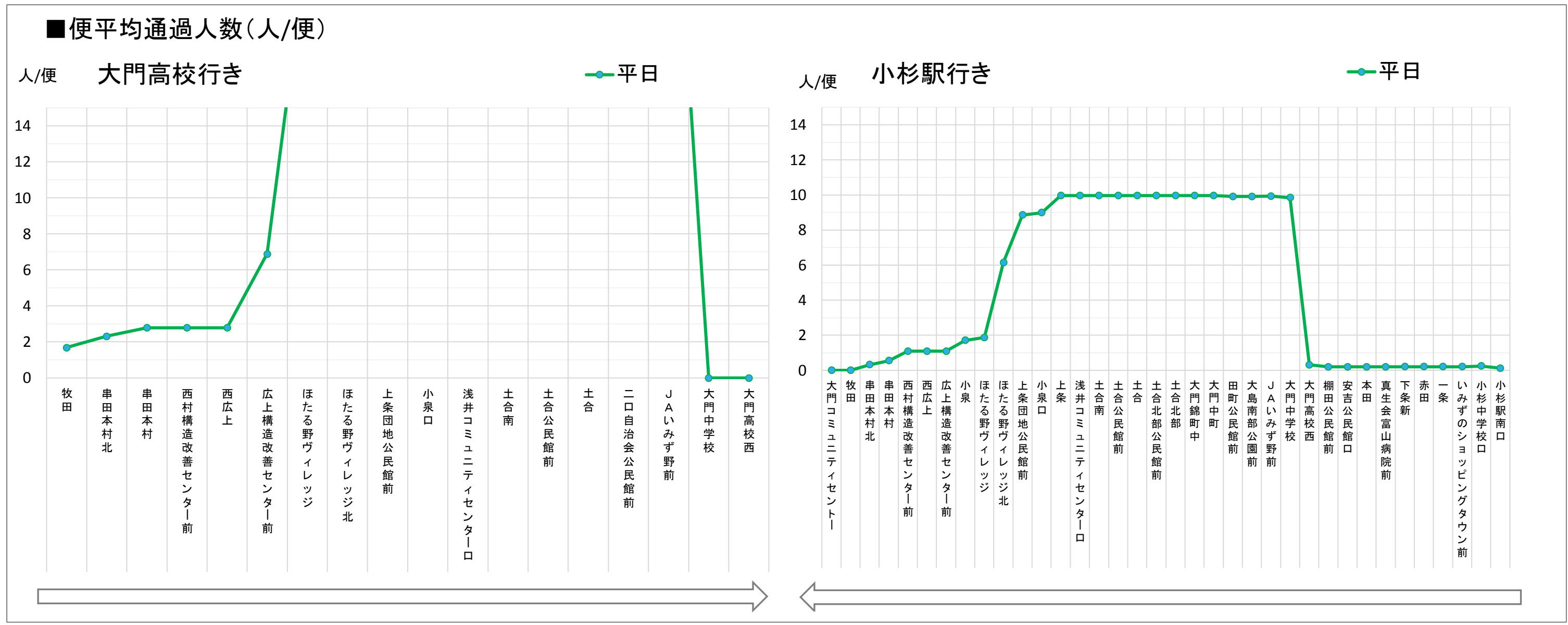
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



冬季のみ運行のため未調査

○利用動向(利用実績(2018年度))

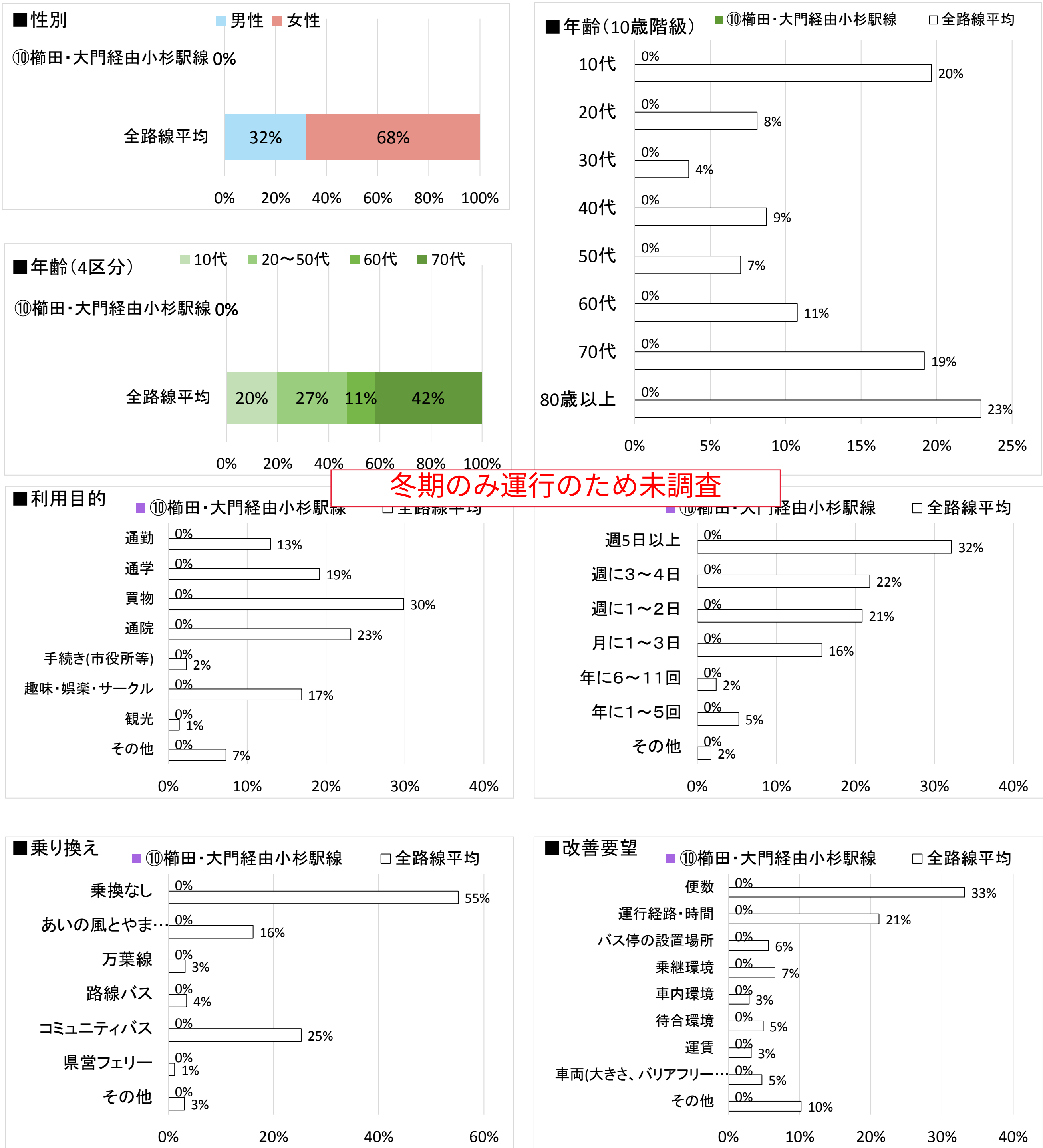
■終日利用者数 (人/日)	平日	休日
	2017	51
	2018	54
伸び率	6%	



⑩ 櫛田・大門経由小杉駅線

・デマンドタクシー運行エリアである大門地区における、冬季の通学便として位置づけられており、櫛田方面から大門中学への通学利用が多い。
・利用が増加傾向であったが、直近で利用が半減しており、なんらかの理由があるものと推測される。

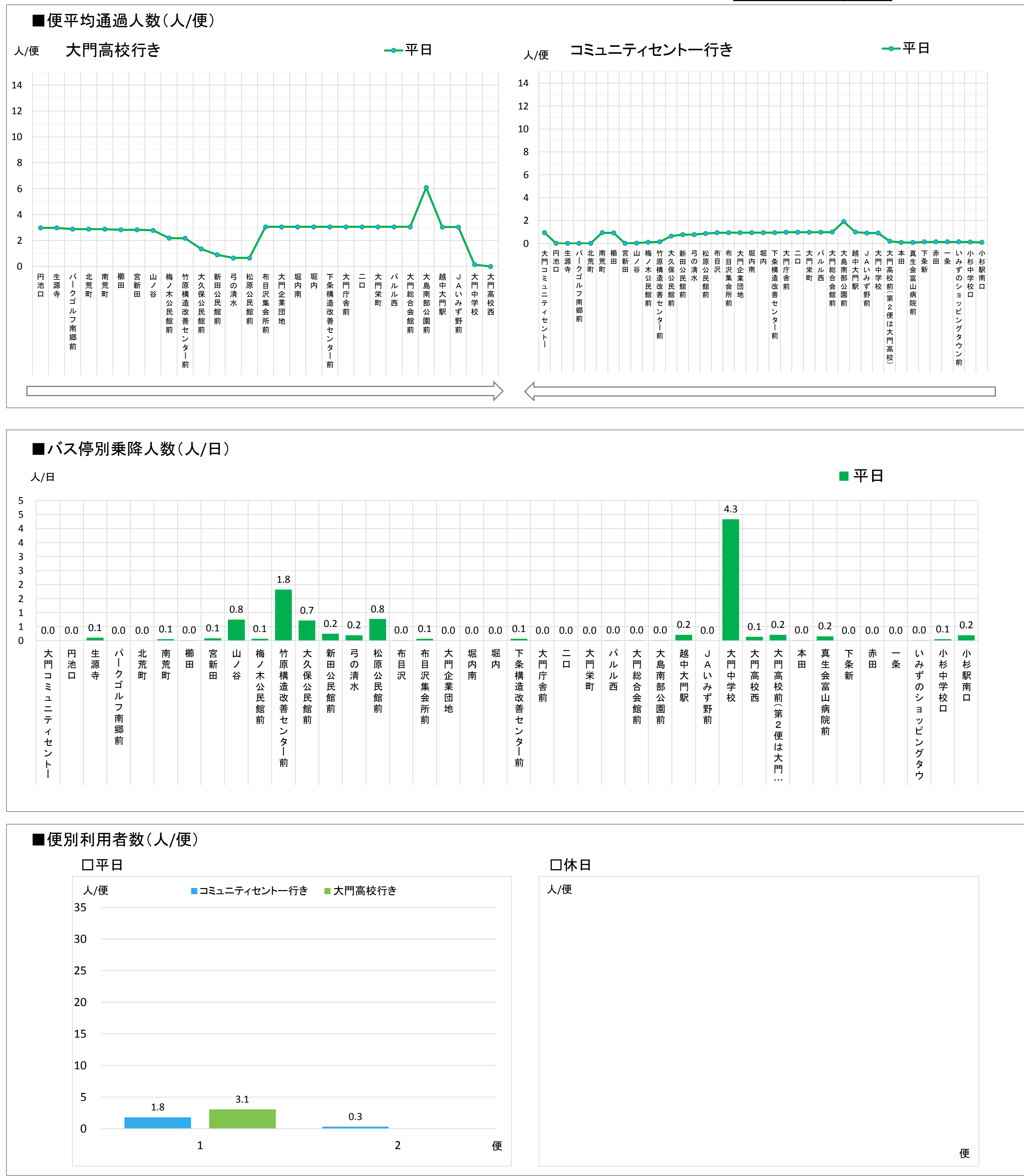
○ 利用者の実態 (利用者アンケート調査 (H30) より)



冬期のみ運行のため未調査

○ 利用動向 (利用実績 (2018年度))

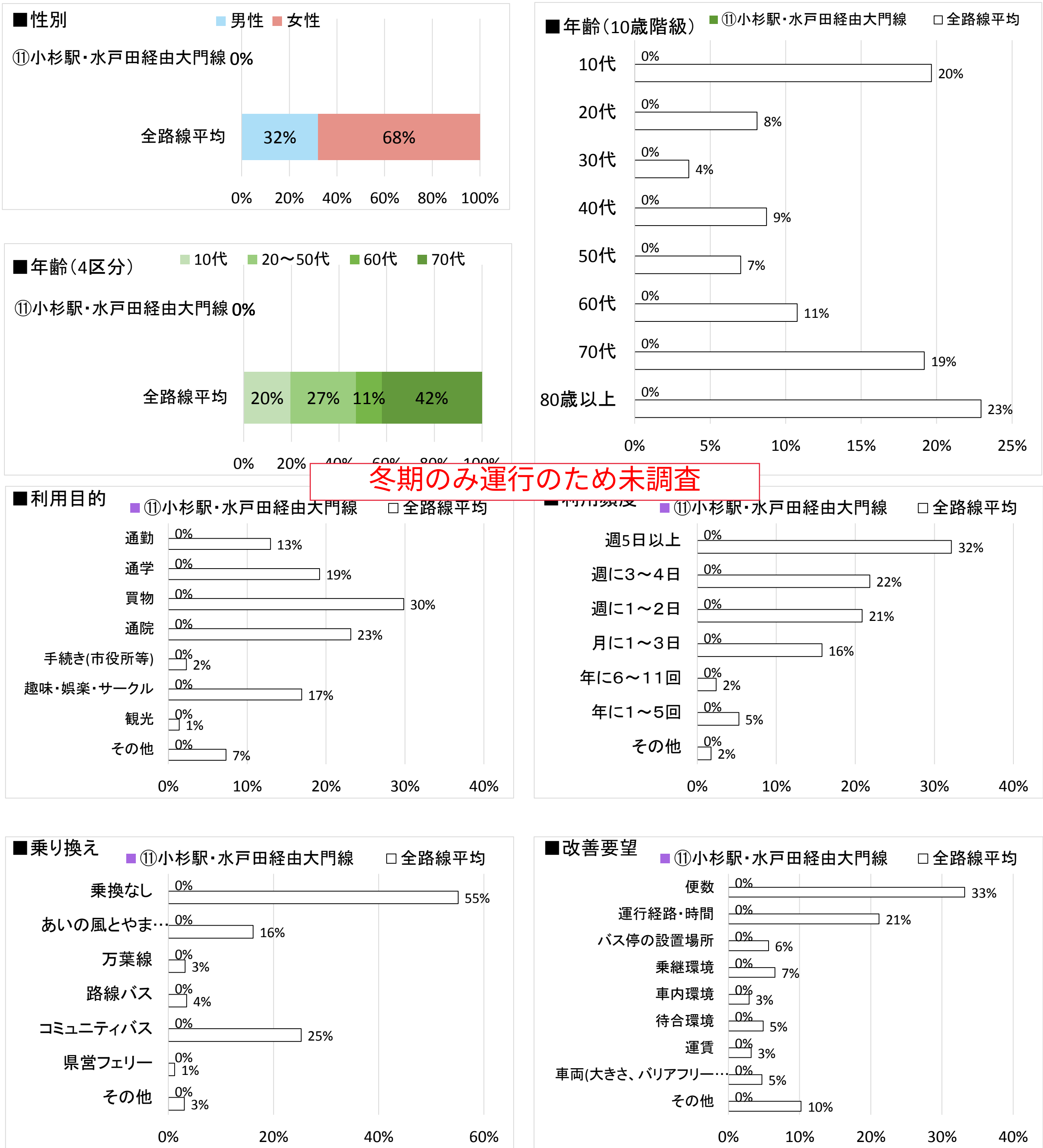
■終日利用者数 (人/日)		平日	休日
	2017	11	0
	2018	5	0
	伸び率	-54%	



⑪小杉駅・水戸田經由大門線

・デマンドタクシー運行エリアである大門地区における、冬季の通学便として位置づけられており、水戸田方面から大門中学への通学利用が多い。
・利用は減少傾向が続いており、水戸田周辺地区における生徒数の減少の影響と推察される。

○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)

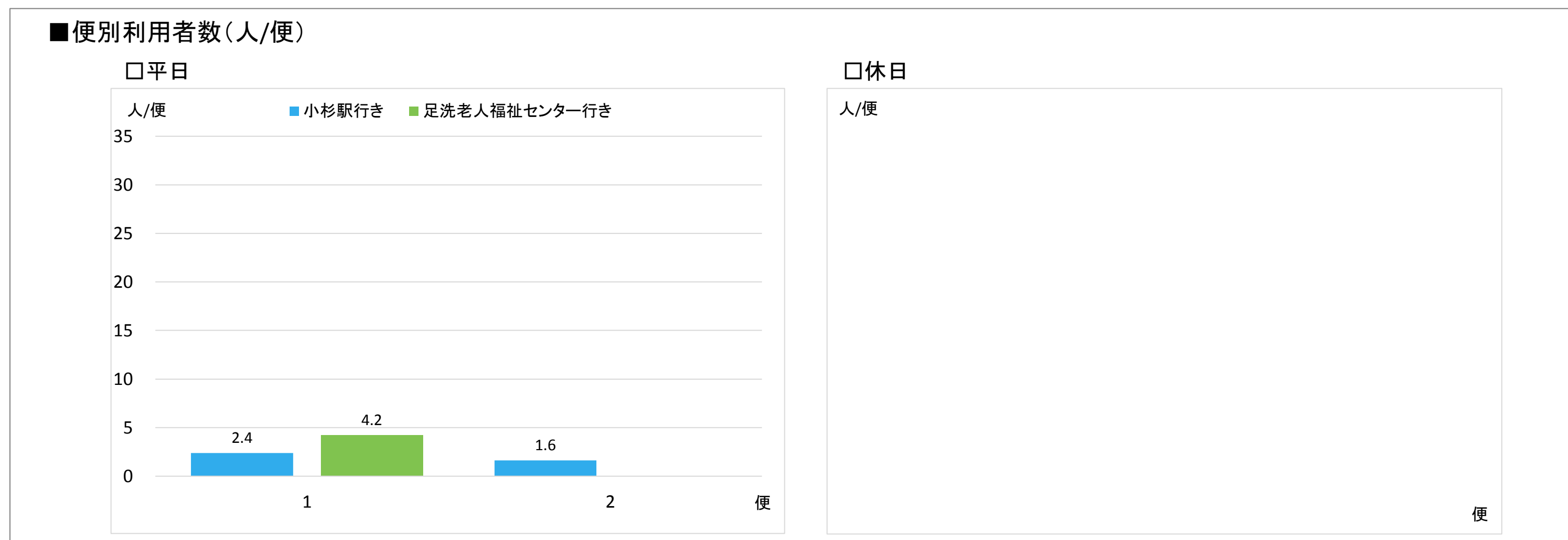
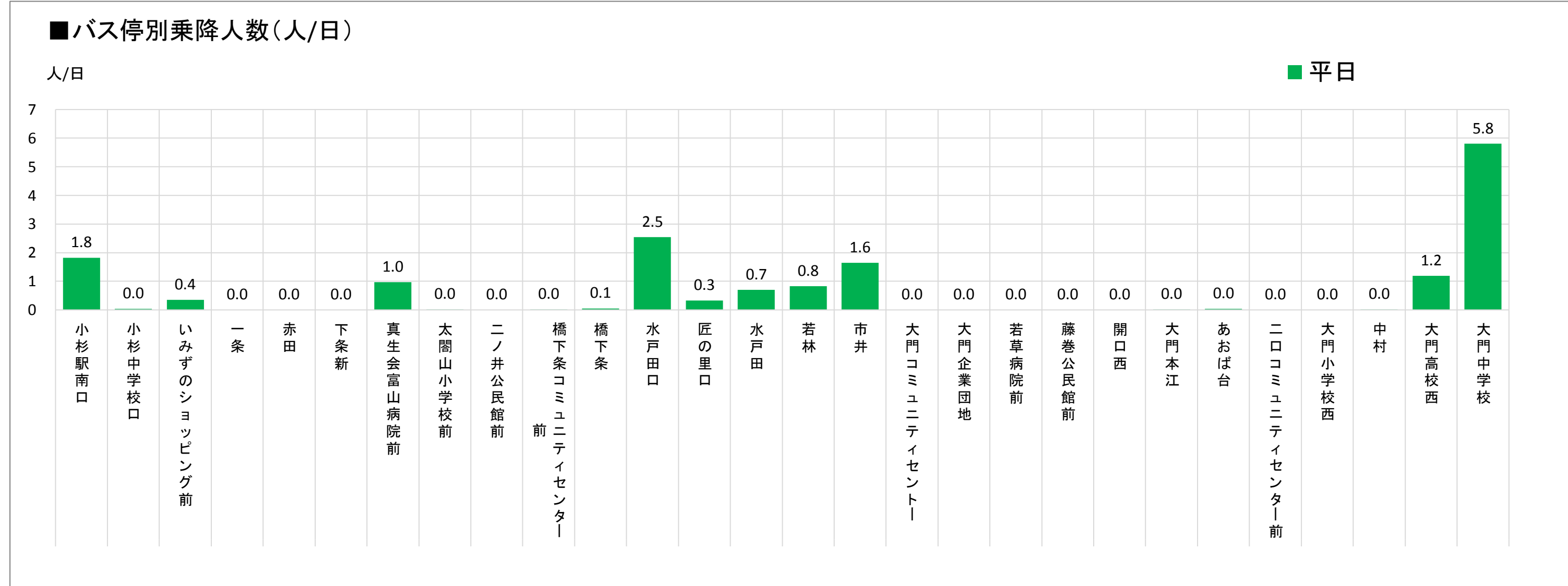
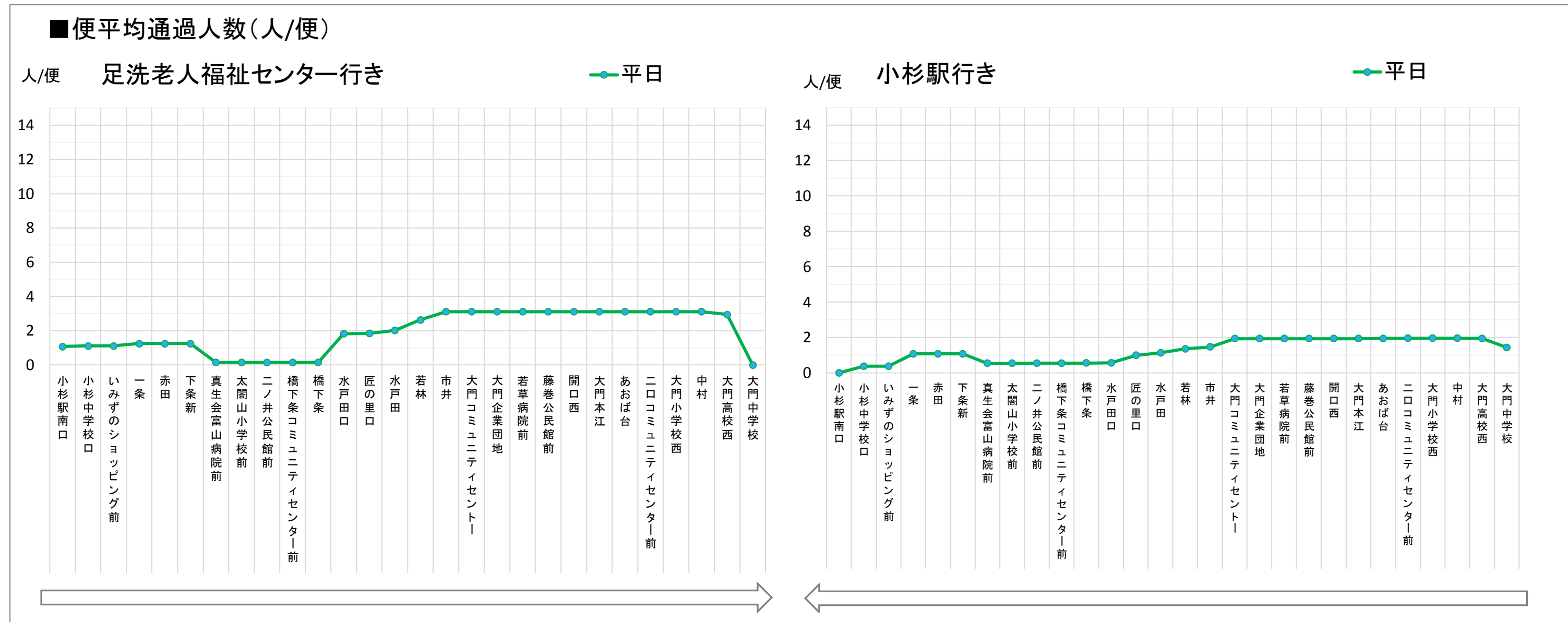


冬期のみ運行のため未調査

○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

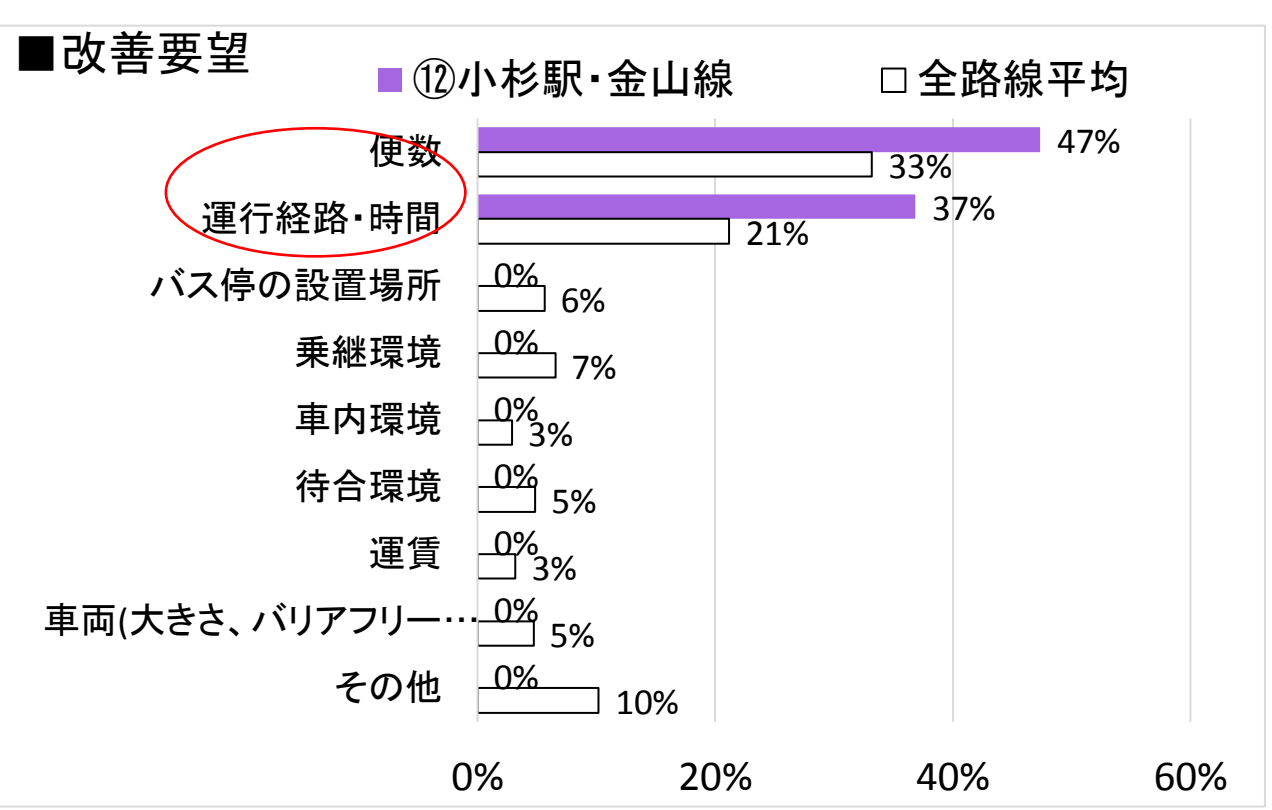
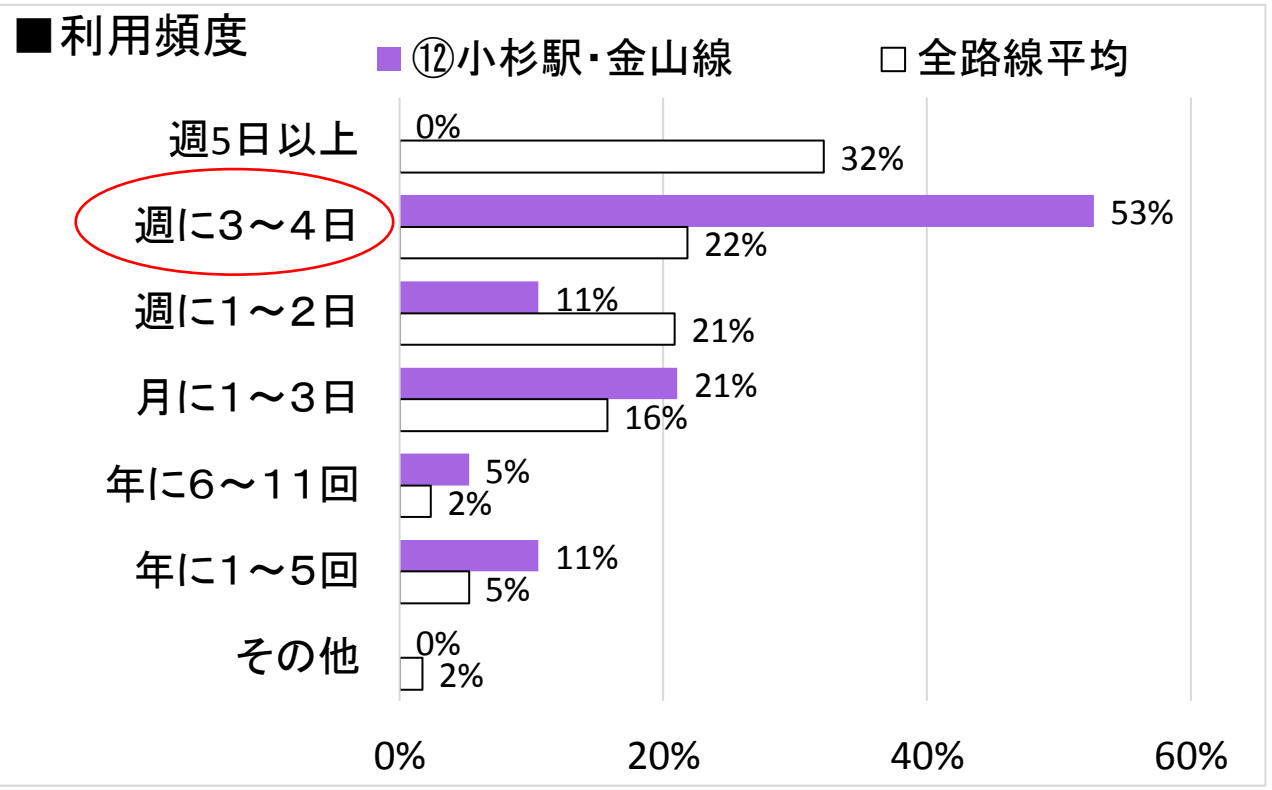
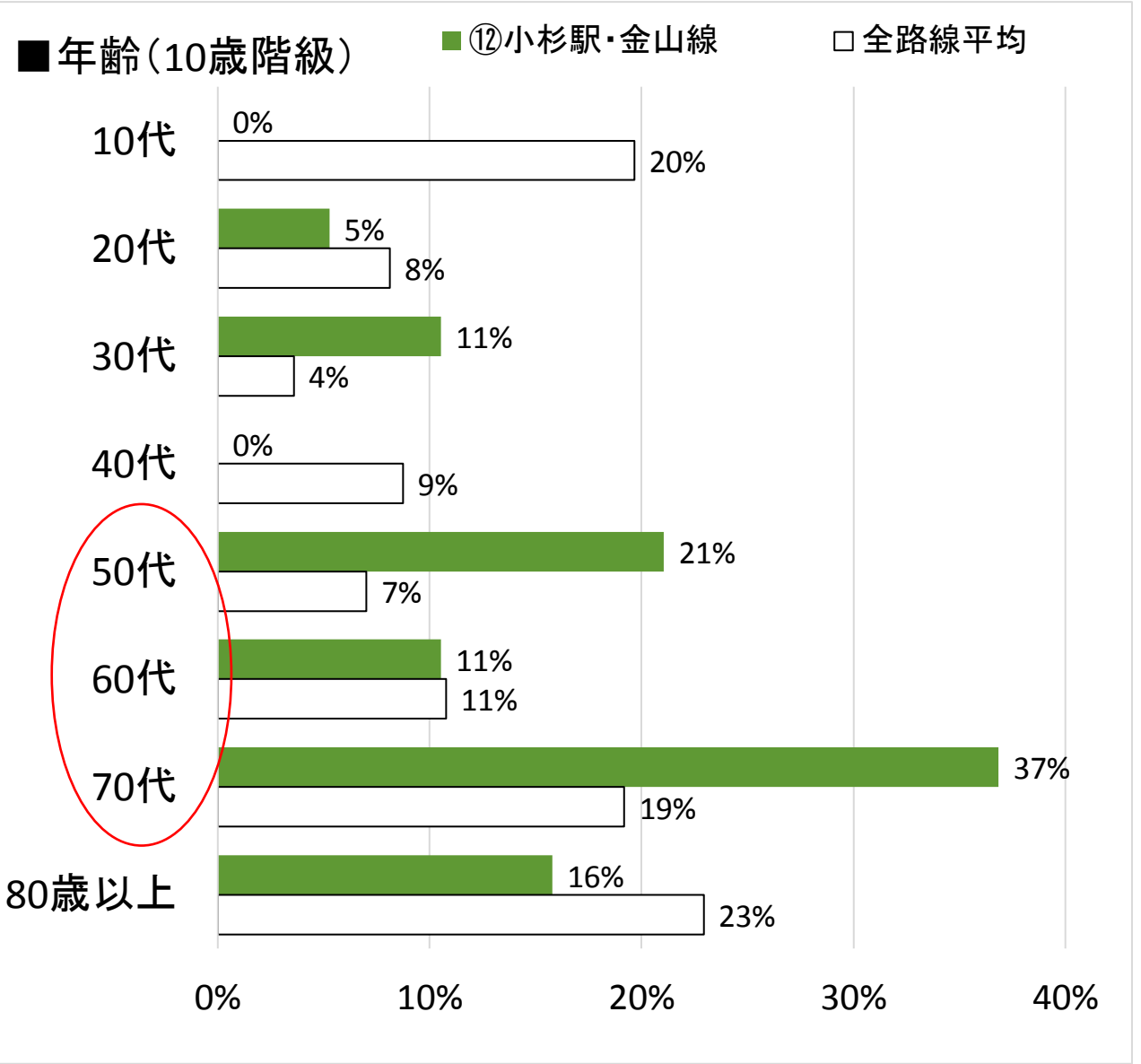
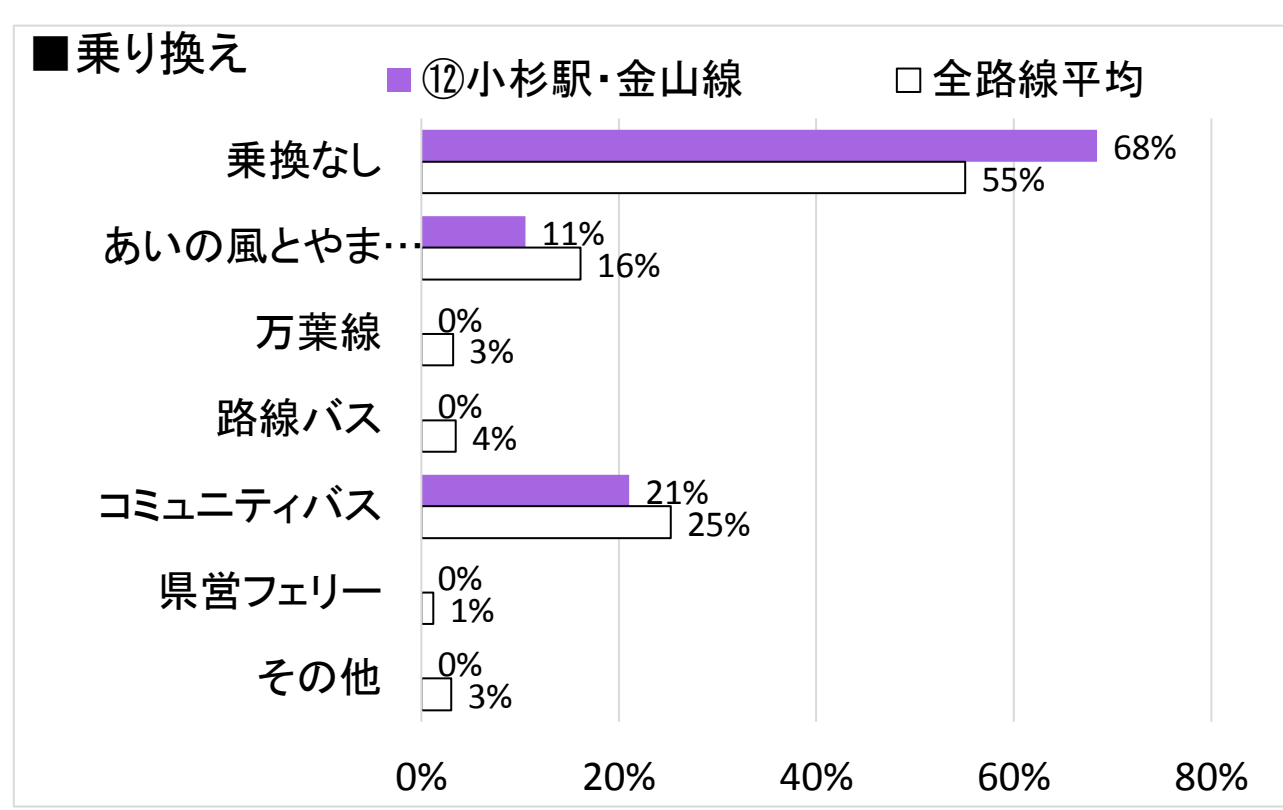
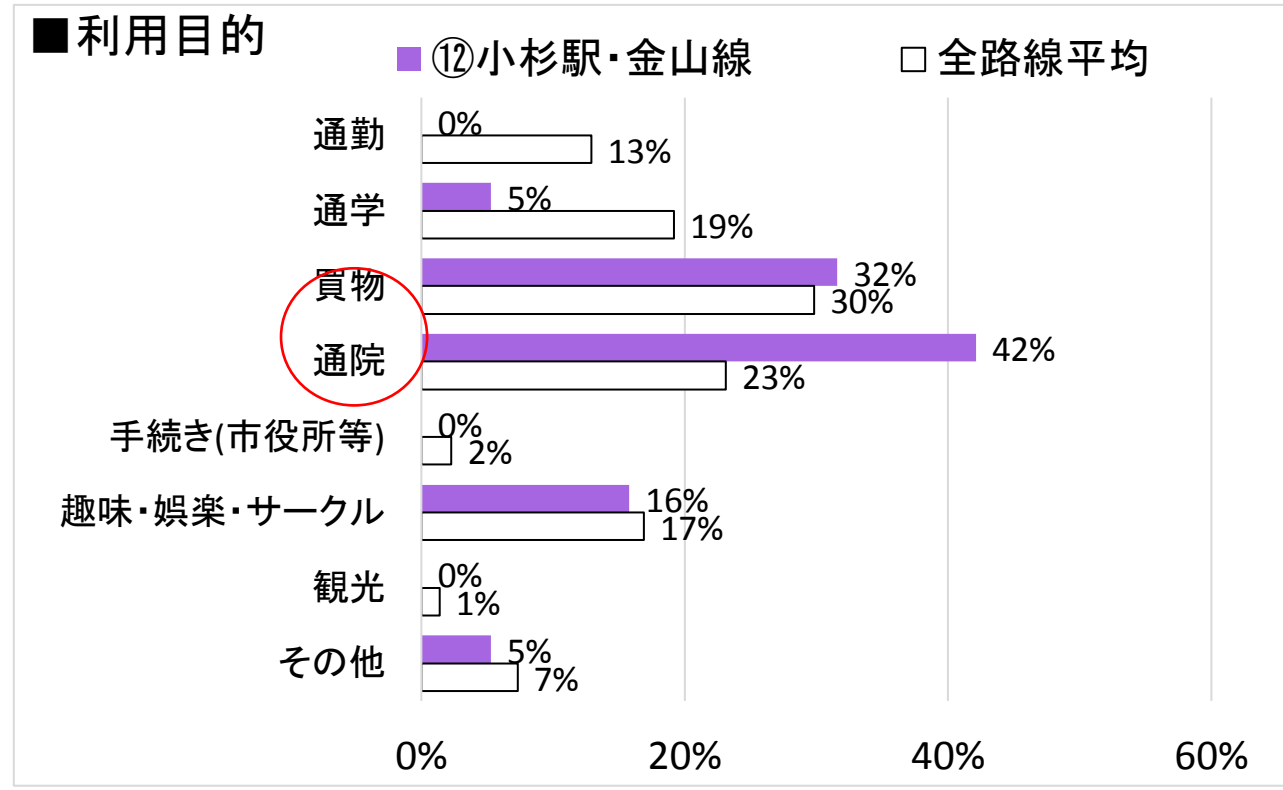
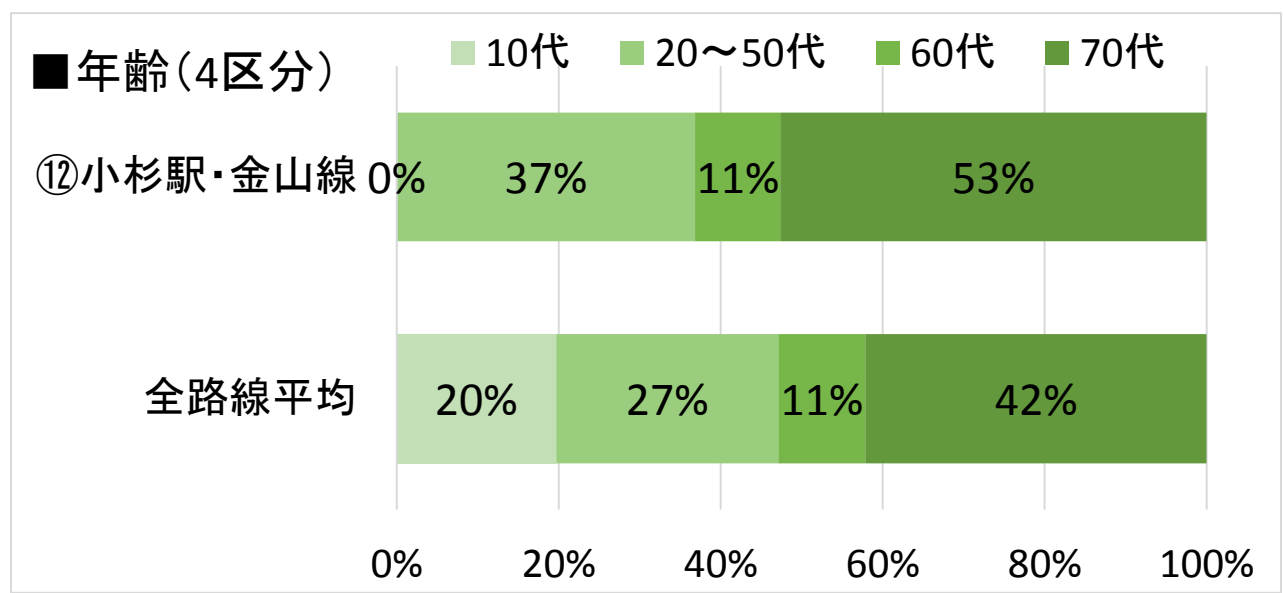
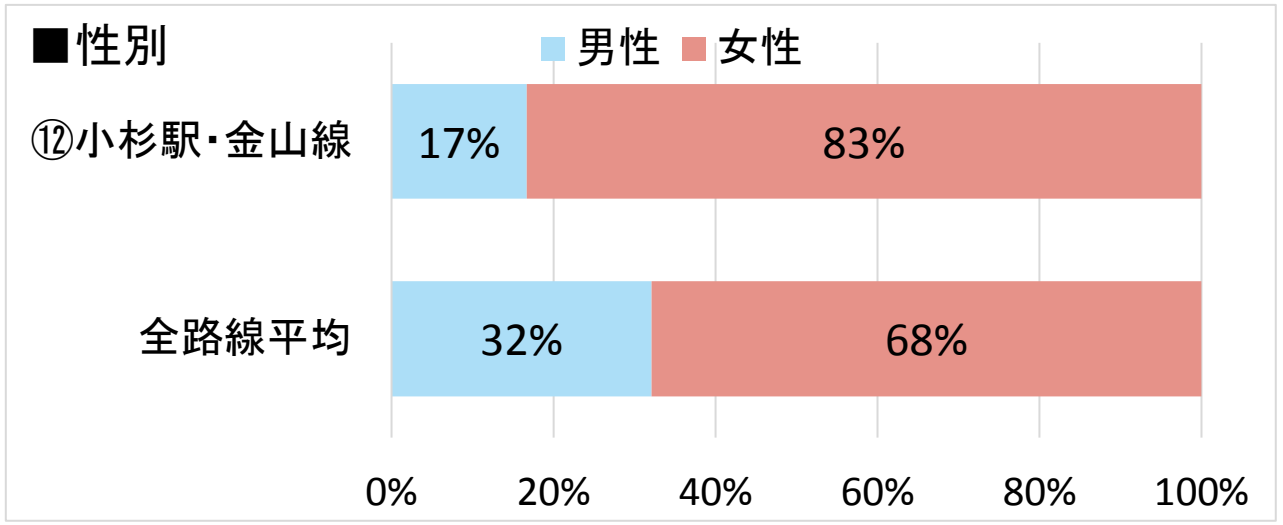
	平日	休日
2017	13	0
2018	8	0
伸び率	-35%	



⑫小杉駅・金山線

・50代～70代の前期高齢者の利用が多めであり、利用目的は買物、通院が多い。なお、10代の通学利用がアンケート上みられないが、これは小学生の回答を反映していないためと考えられ、バス停利用状況を見ると、金山小学校への通学利用が多いと考えられる。
・朝の便の利用が特に多く、昼から夕にかけて利用が少なくなっていく傾向が続いており見られる。
・乗り換え利用は他路線より少なめである。
・長期的に大きく利用が減少しており、ニーズにあった運行の一部見直しと合わせ利用促進策を図っていく必要がある。

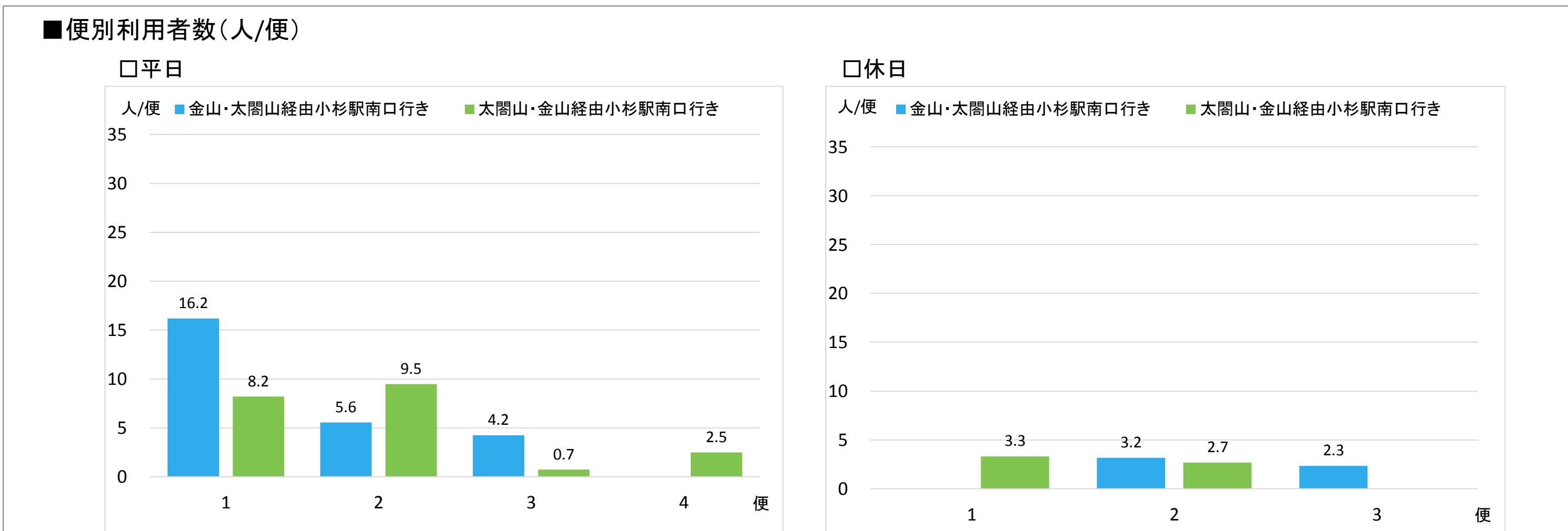
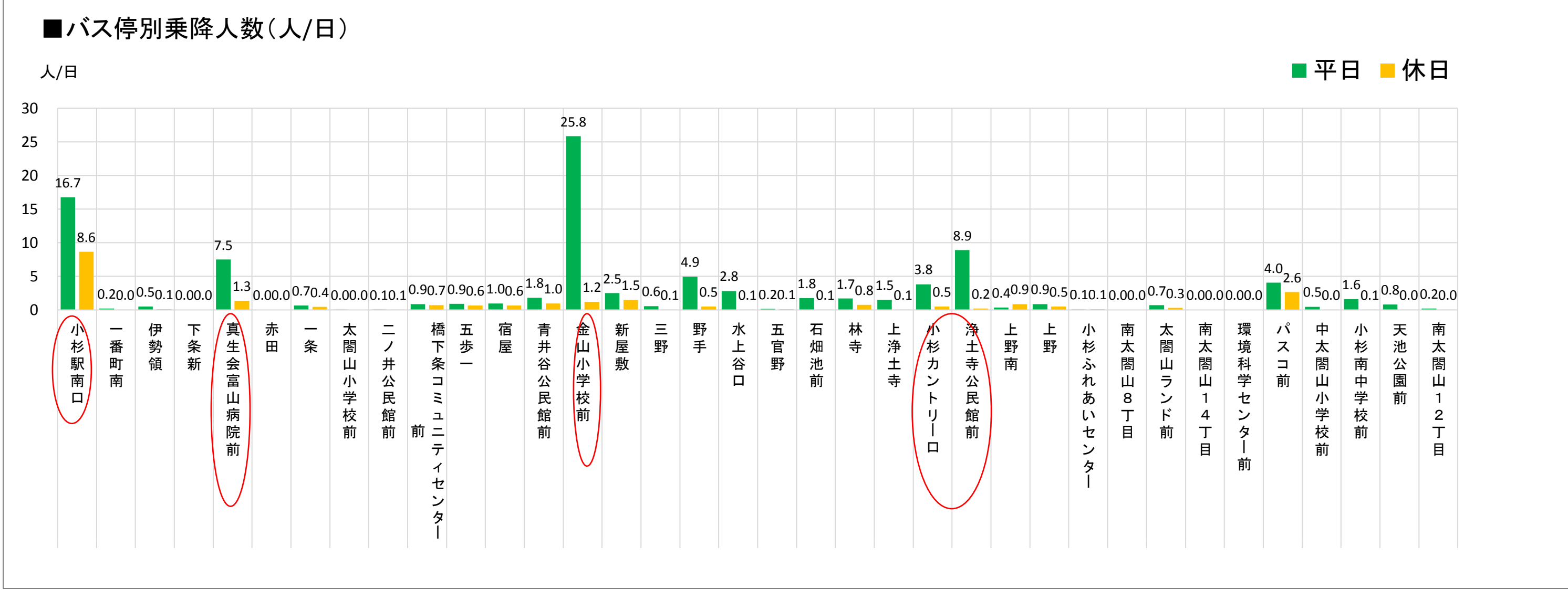
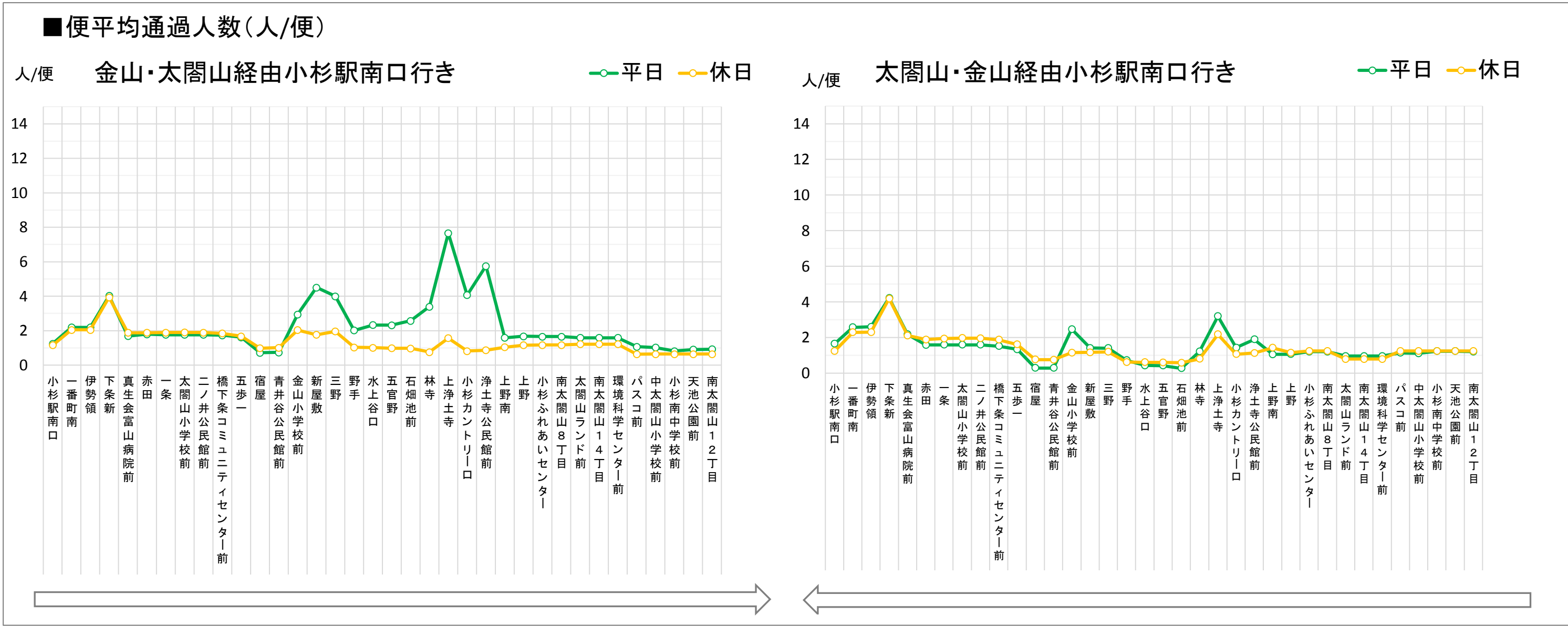
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

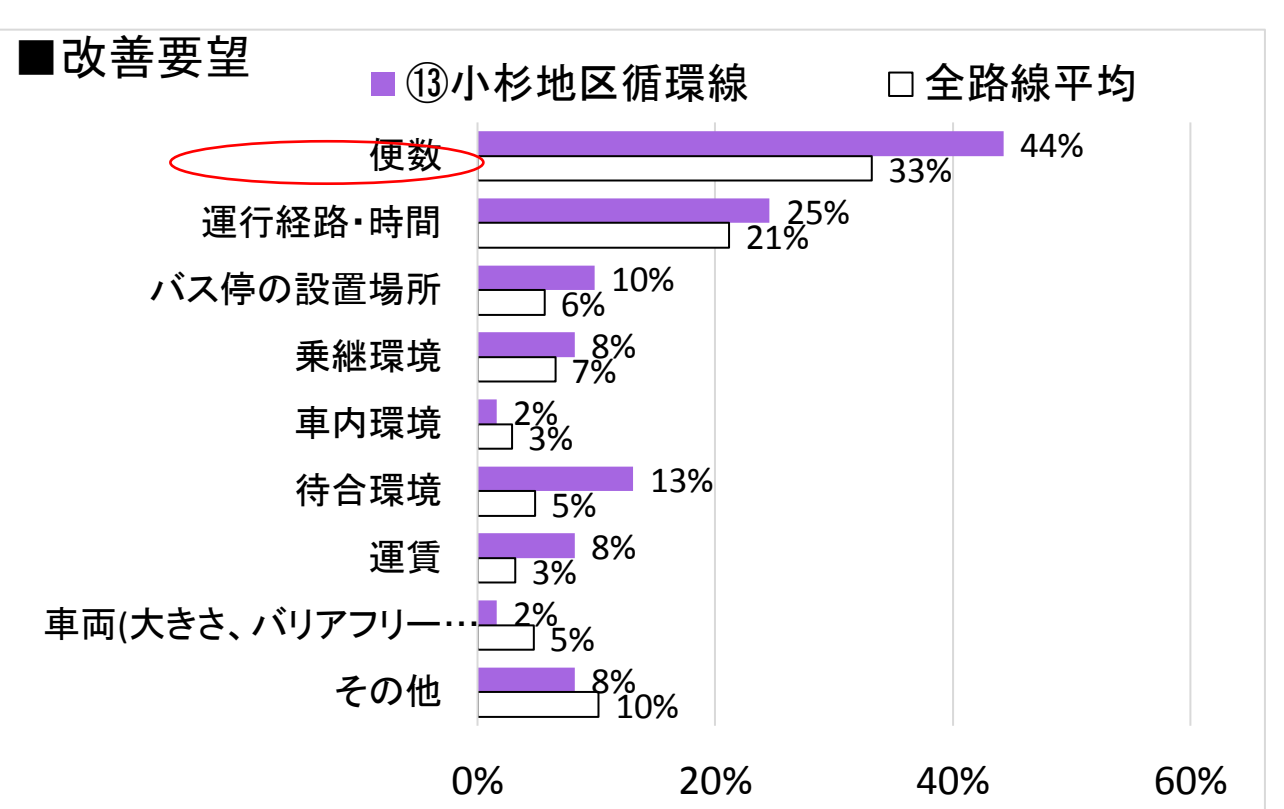
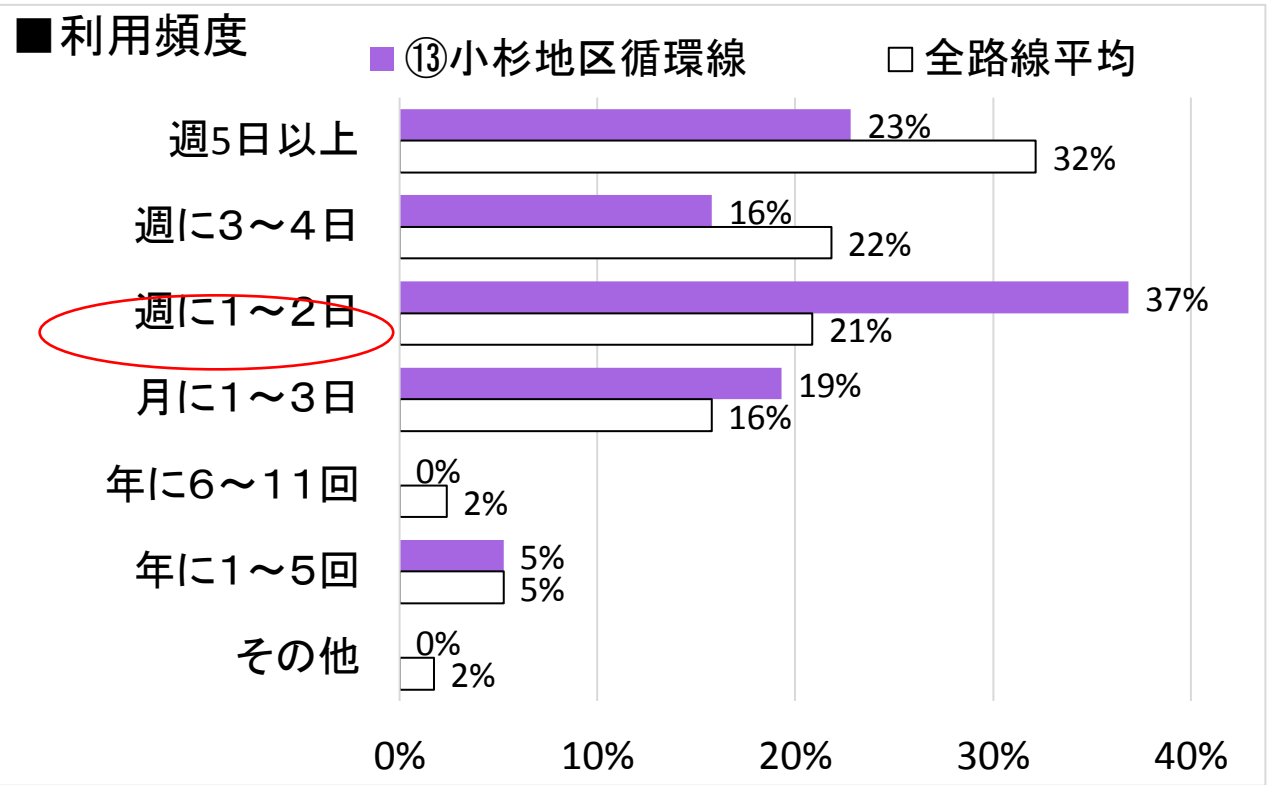
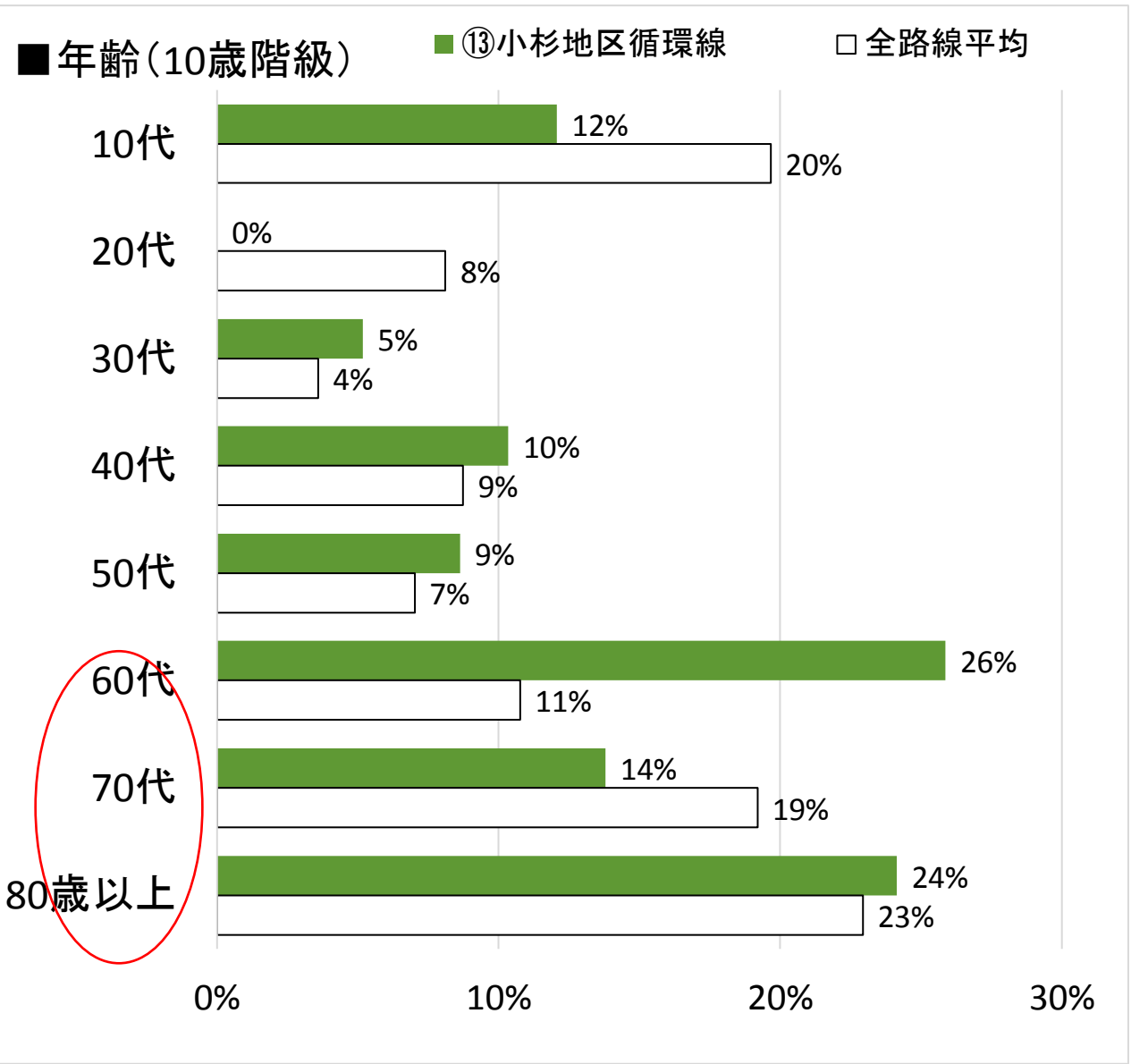
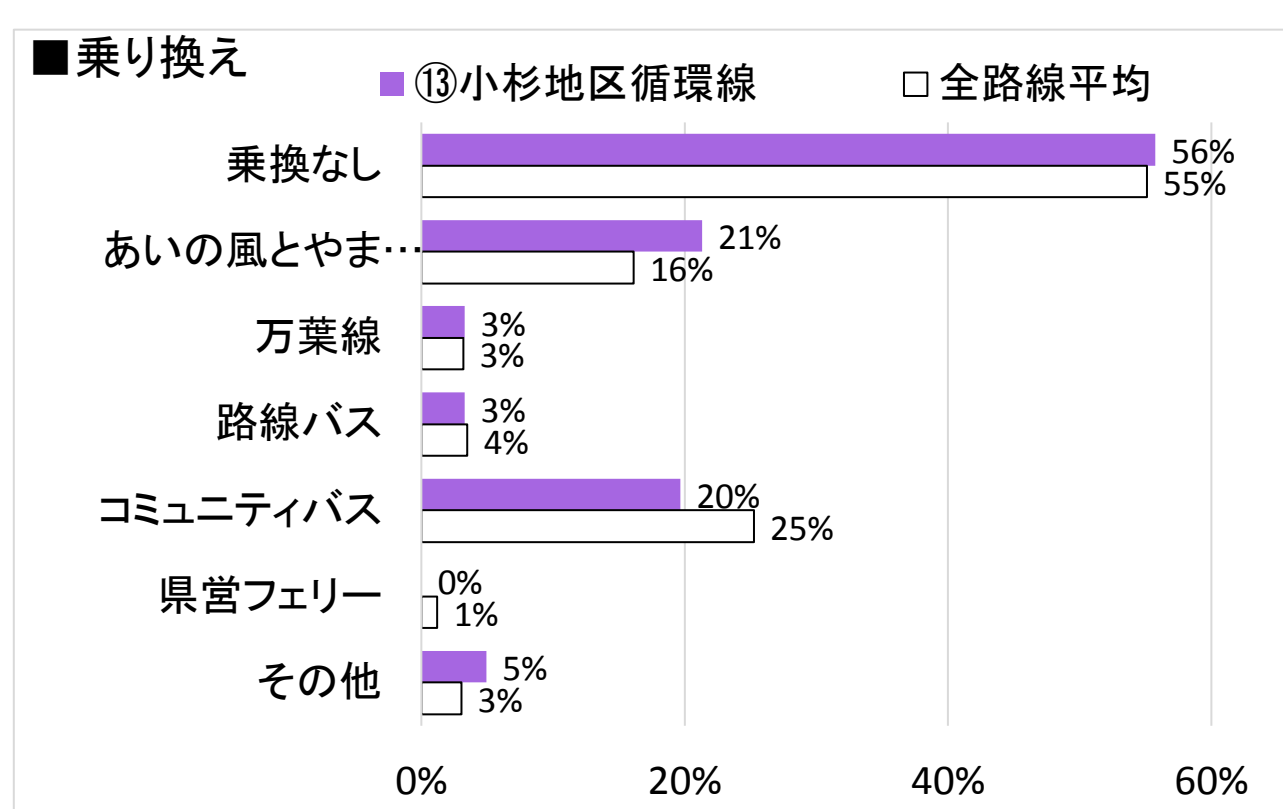
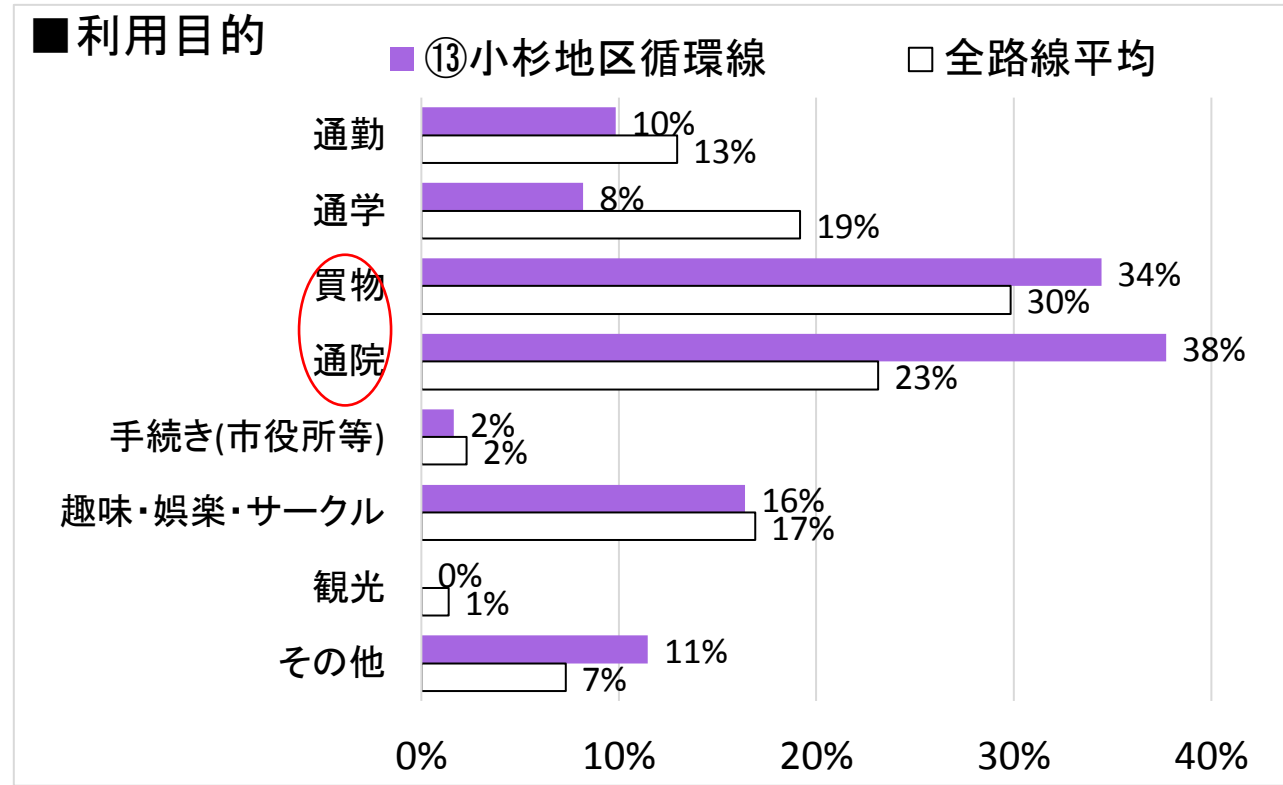
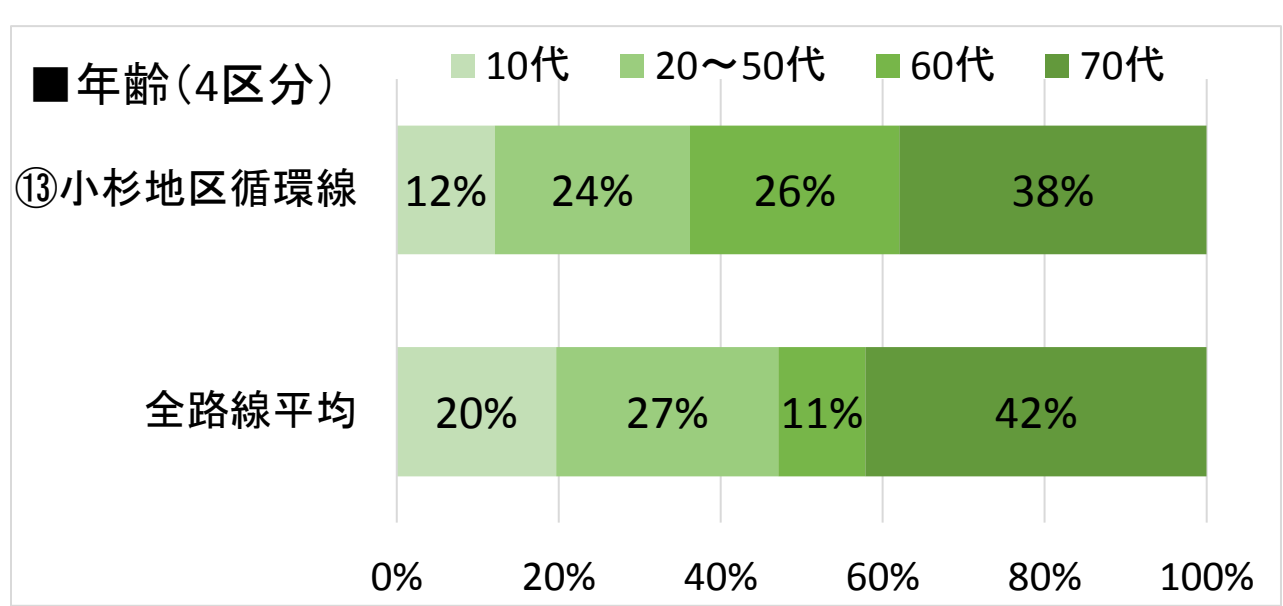
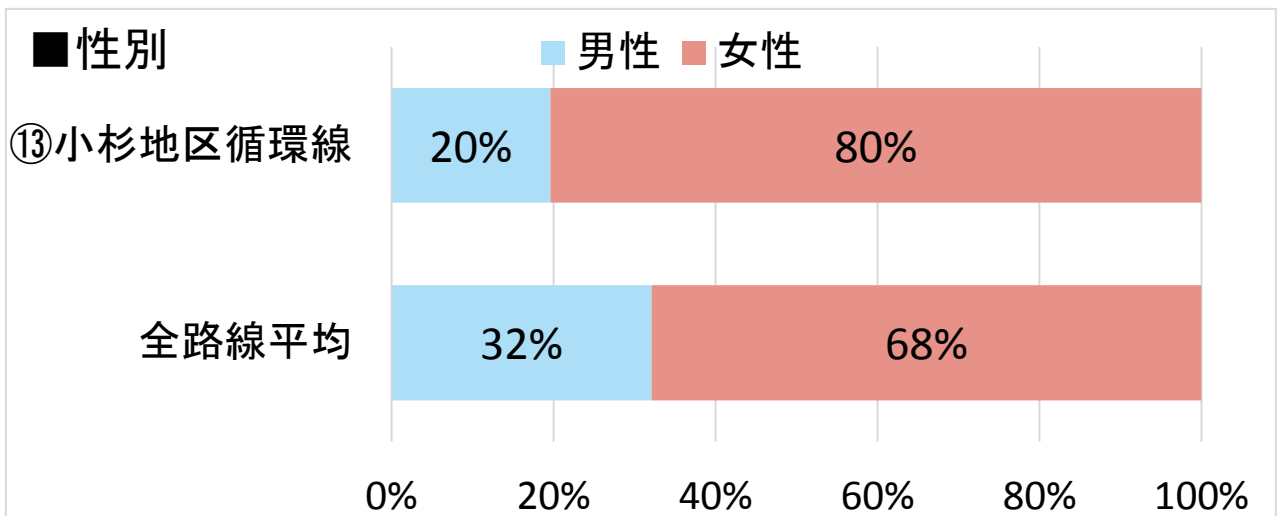
	平日	休日
2017	51	12
2018	47	12
伸び率	-7%	-0



⑬小杉地区循環線

・60代の高齢者の利用が多めであり、利用目的は買物、通院が多い。小杉駅、新生会富山病院、パスコが主な目的地となっている。
・便別の利用状況を見ると、各便まんべんなく利用されているが、7便は利用がほとんどみられない。
・長期的に利用が安定しており、引き続き利用促進策により利用者を維持することが求められる。

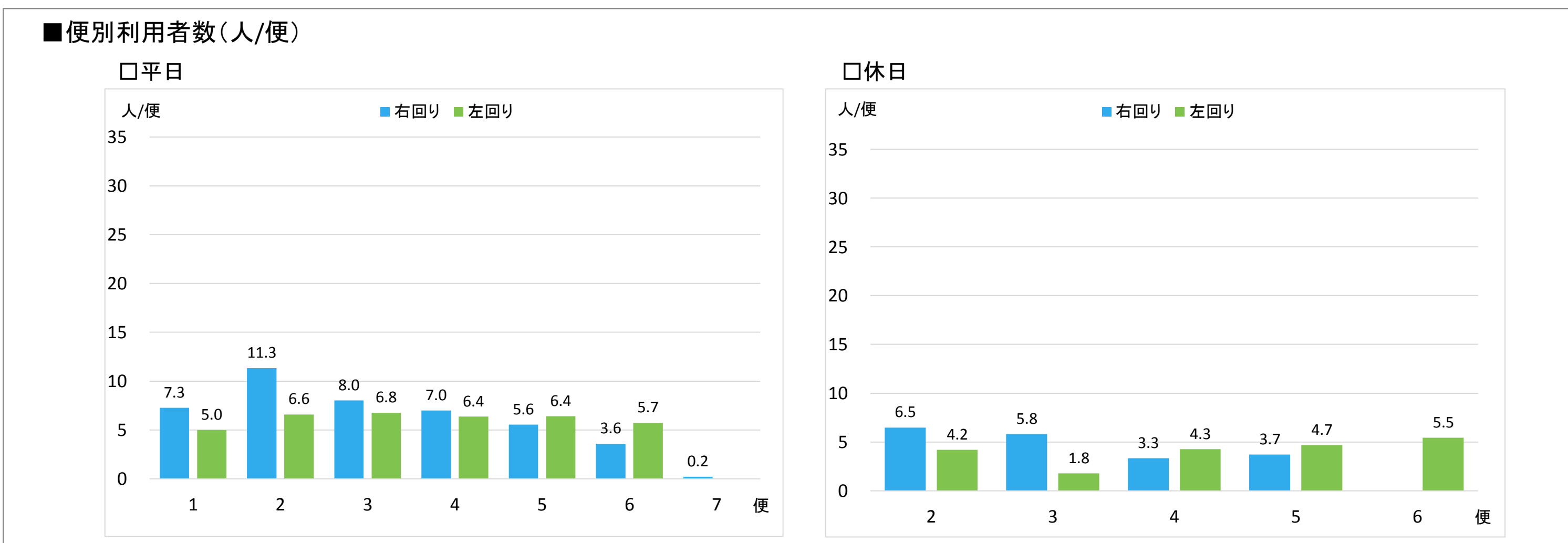
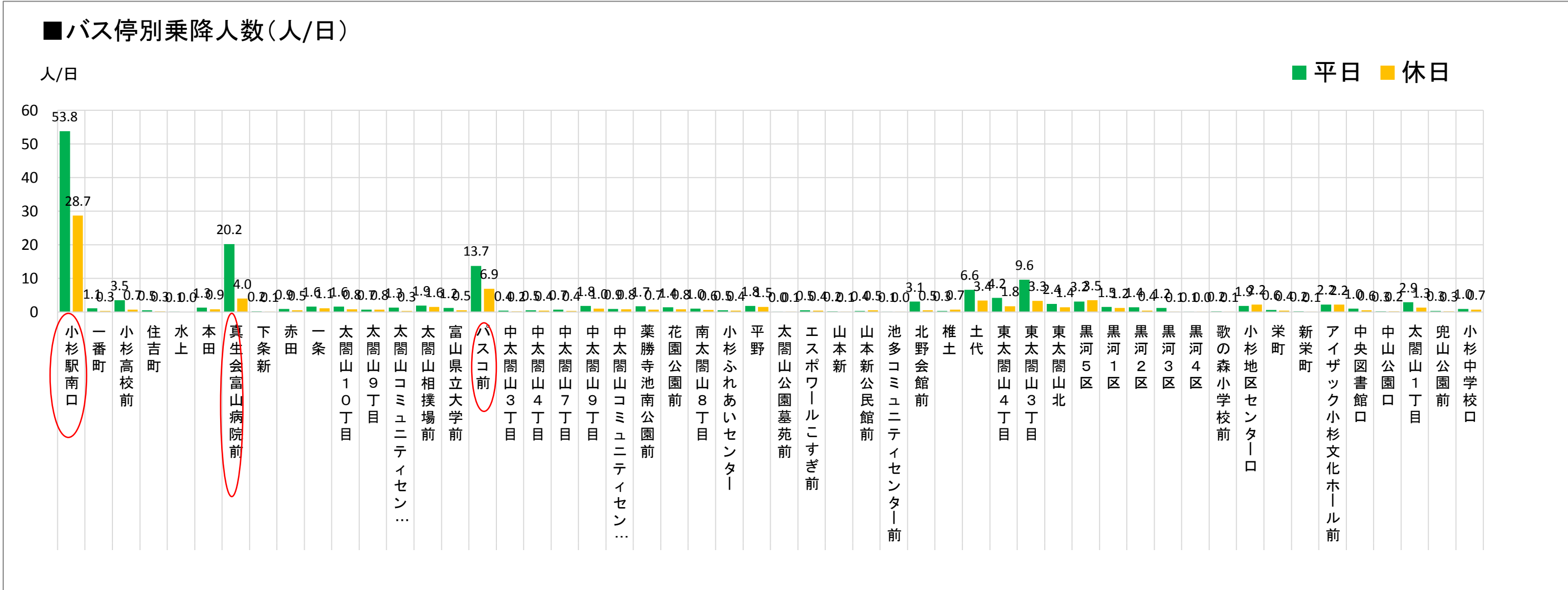
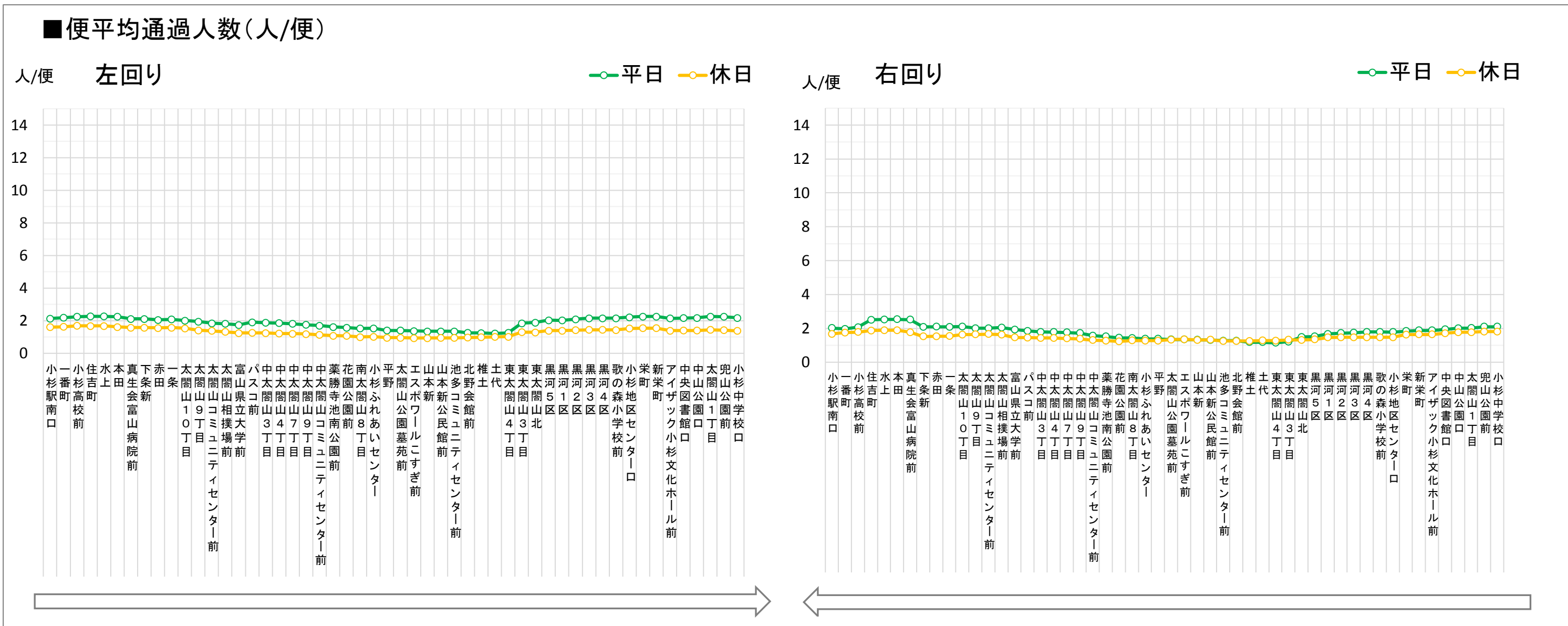
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

	平日	休日
2017	82	41
2018	80	40
伸び率	-2%	-0



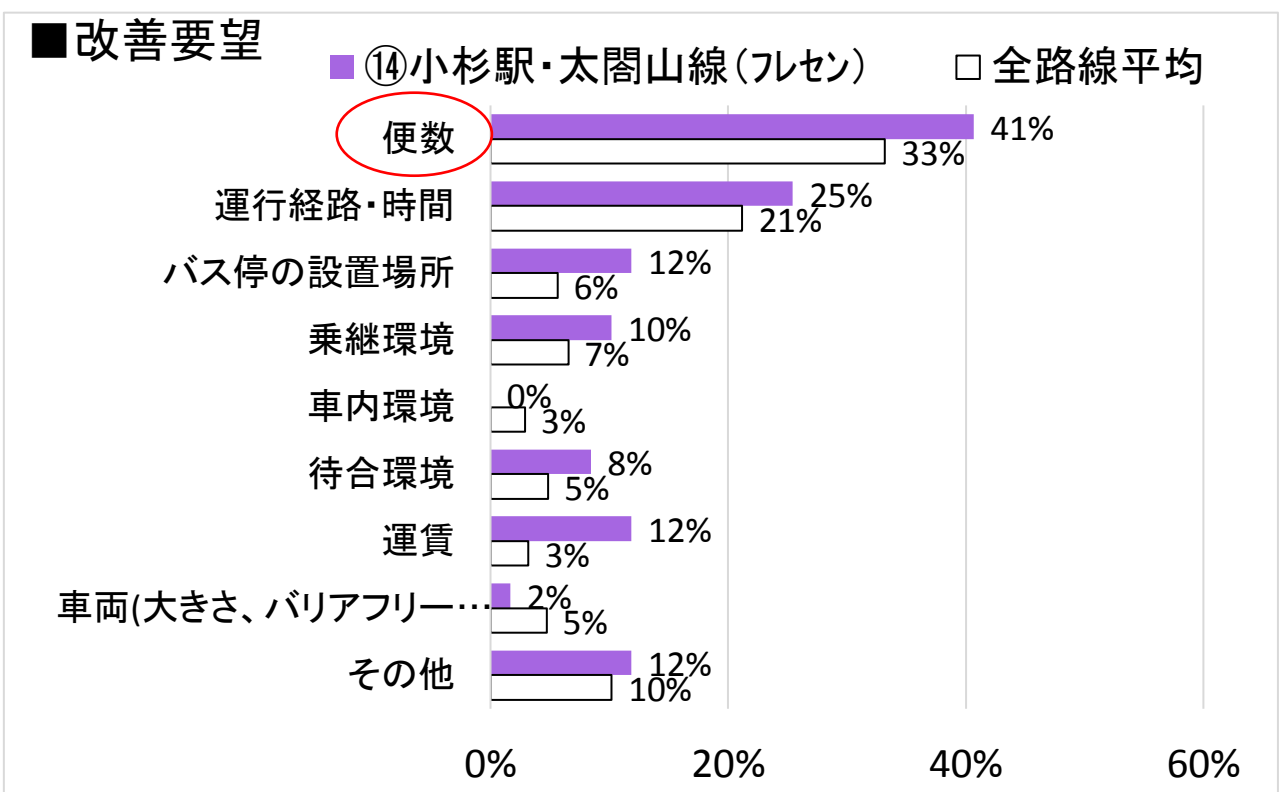
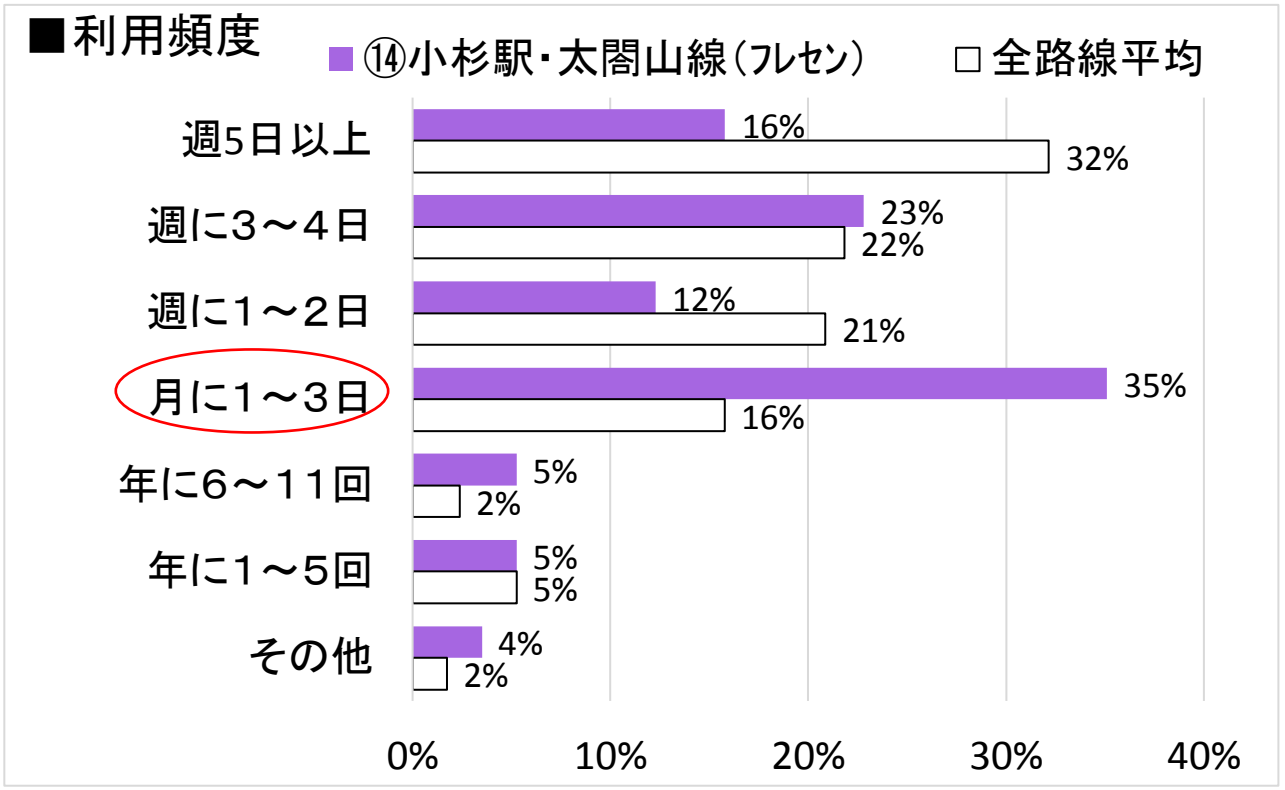
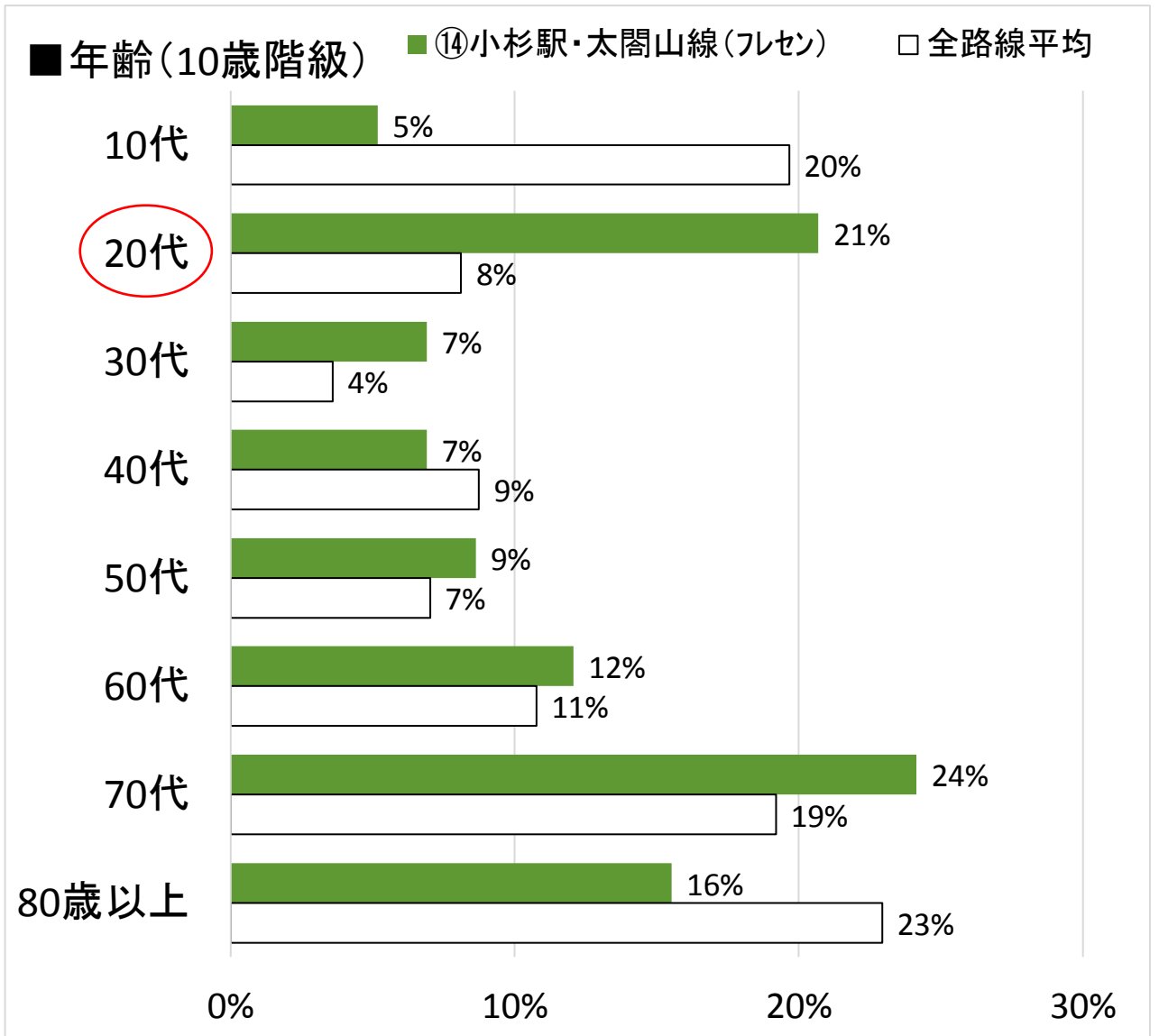
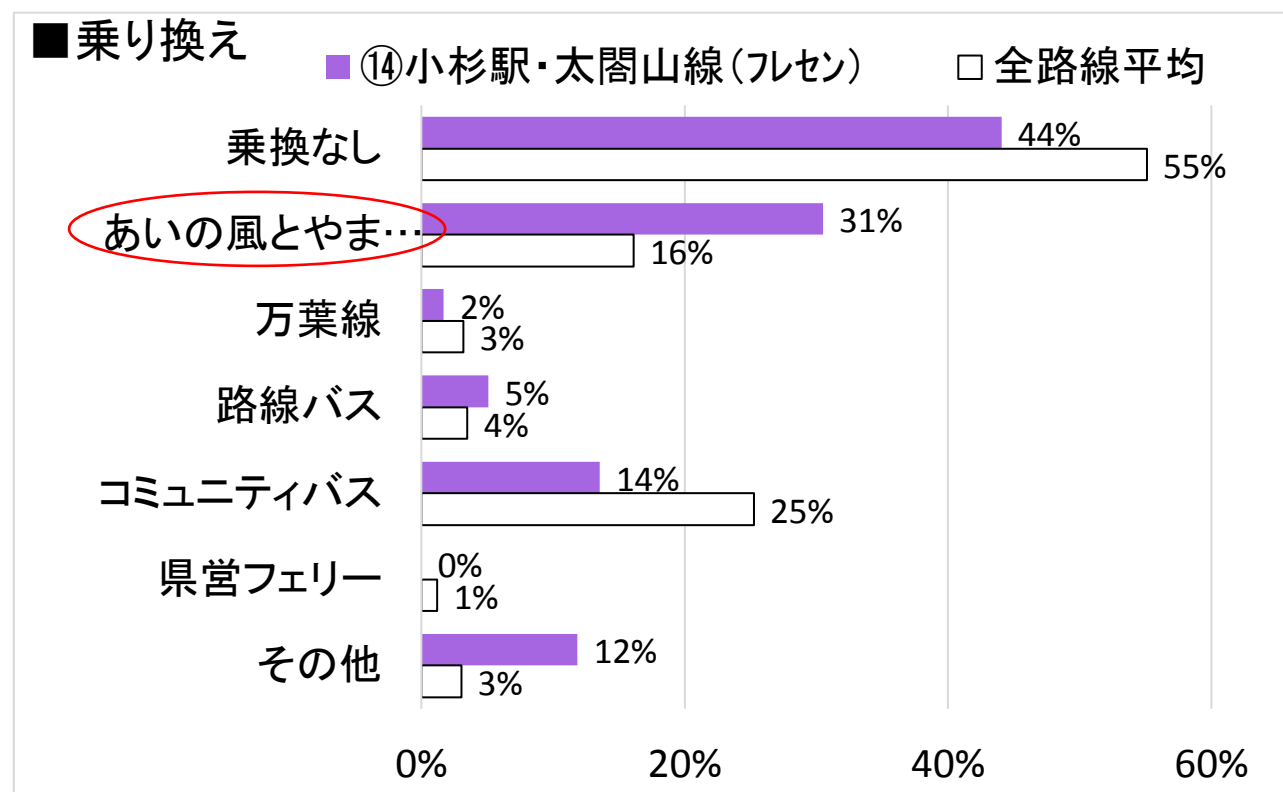
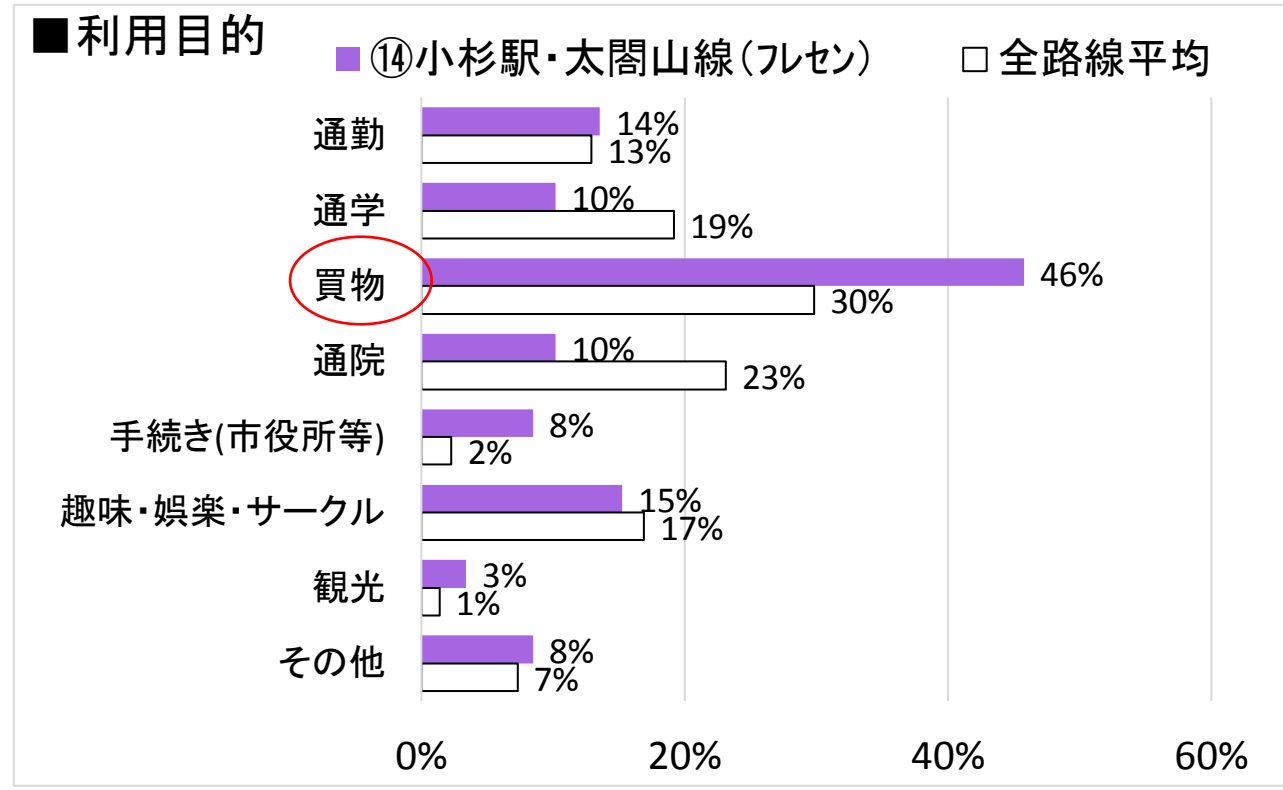
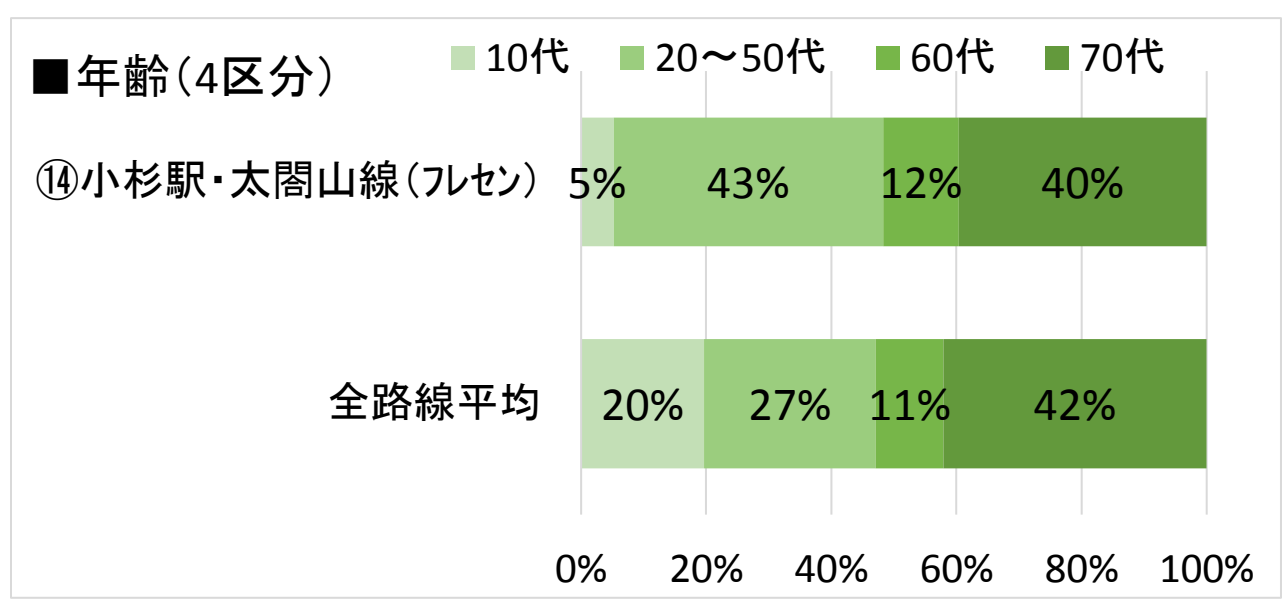
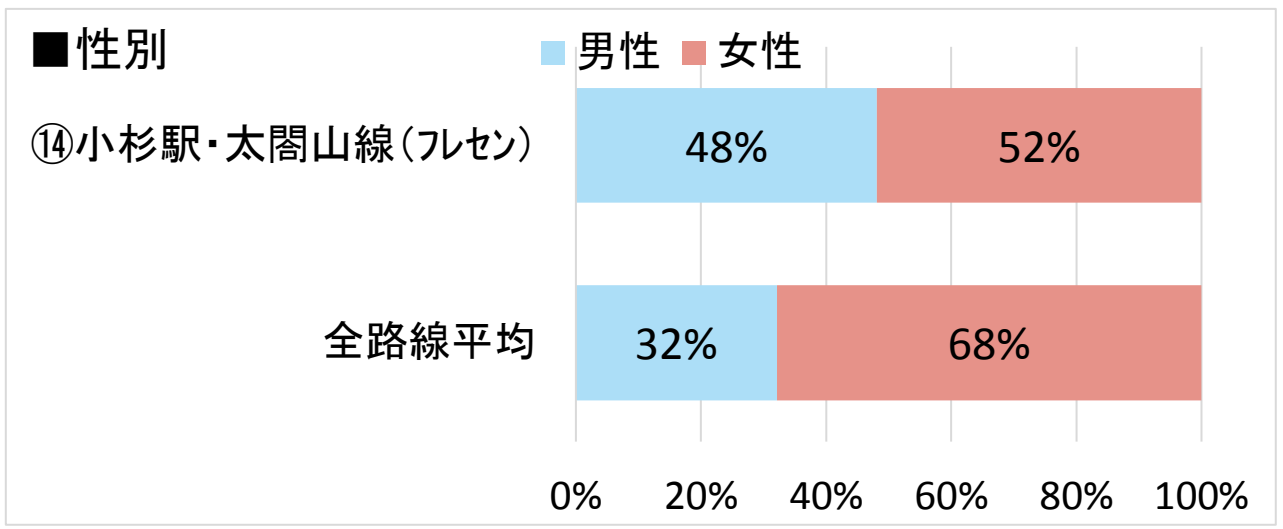
⑭小杉駅・太閤山線(小杉駅⇄小杉ふれあいセンター)

・70代の高齢者の利用及び20台の学生利用(富山県立大学)が多めであり、利用目的は買物が多い。小杉駅、富山県立大学、パスコが主な目的地となっている。

・便別の利用状況を見ると、朝便が利用が多めのほか各便まんべんなく利用されているが、13便は利用がほとんどみられない。

・長期的に利用は微減傾向であり、利用促進策により利用者の回復を図ることが求められる。

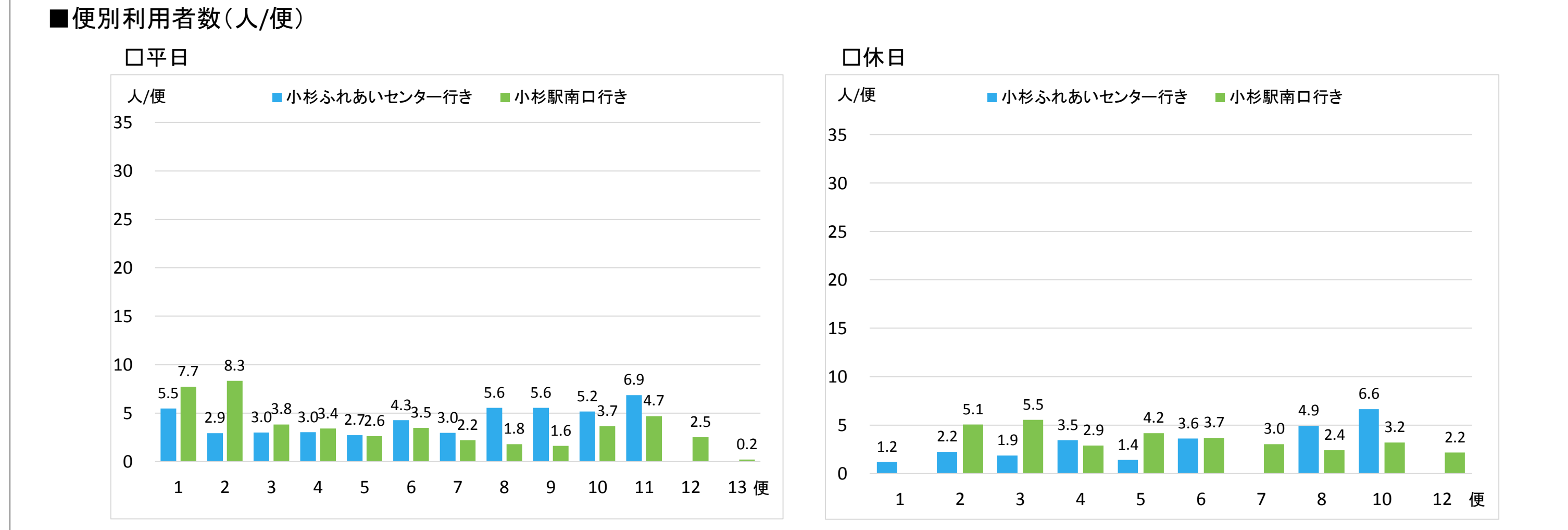
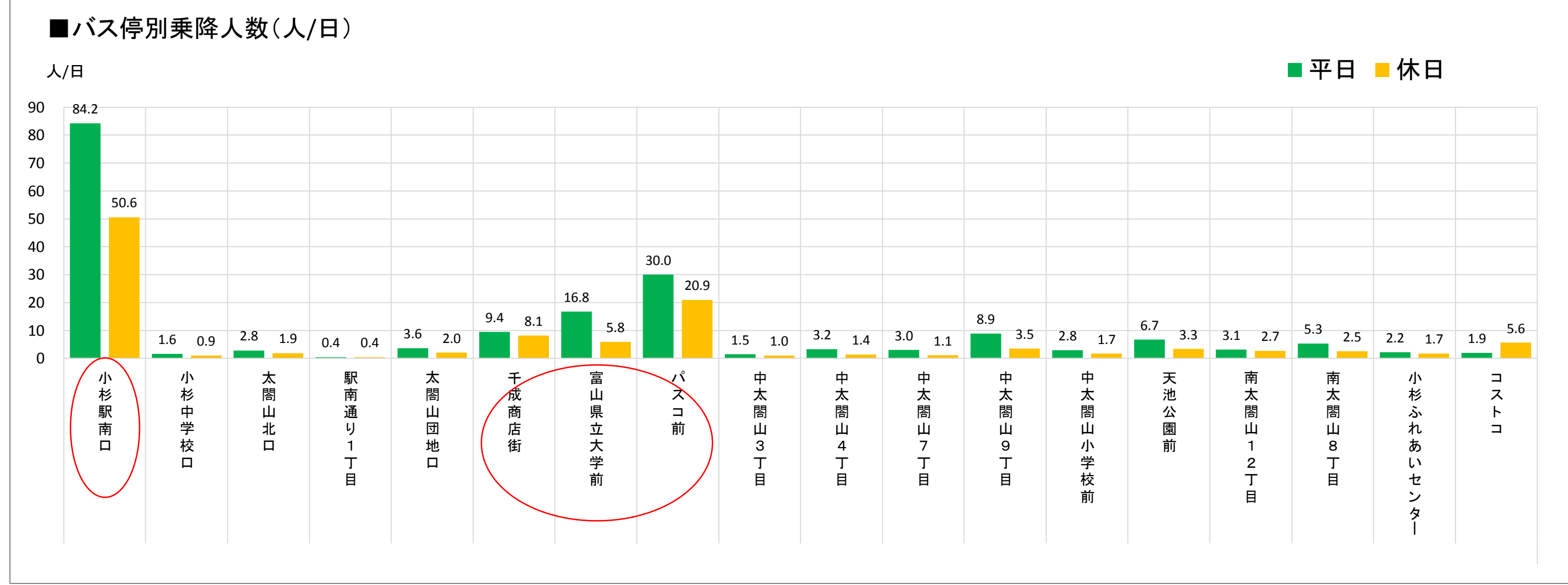
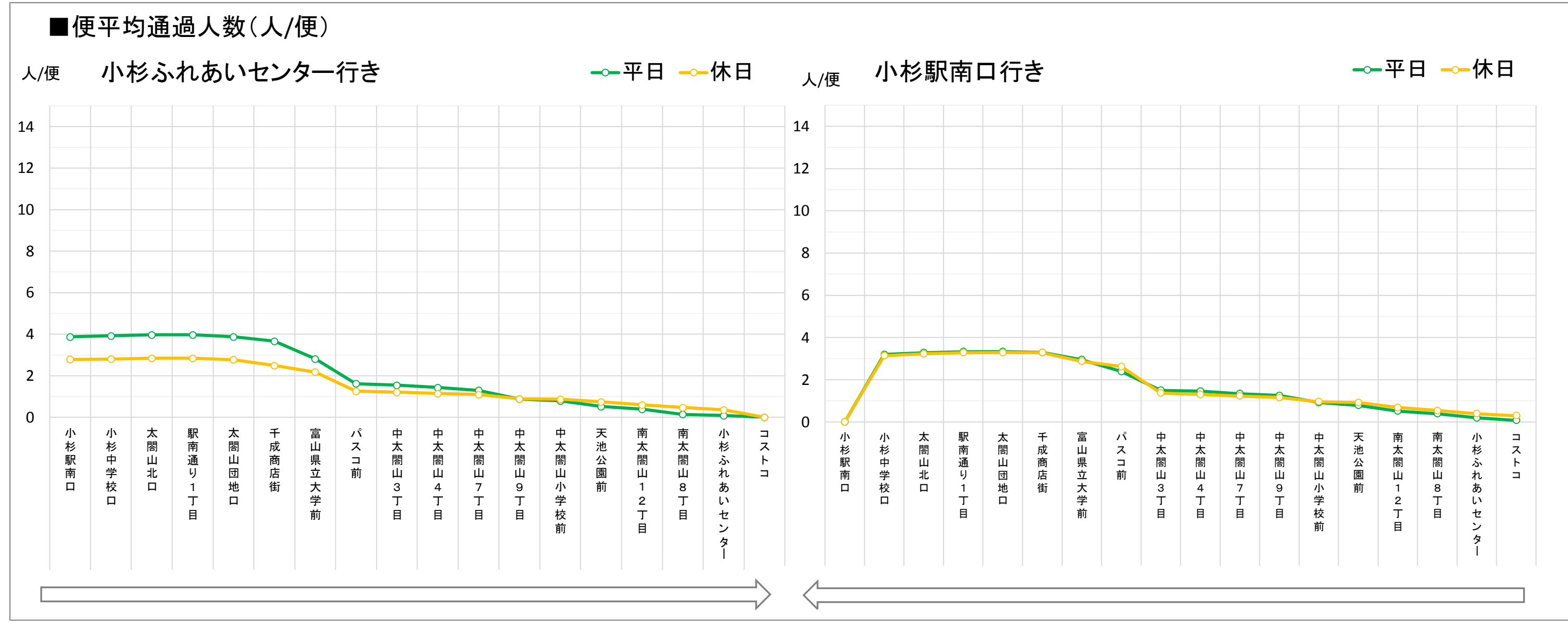
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

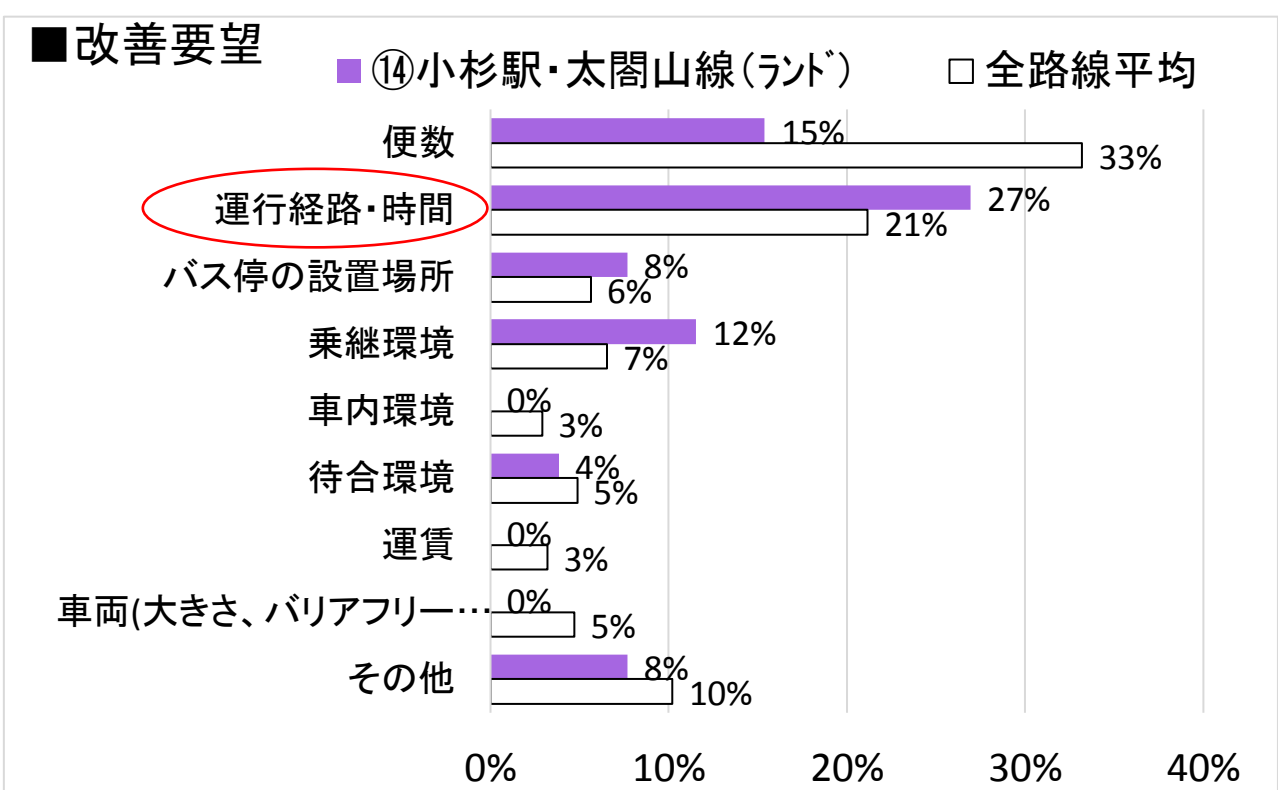
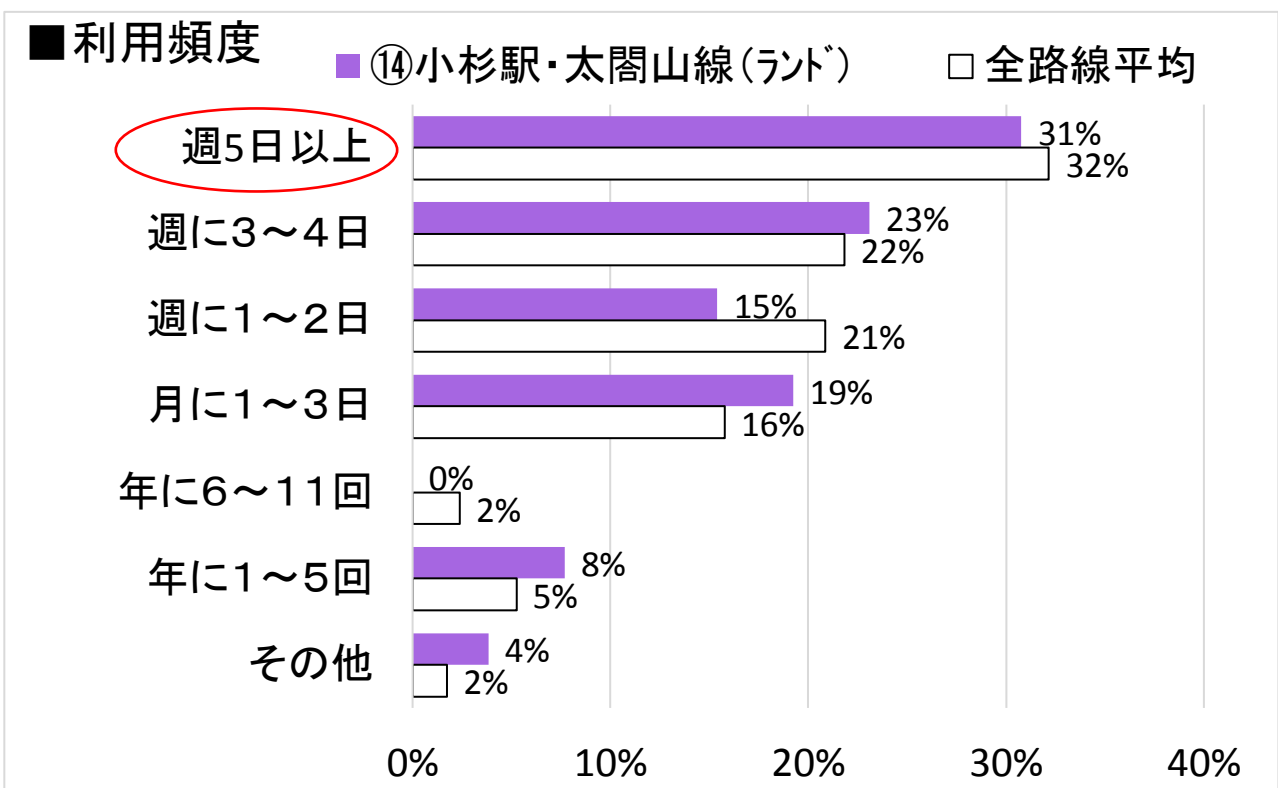
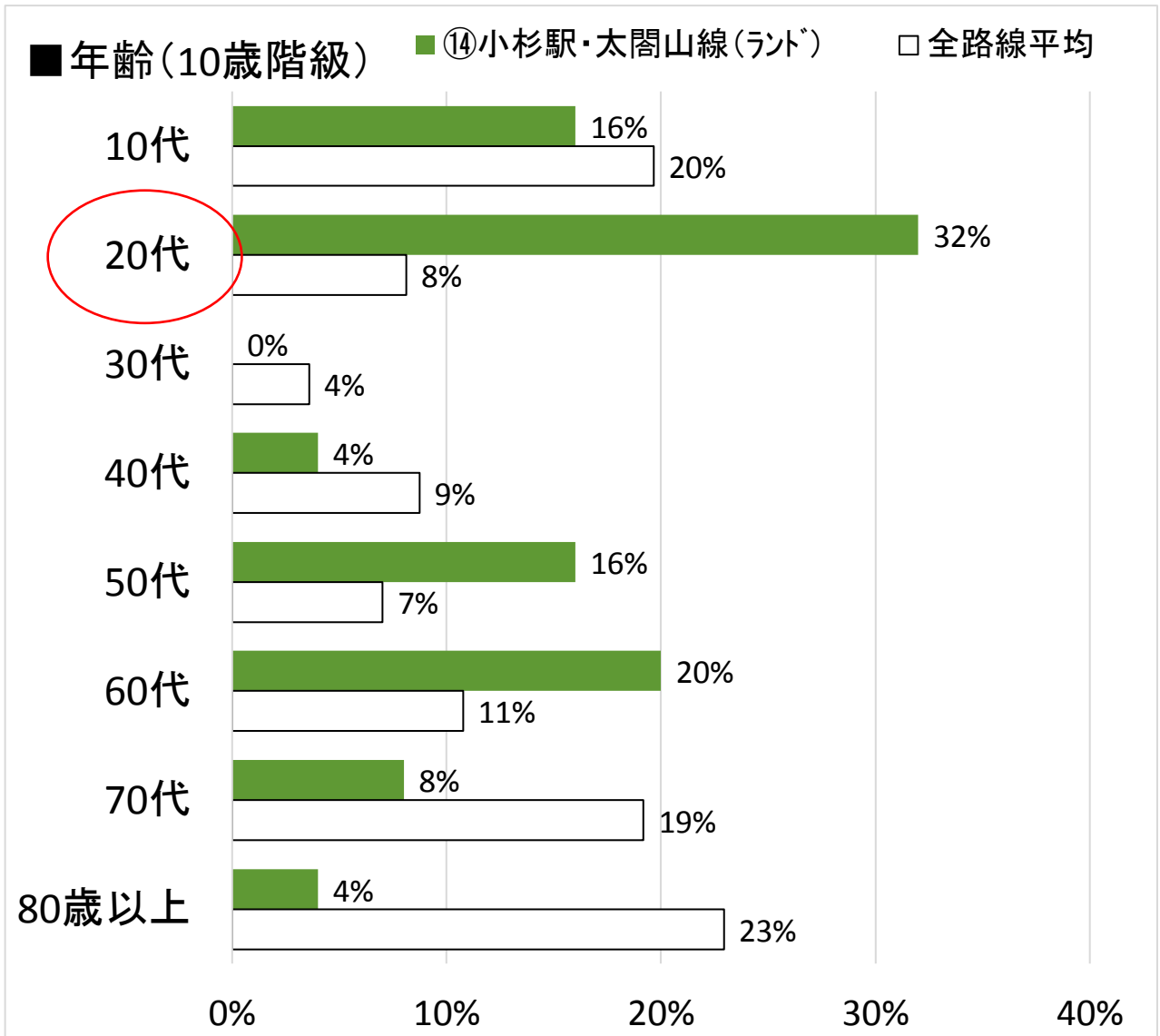
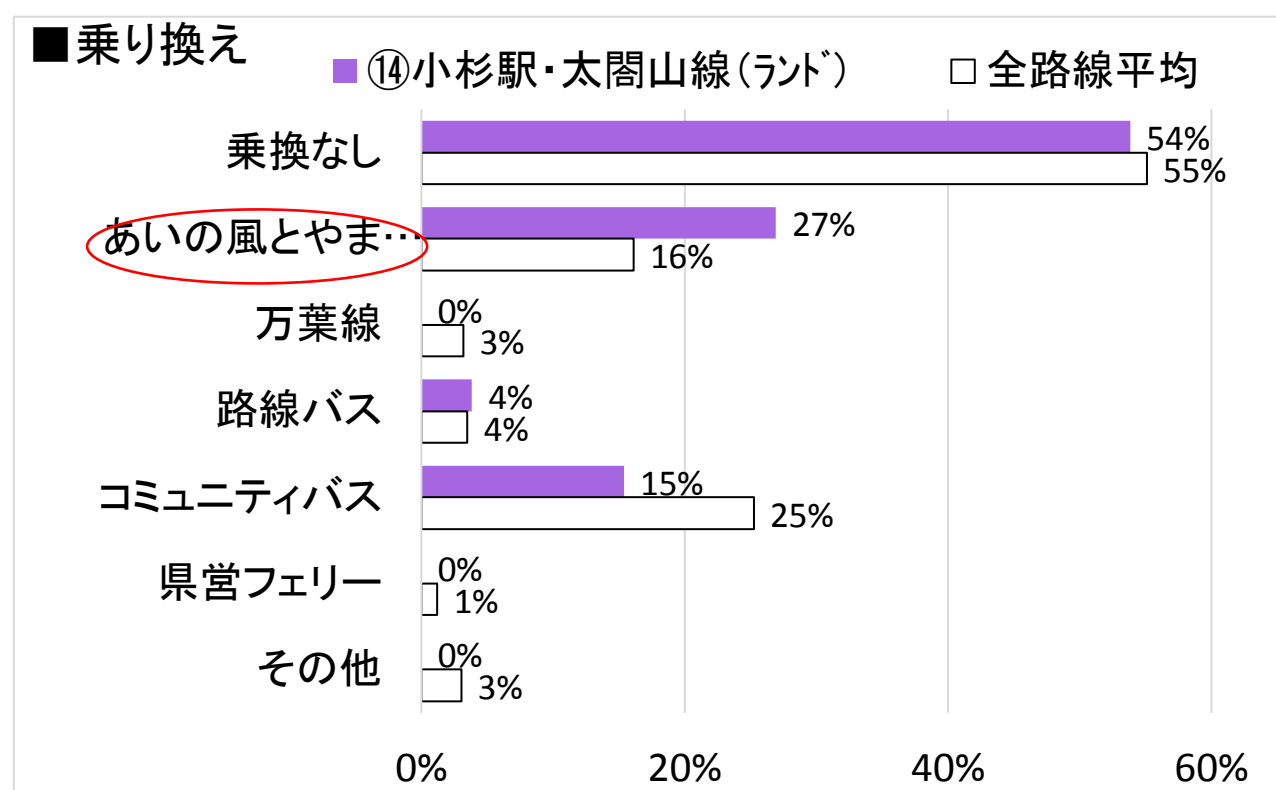
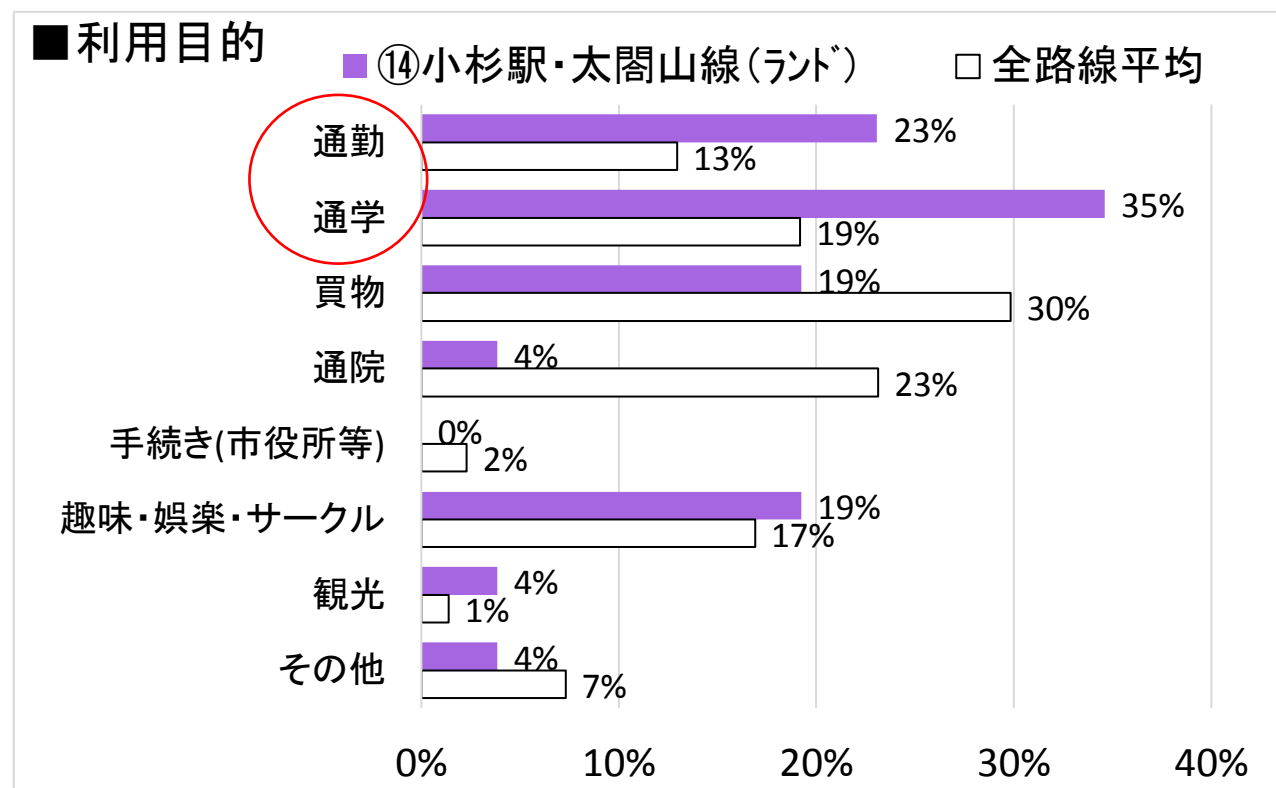
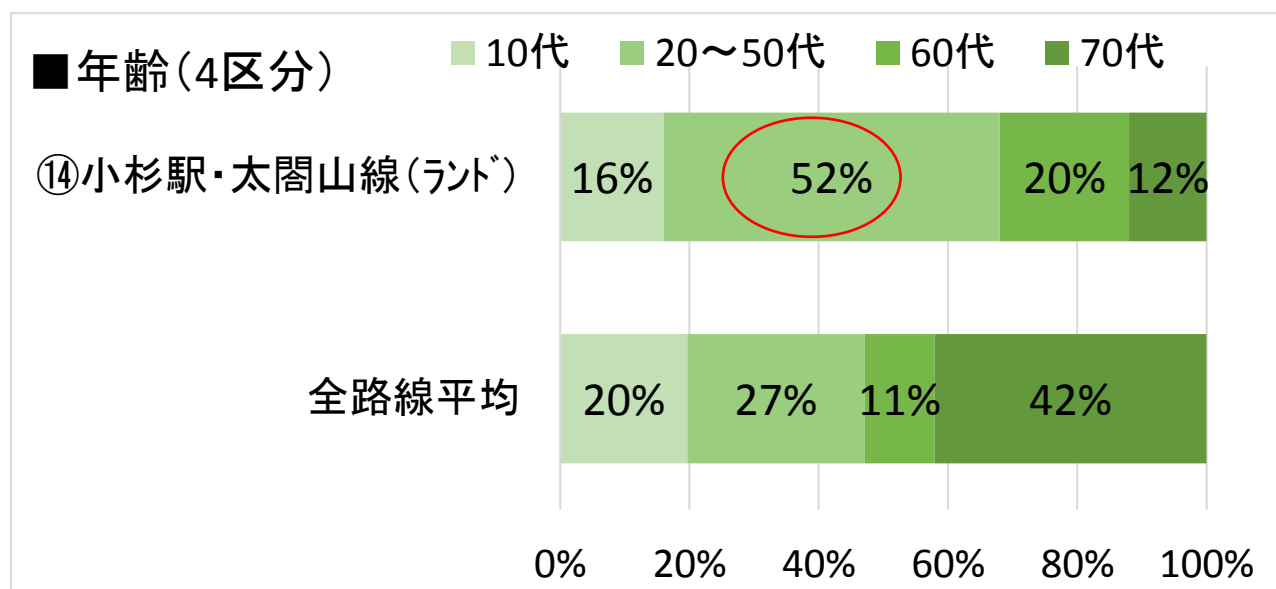
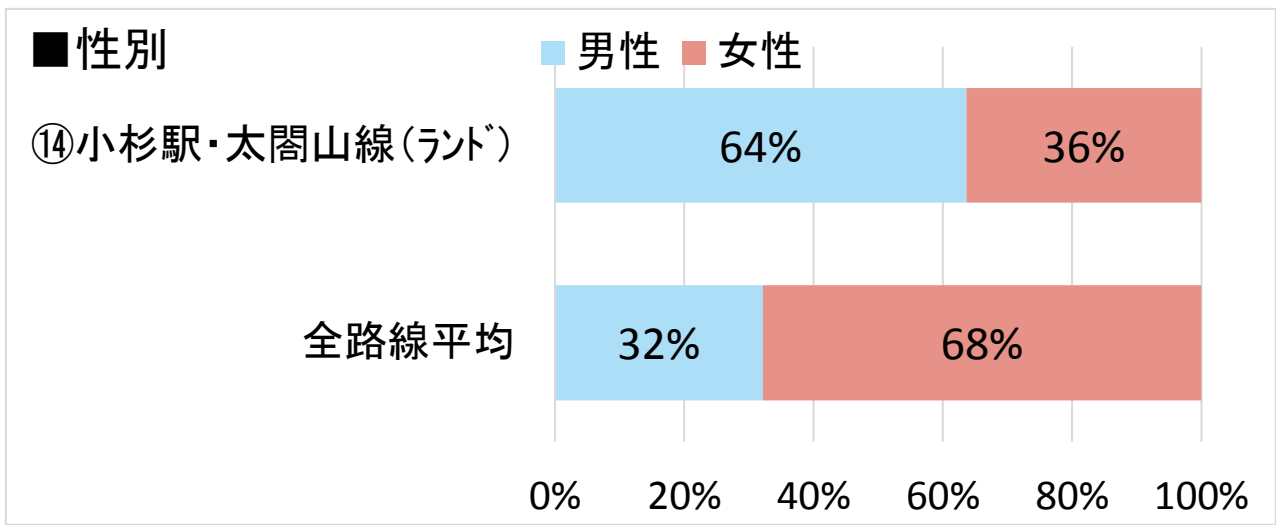
	平日	休日
2017	83	59
2018	94	58
伸び率	13%	-0



⑭小杉駅・太閤山線(小杉駅⇄太閤山ランド)

・20代の学生利用(富山県立大学)、60代の高齢者の利用、50代の通勤利用が多めである。小杉駅、富山県立大学、パスコ、太閤山ランドが主な目的地となっている。
・便別の利用状況を見ると、1便の利用が多いほか、各便まんべんなく利用されている。
・長期的に利用は微減傾向であり、利用促進策により利用者の回復を図ることが求められる。

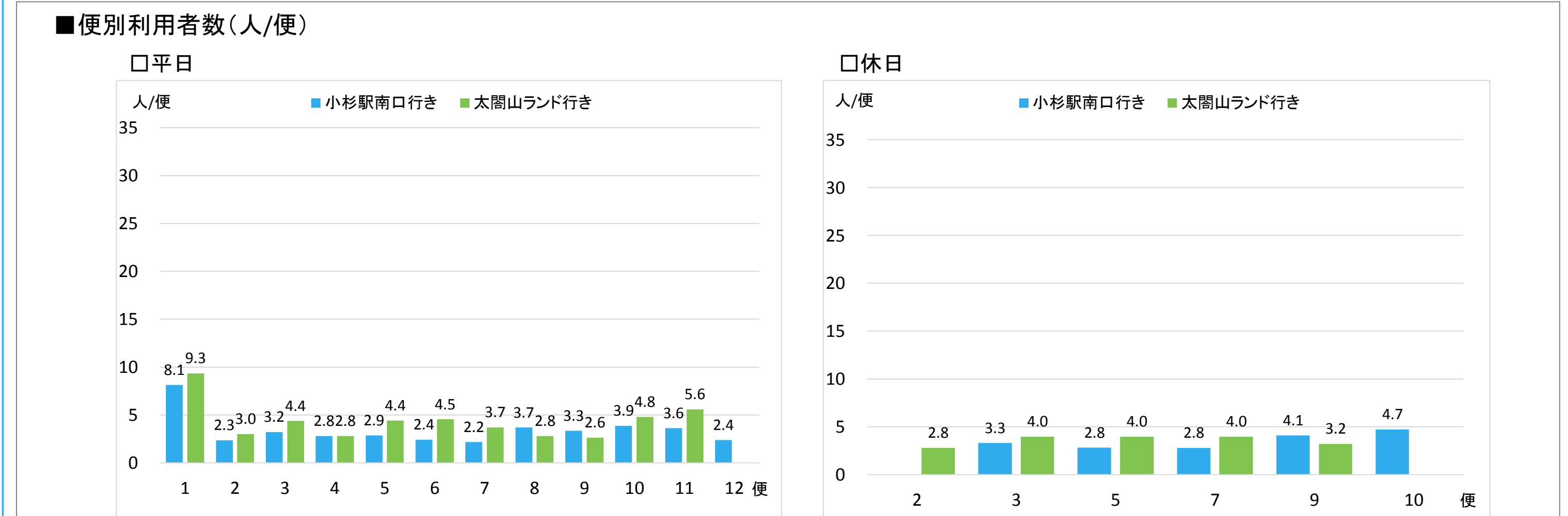
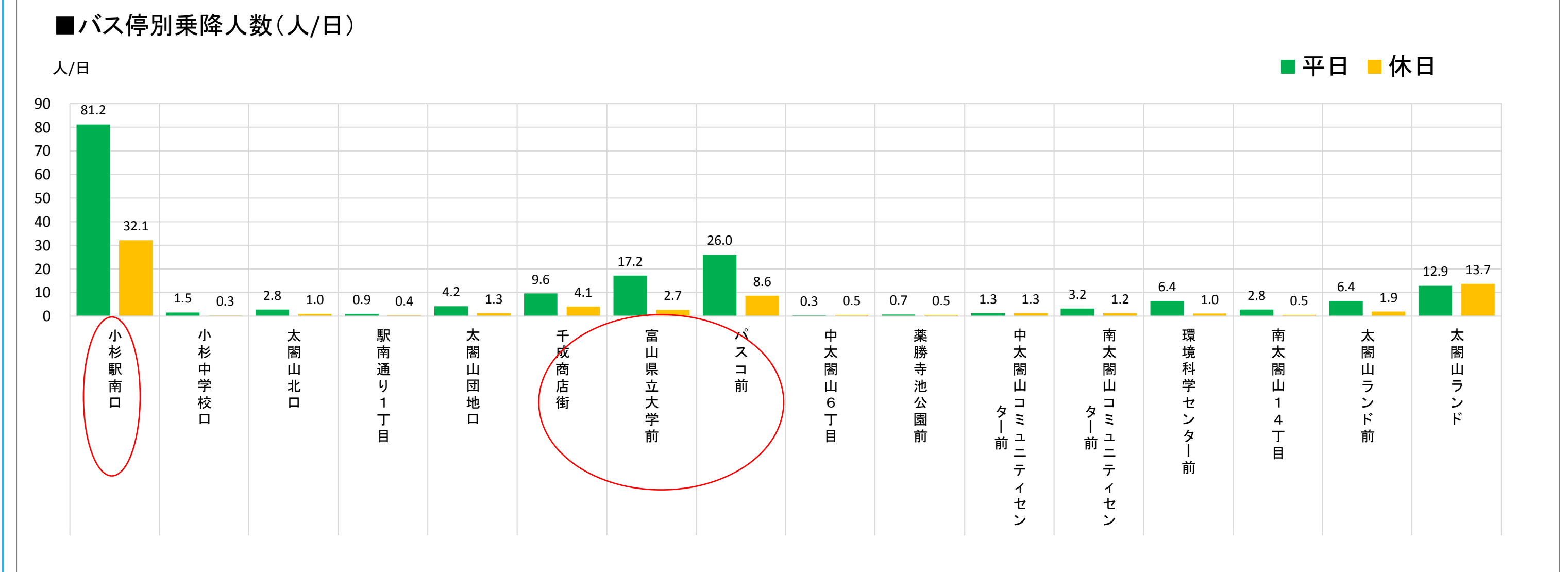
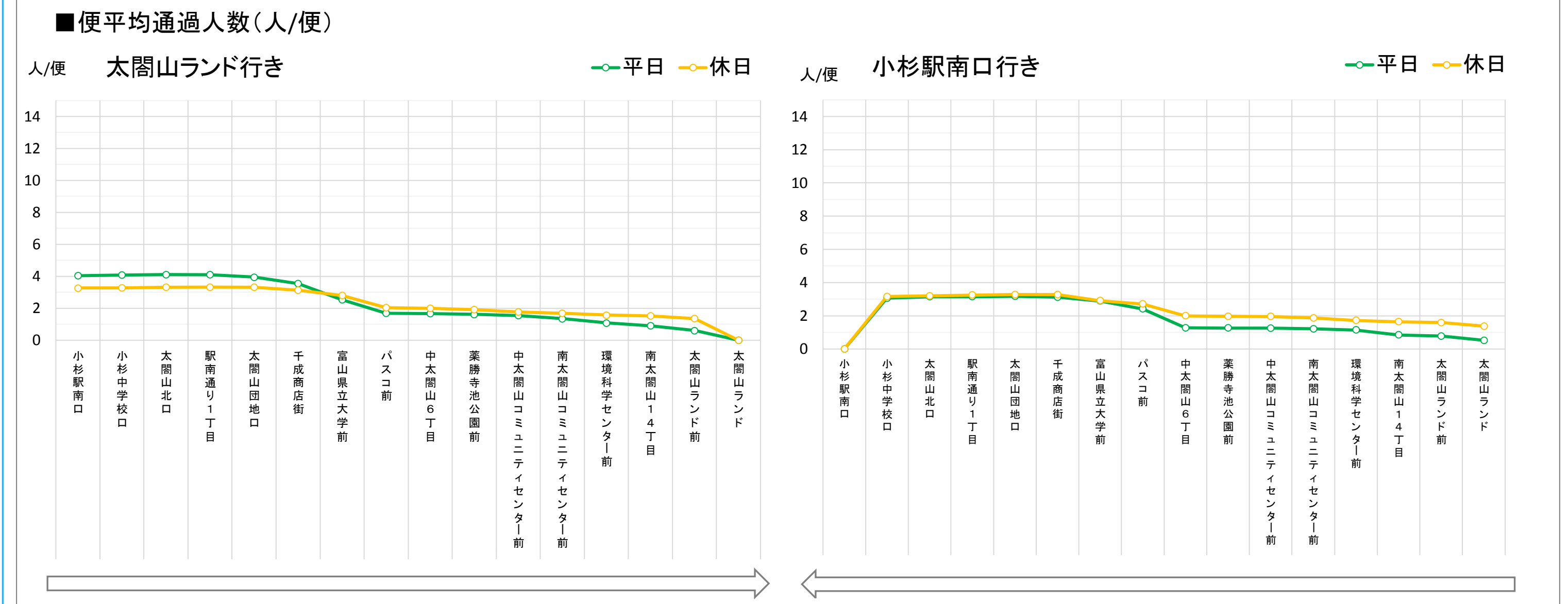
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

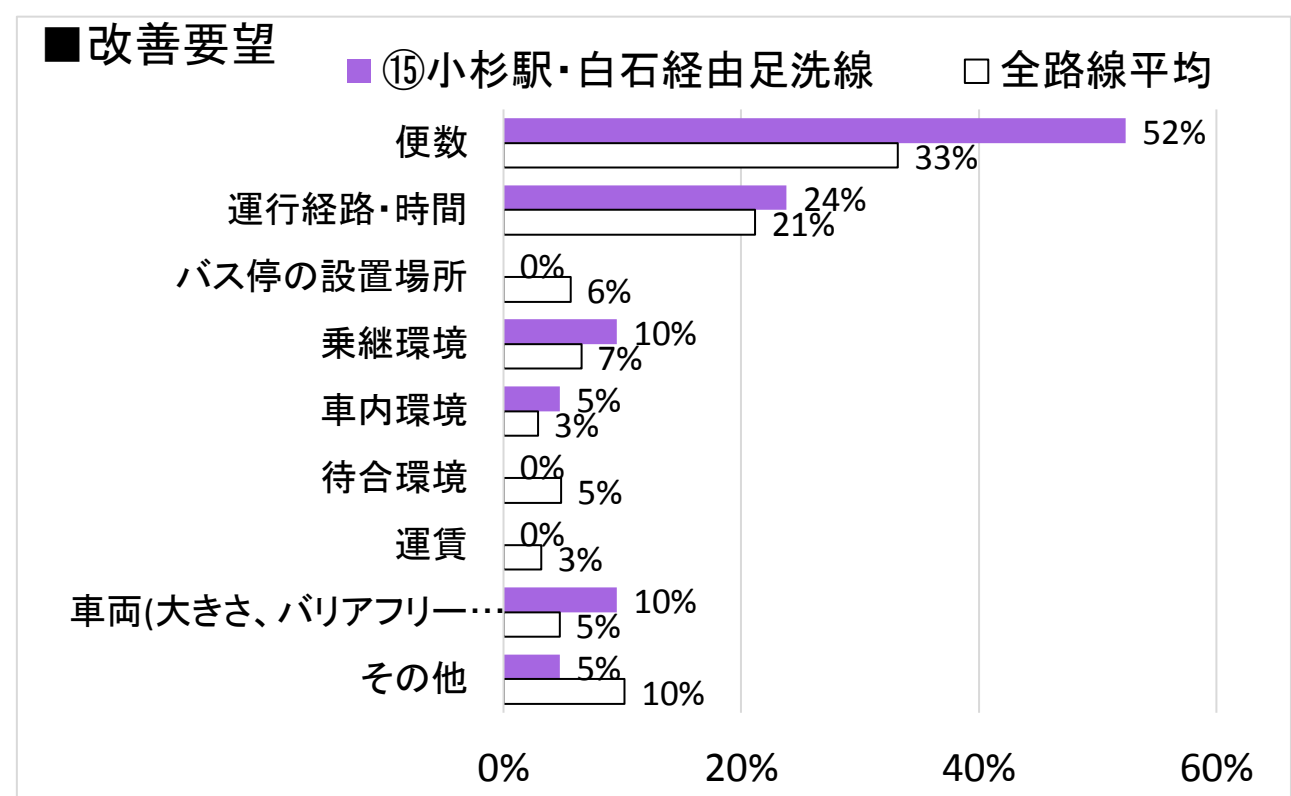
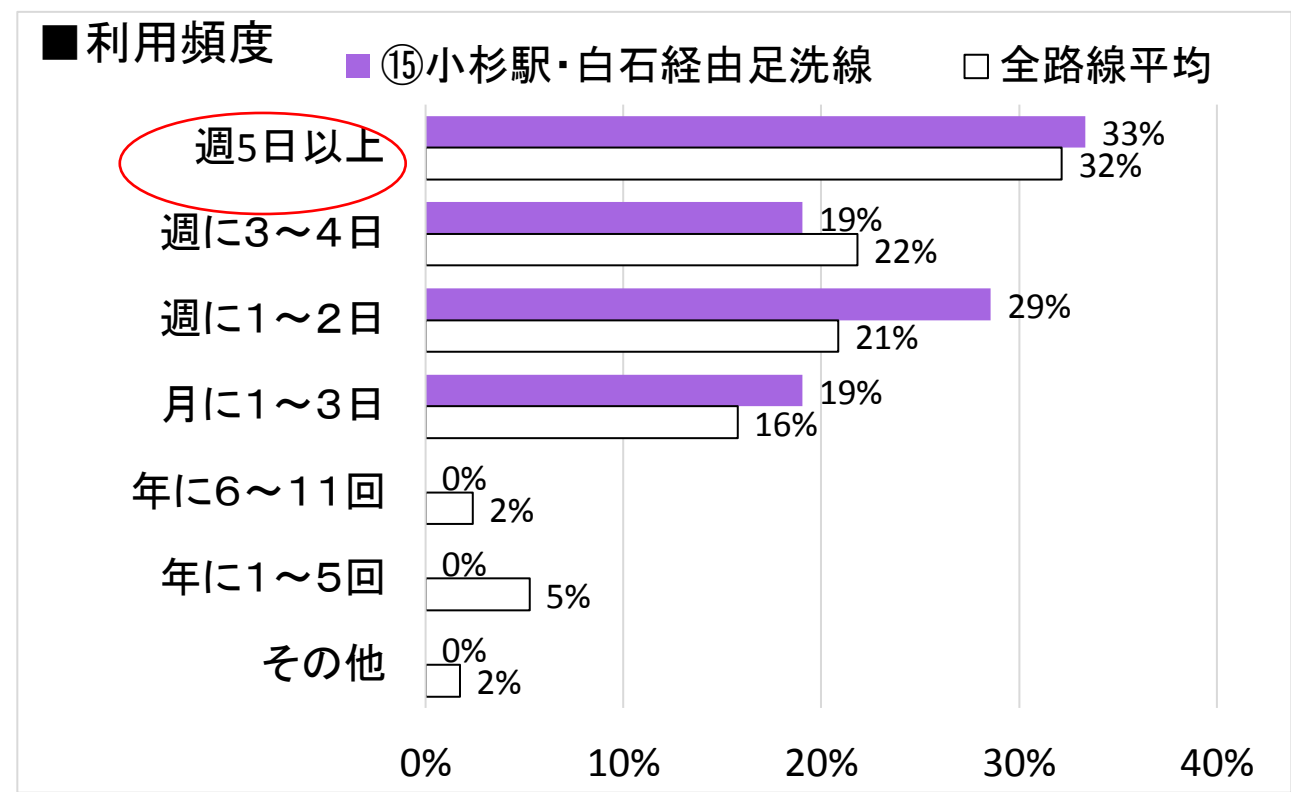
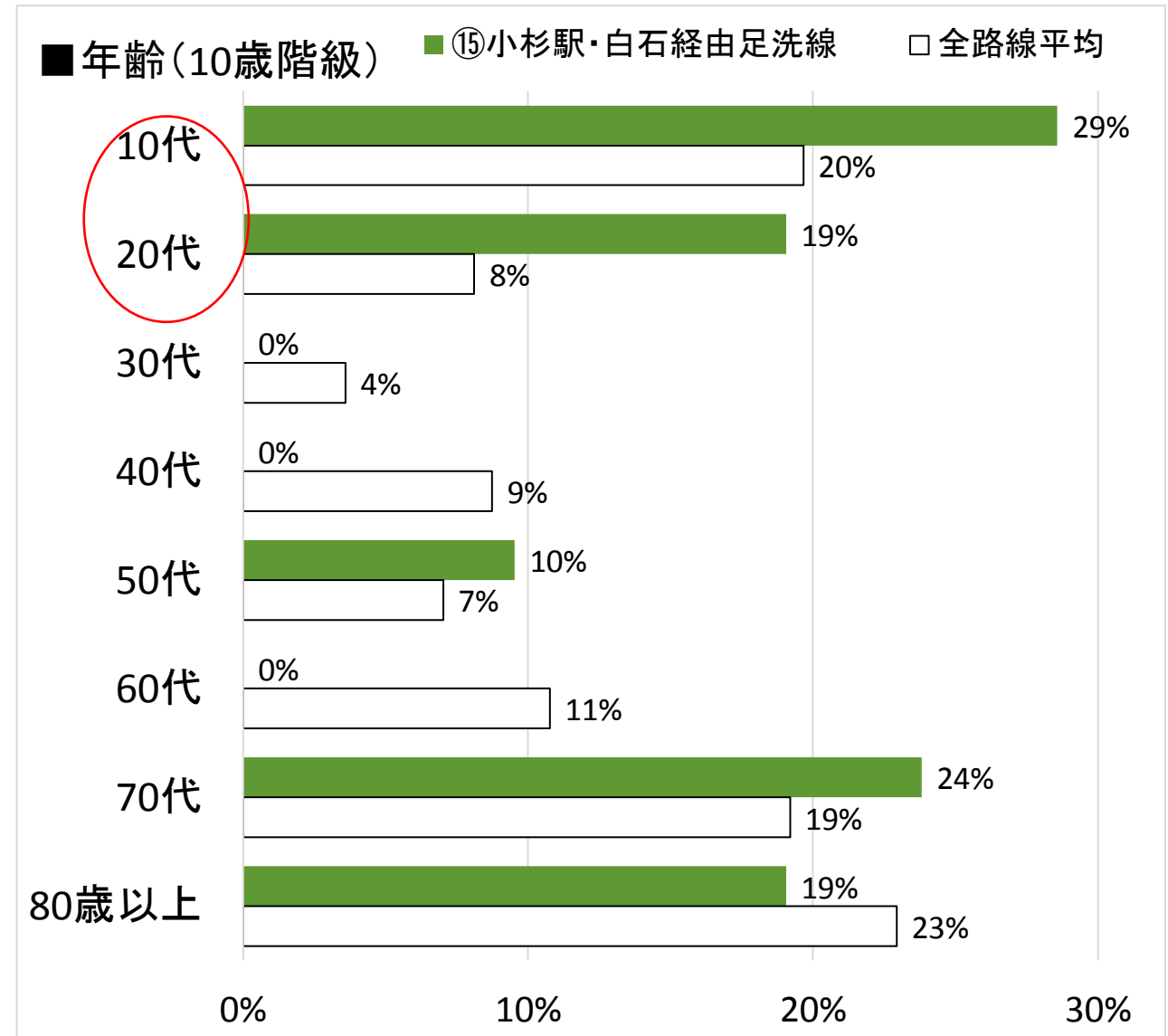
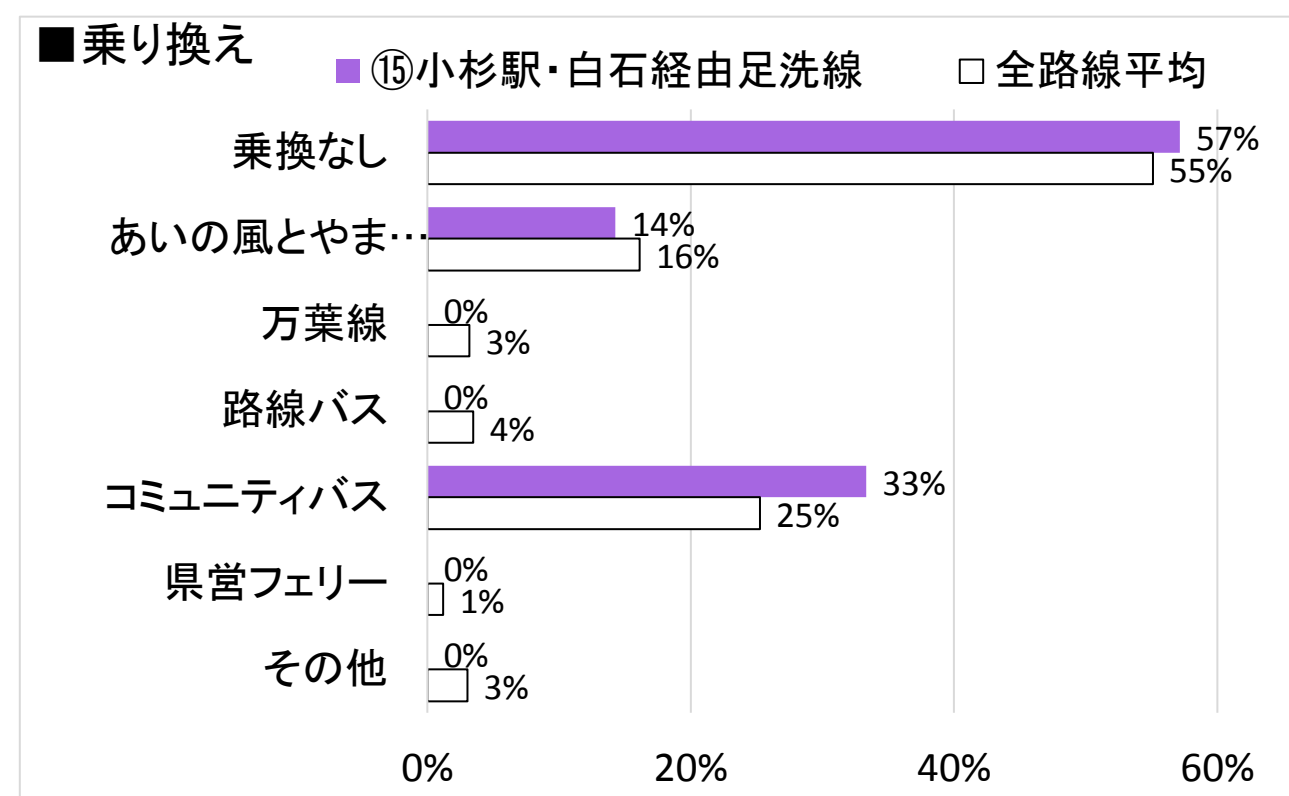
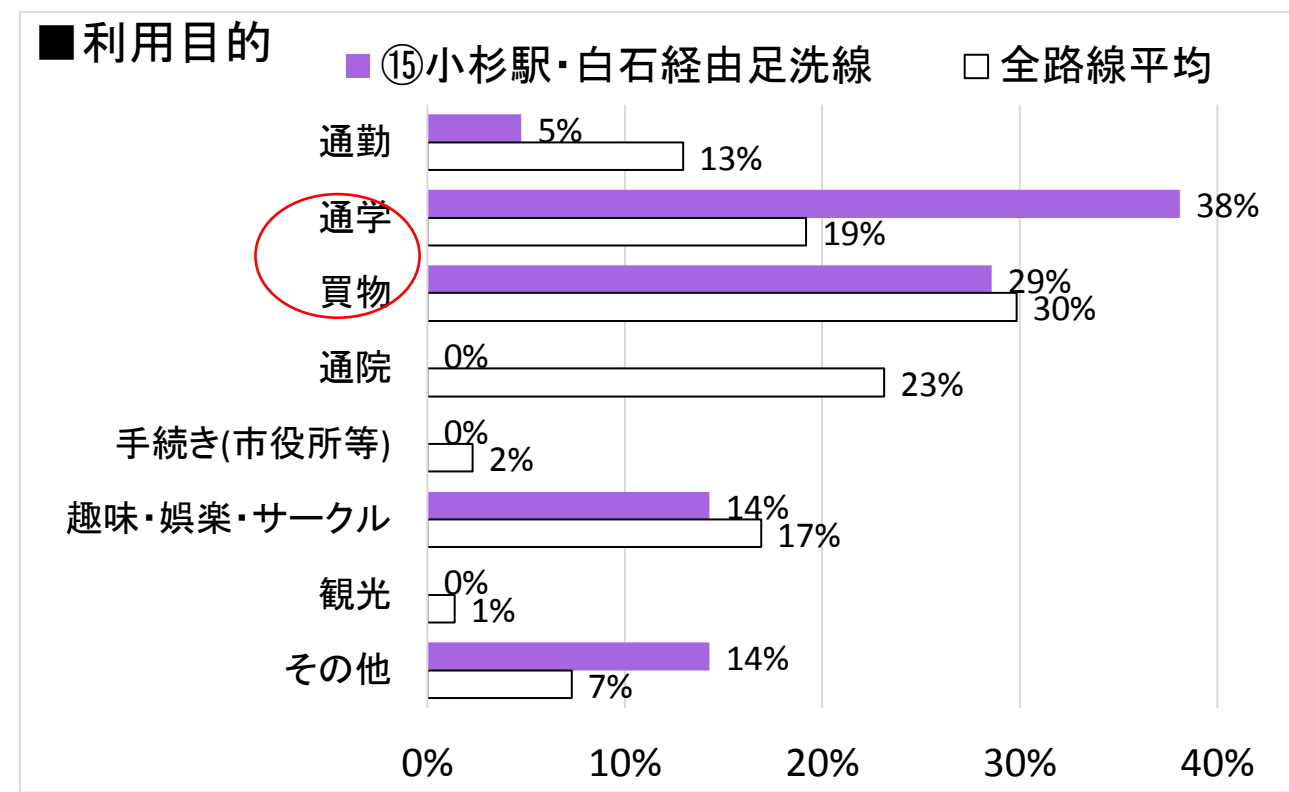
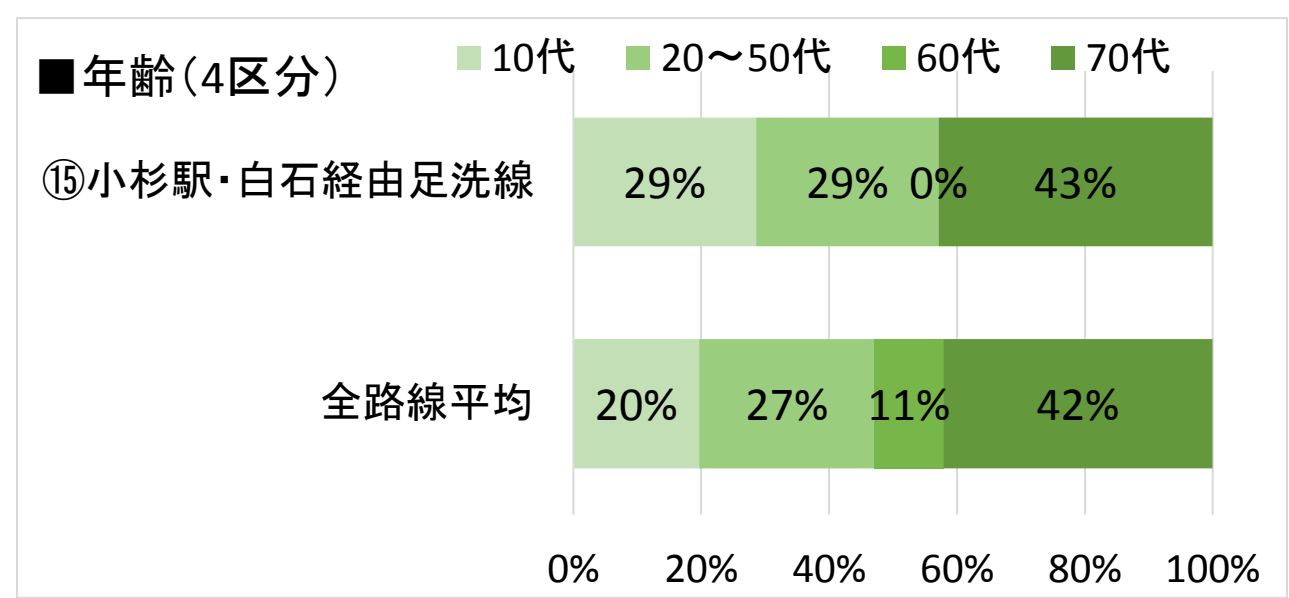
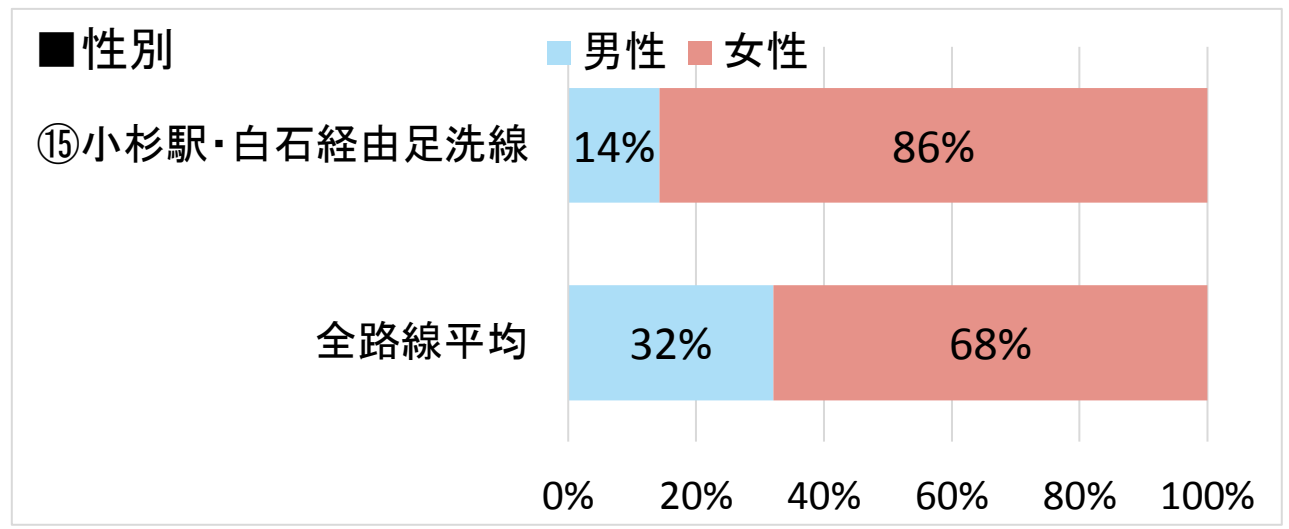
	平日	休日
2017	81	35
2018	89	36
伸び率	9%	0



⑮小杉駅・白石経由足洗線

・10～20代の学生利用(富山高専、小杉中学)、70代の高齢者の買物利用が多い。小杉駅、富山高専、小杉中学校が主な目的地となっている。
・便別の利用状況を見ると、1便の利用が多いほか、各便まんべんなく利用されている。
・長期的に利用は増加傾向であり、継続的な利用促進策によりさらなる利用者の増加を図ることが望ましい。

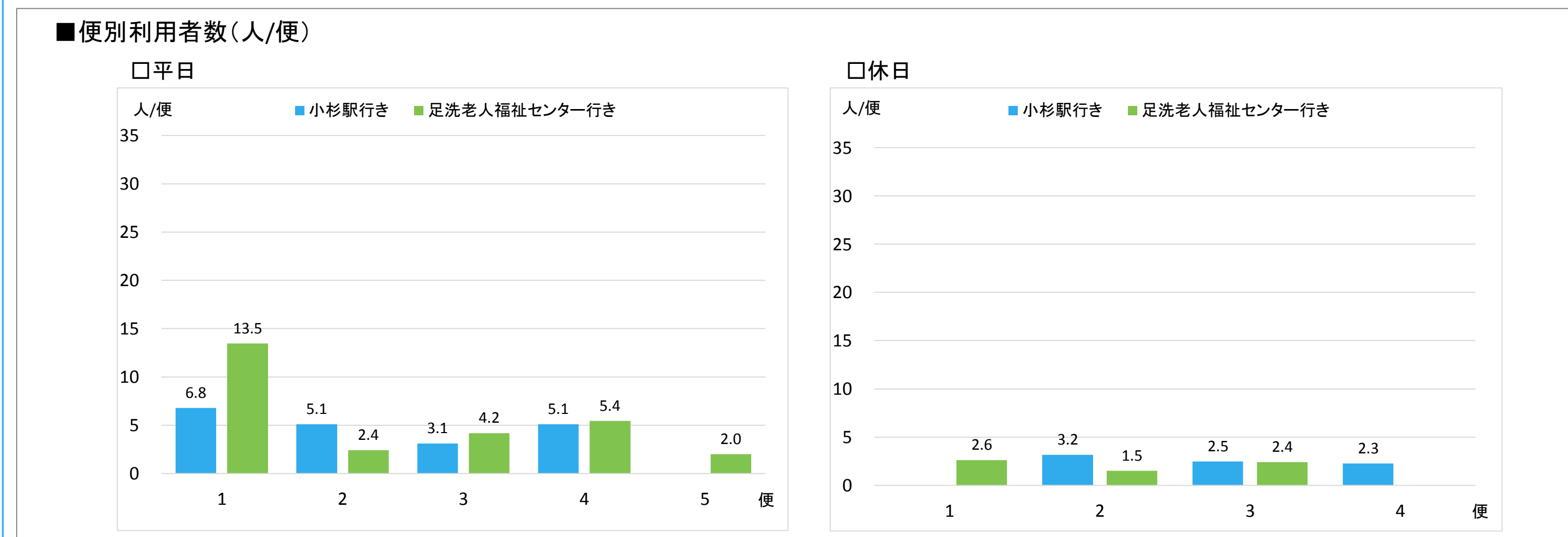
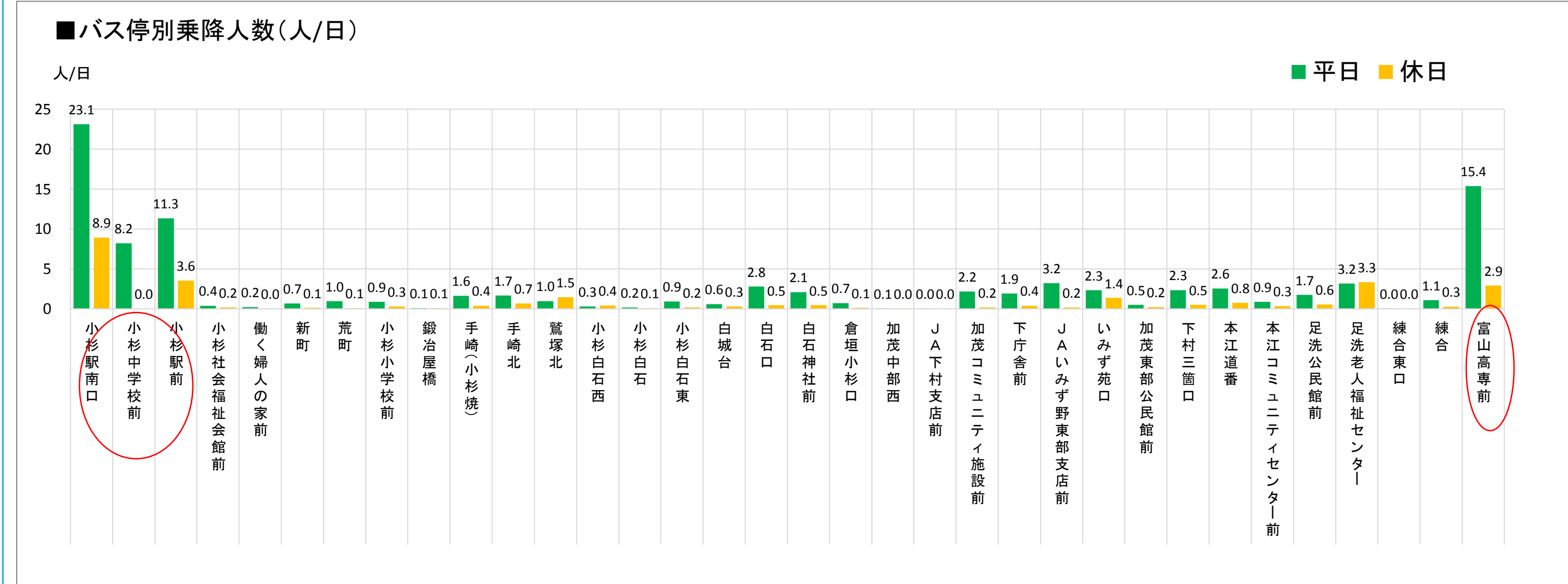
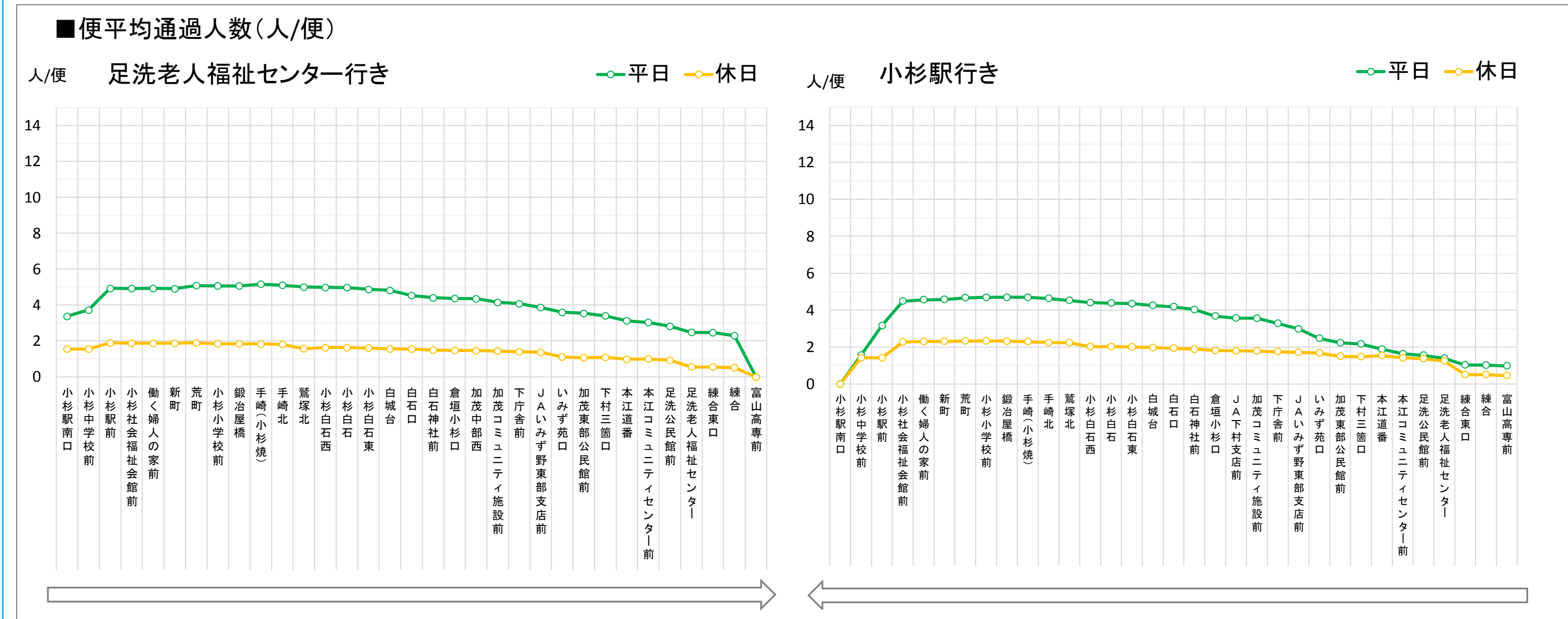
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

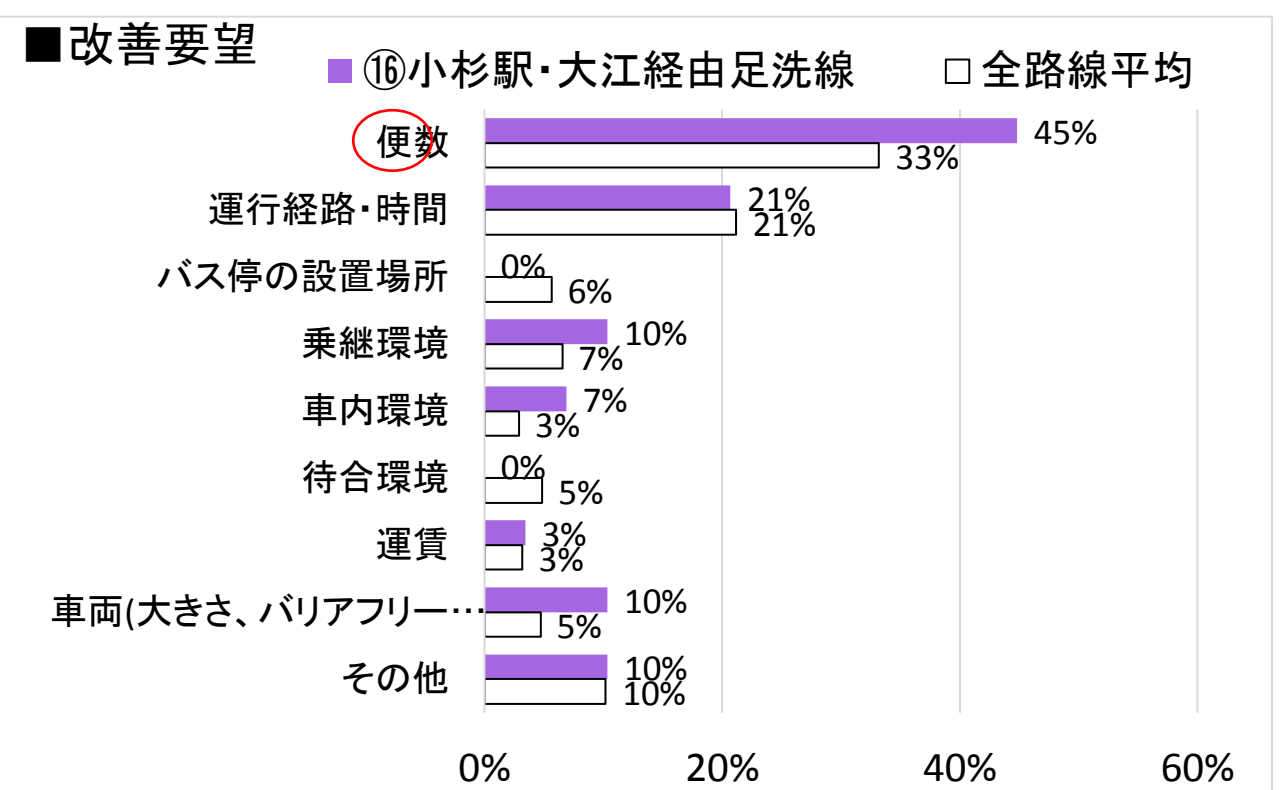
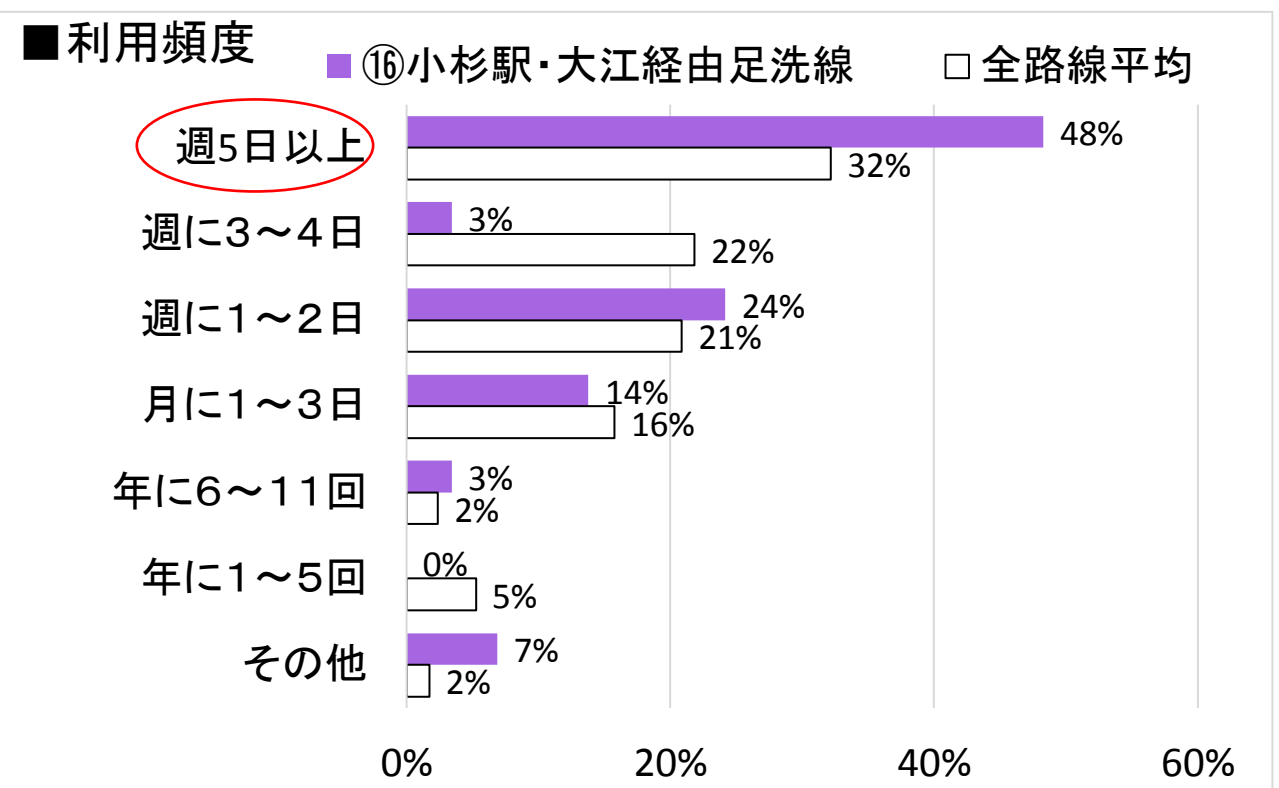
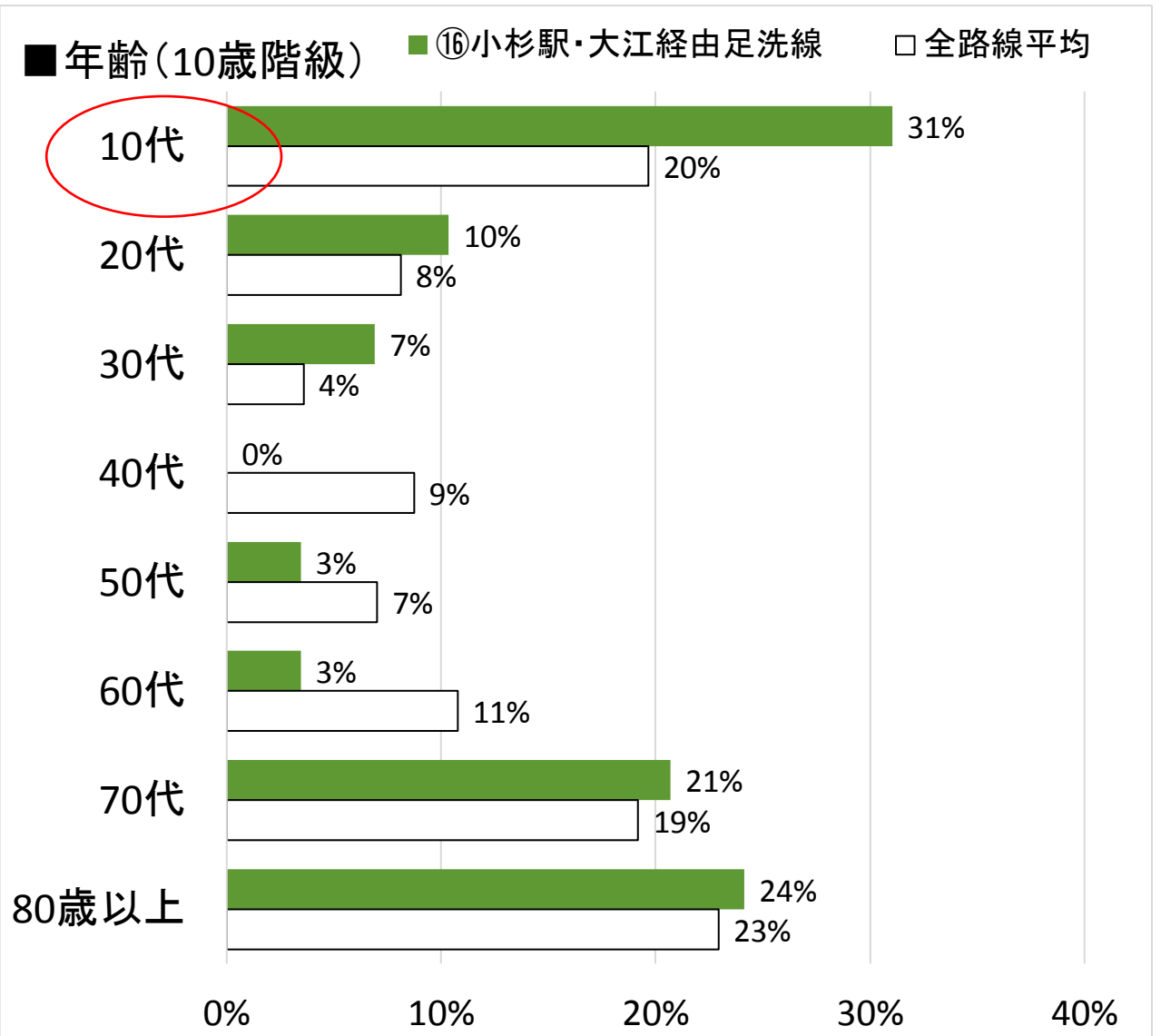
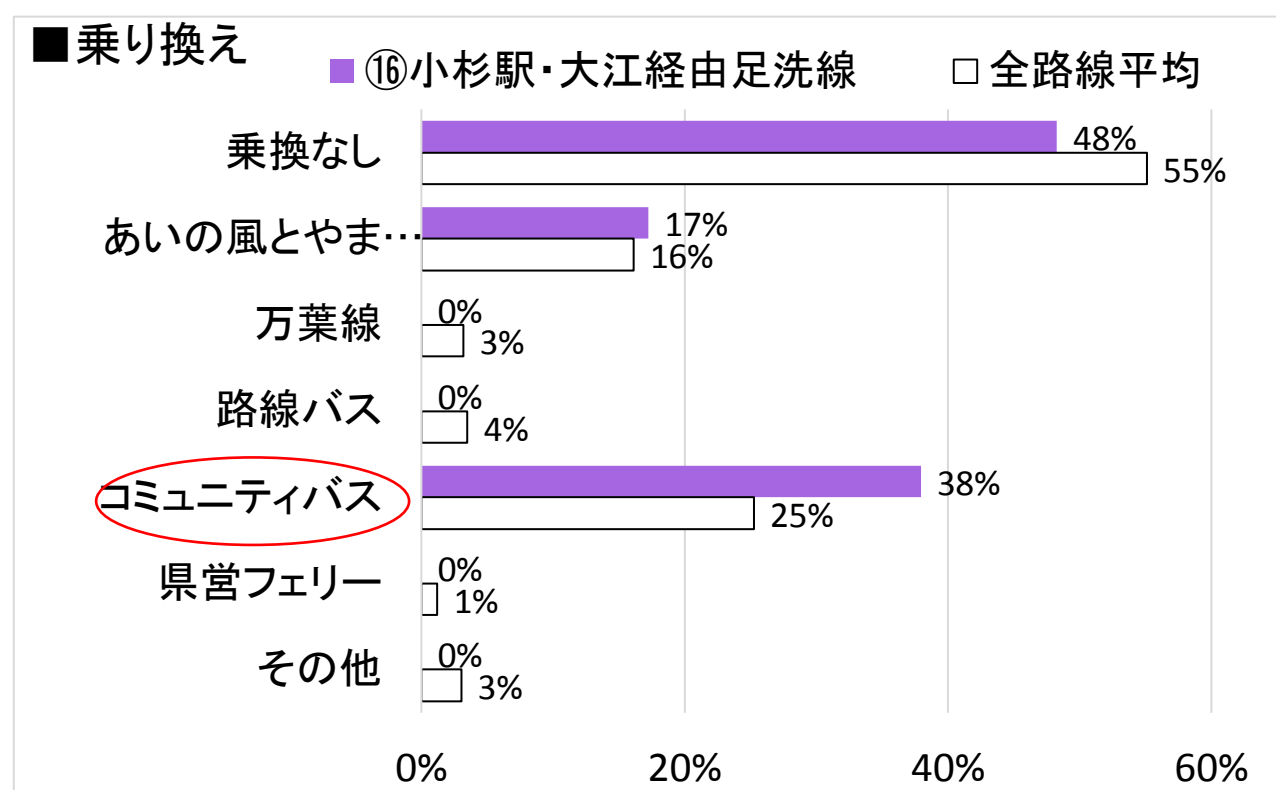
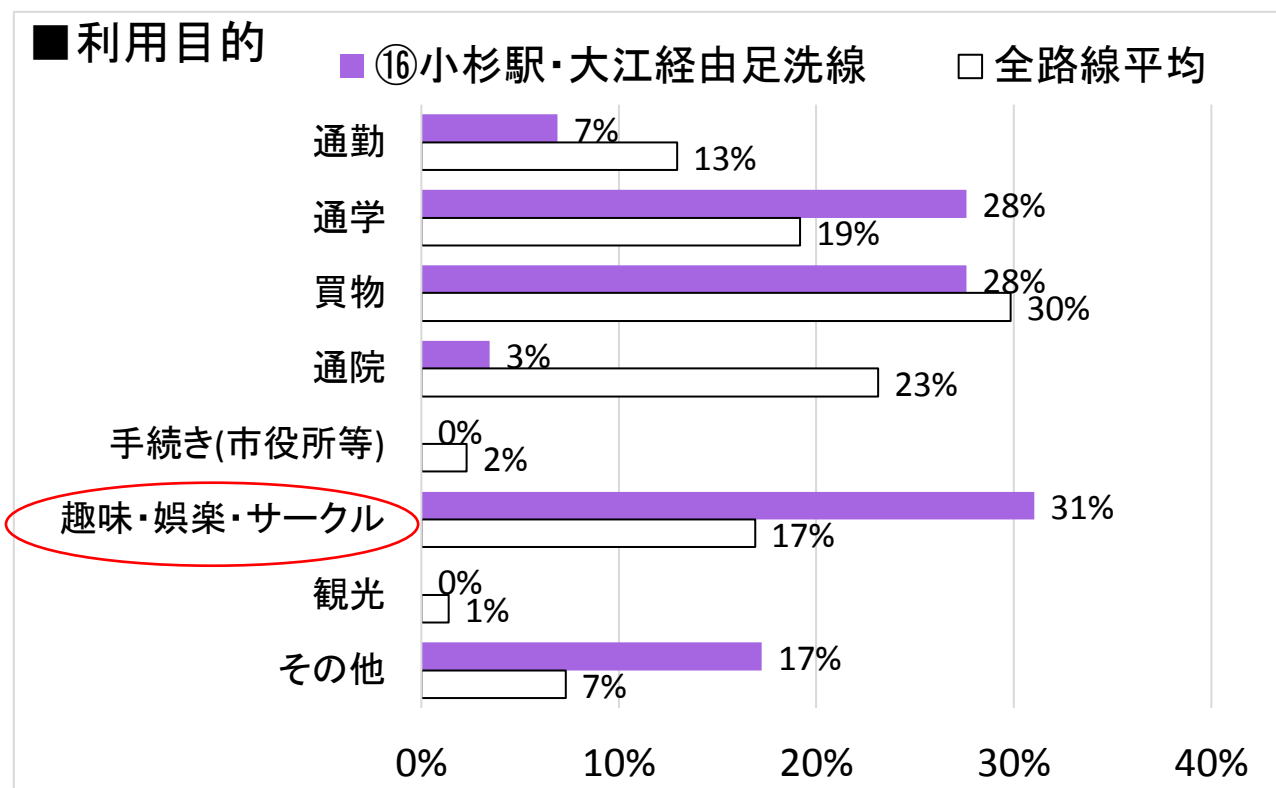
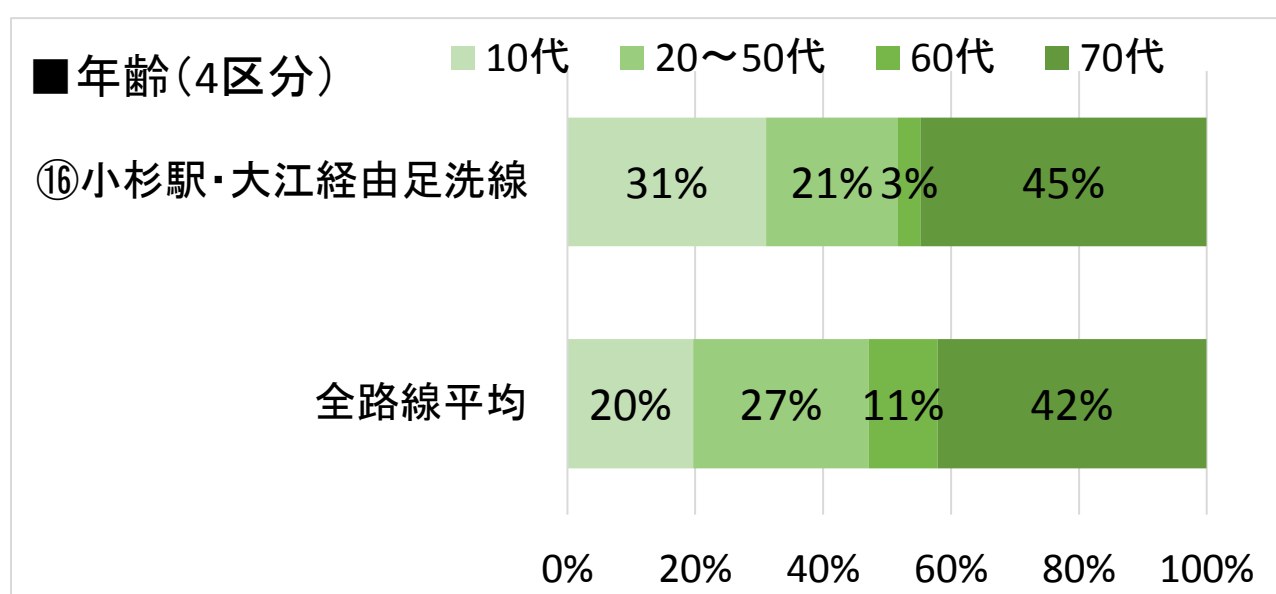
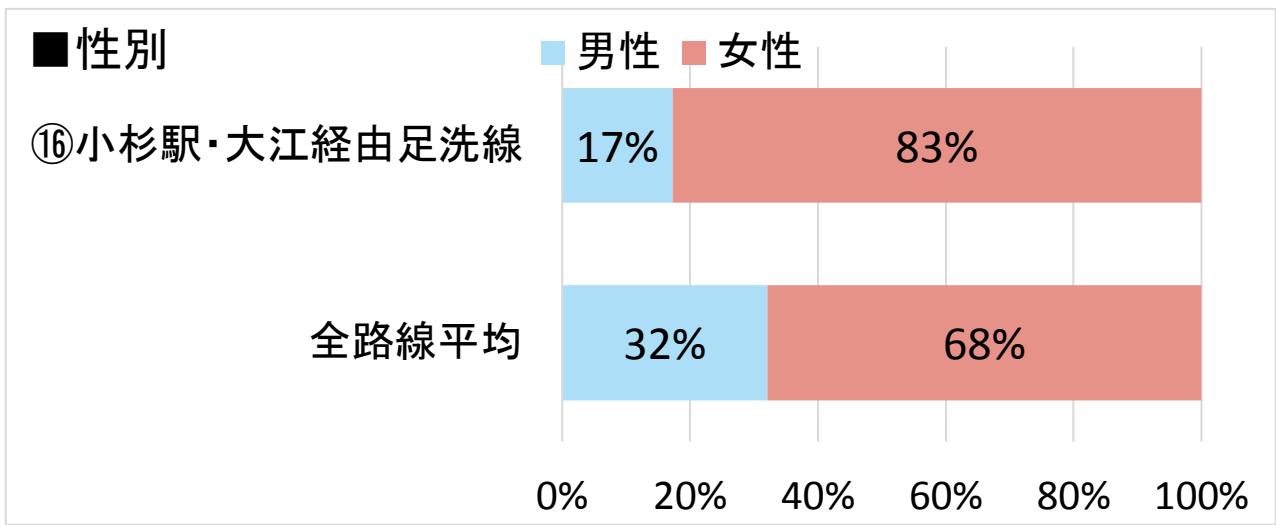
	平日	休日
2017	49	15
2018	48	14
伸び率	-3%	-0



⑩小杉駅・大江経由足洗線

・10代の通学利用(小杉中学校)、及び70代以上の高齢者の買物・趣味娯楽利用が多い。小杉駅、小杉中学校、足洗老人福祉センターが主な目的地となっている。
・便別の利用状況を見ると、1便の利用が多いほか、各便まんべんなく利用されているが、5便の利用は少ない。
・長期的に利用は微減傾向であり、利用促進策により利用者の回復を図ることが求められる。

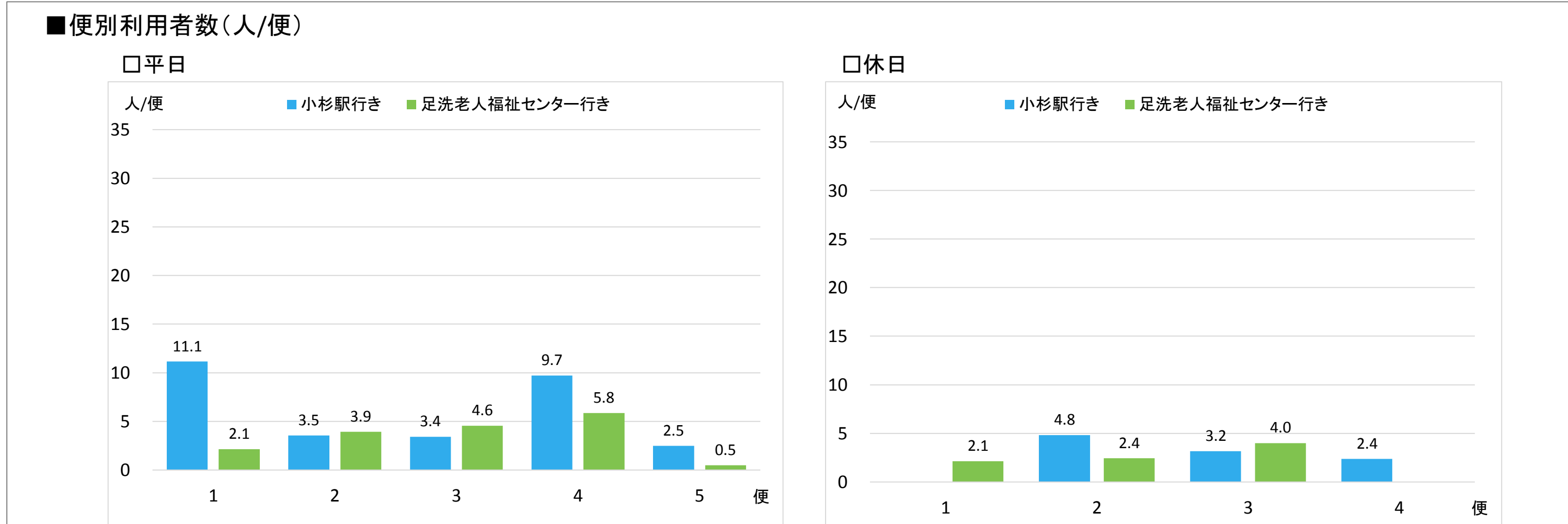
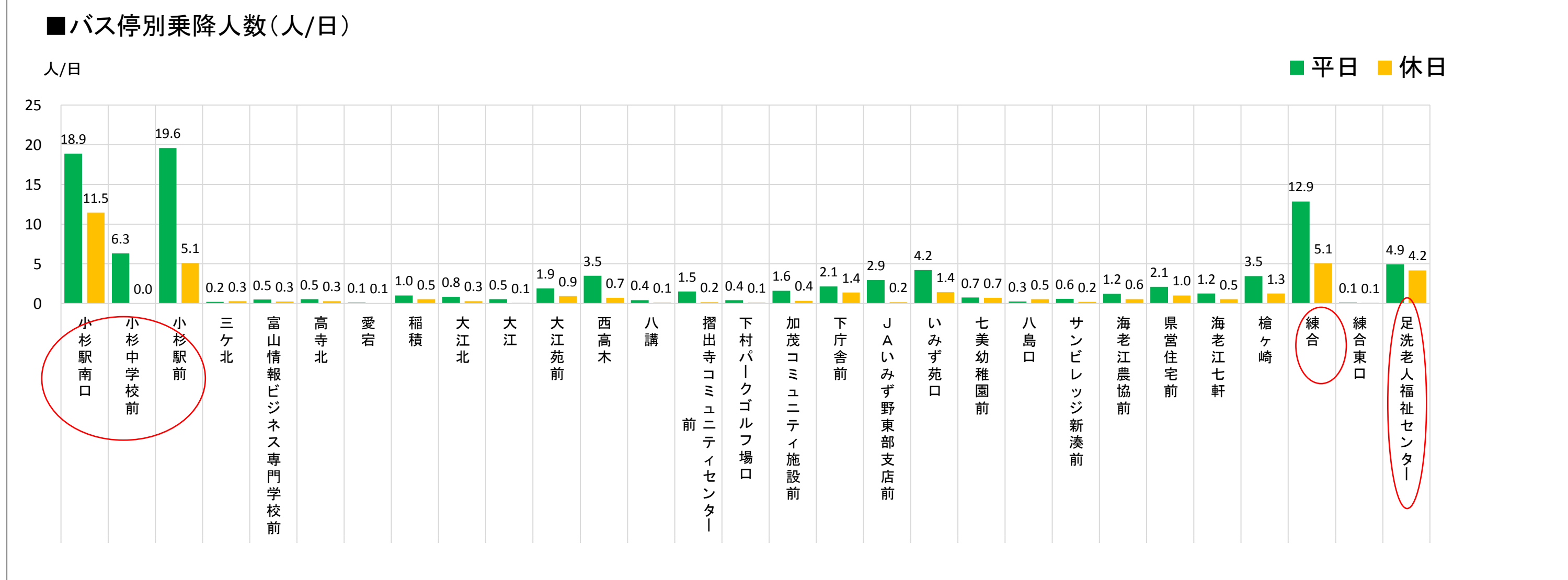
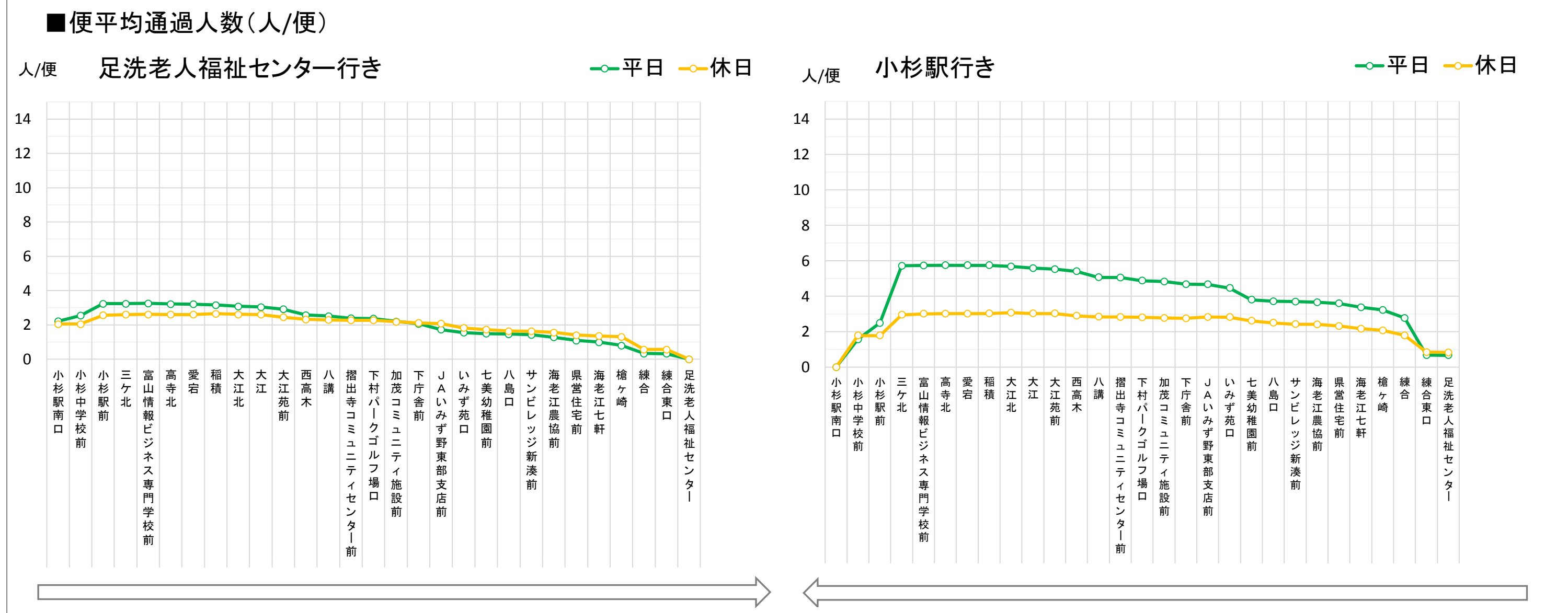
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数(人/日)

	平日	休日
2017	52	20
2018	47	19
伸び率	-9%	-0%



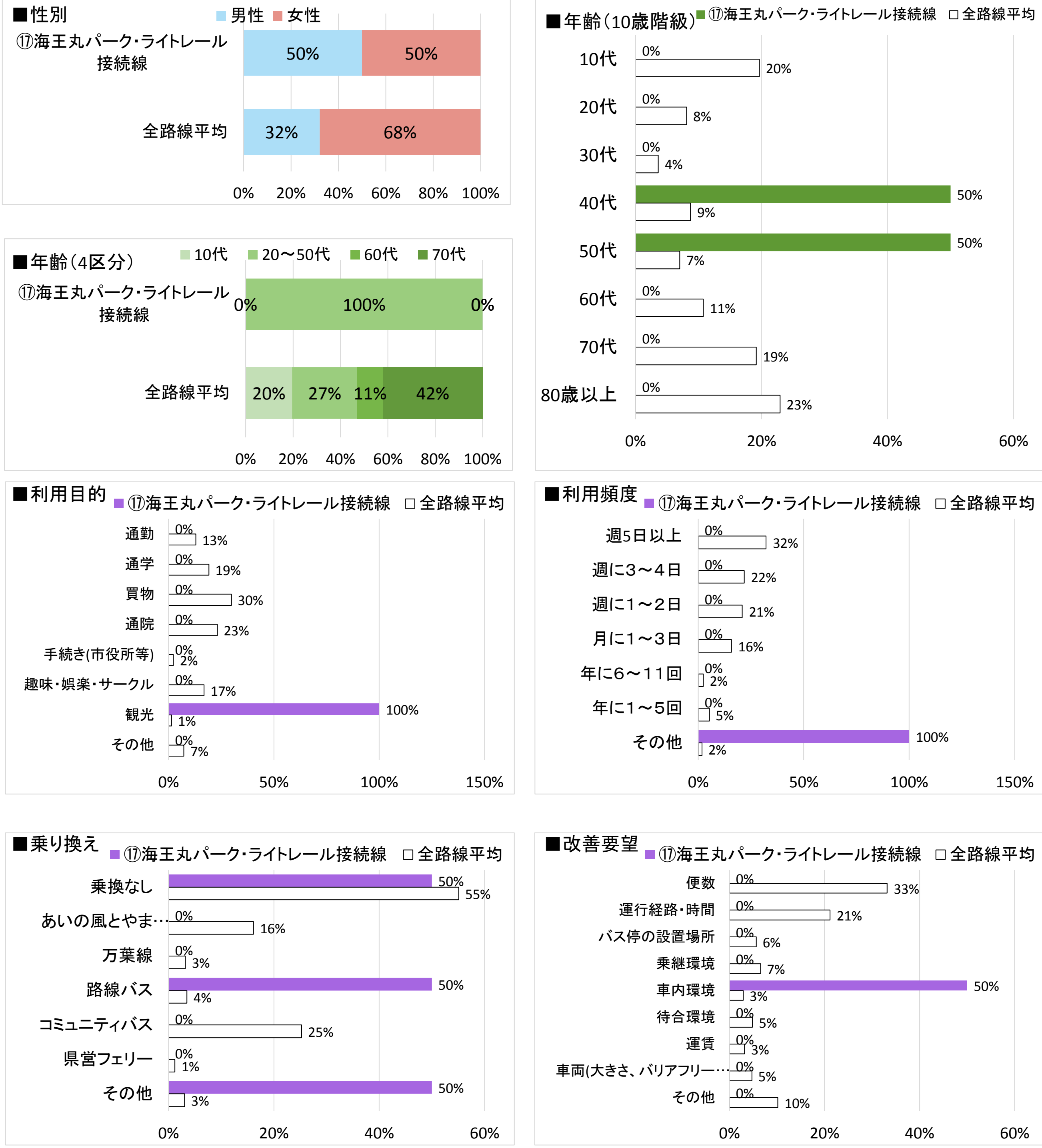
⑰海王丸パーク・ライトレール接続線

・岩瀬浜駅から、新湊周辺の観光施設（海王丸パーク、きつとくと市場等）を結ぶ観光路線（休日のみ運行）であり、観光利用目的が100%となっている。は40-50代の利用が見られた。

・岩瀬浜駅から堀岡まではほとんど利用がない。

・各便の利用は丁重であり、長期的にも利用は減少傾向が続いているため、路線の見直しも含めた対策を検討する必要がある。

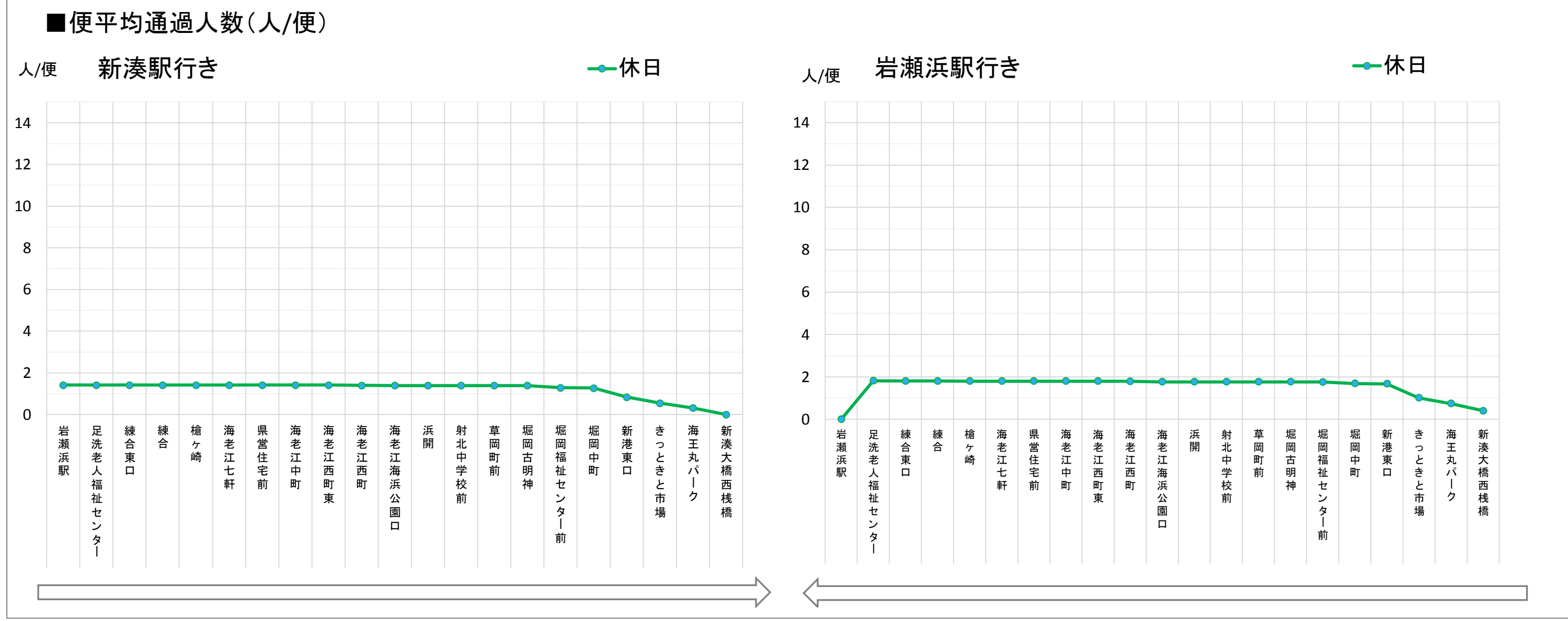
○利用者の実態（利用者アンケート調査（H30）より）



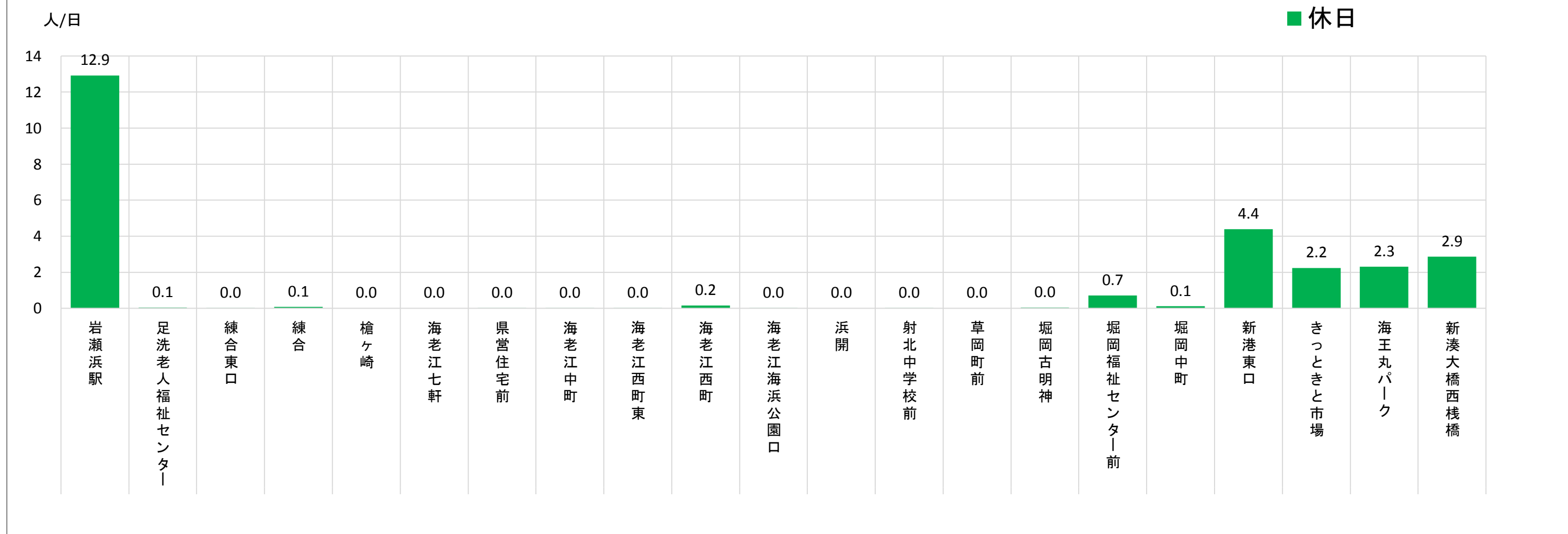
○利用動向（利用実績（2018年度）

■終日利用者数（人/日）

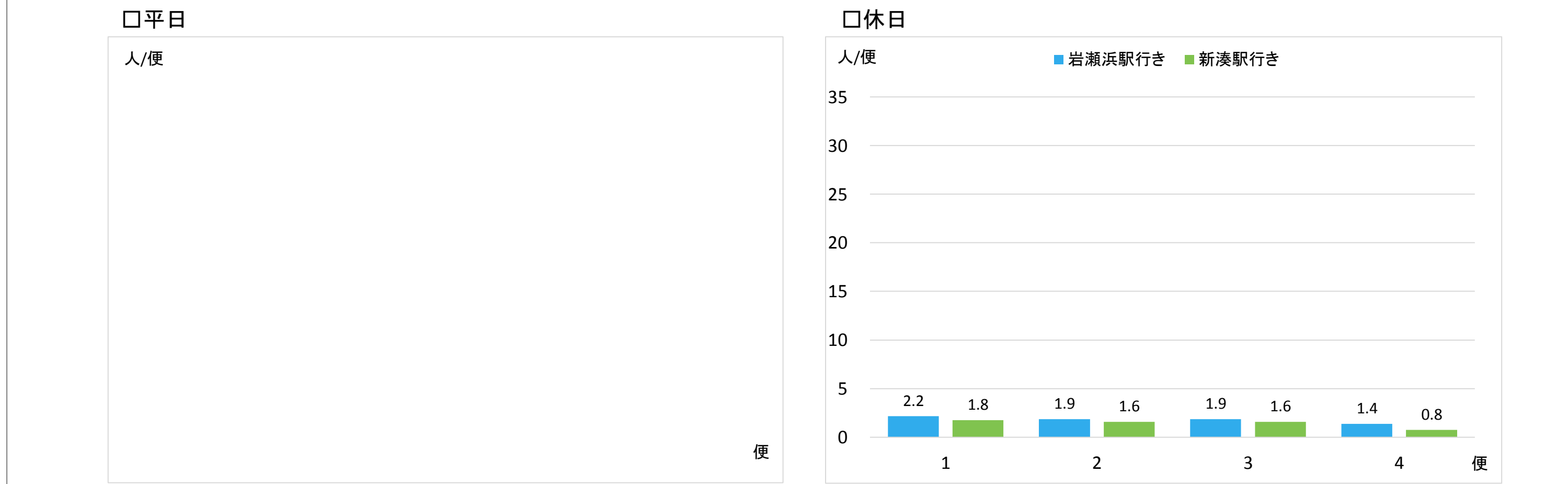
	平日	休日
2017	0	12
2018	0	13
伸び率		0



■バス停別乗降人数（人/日）



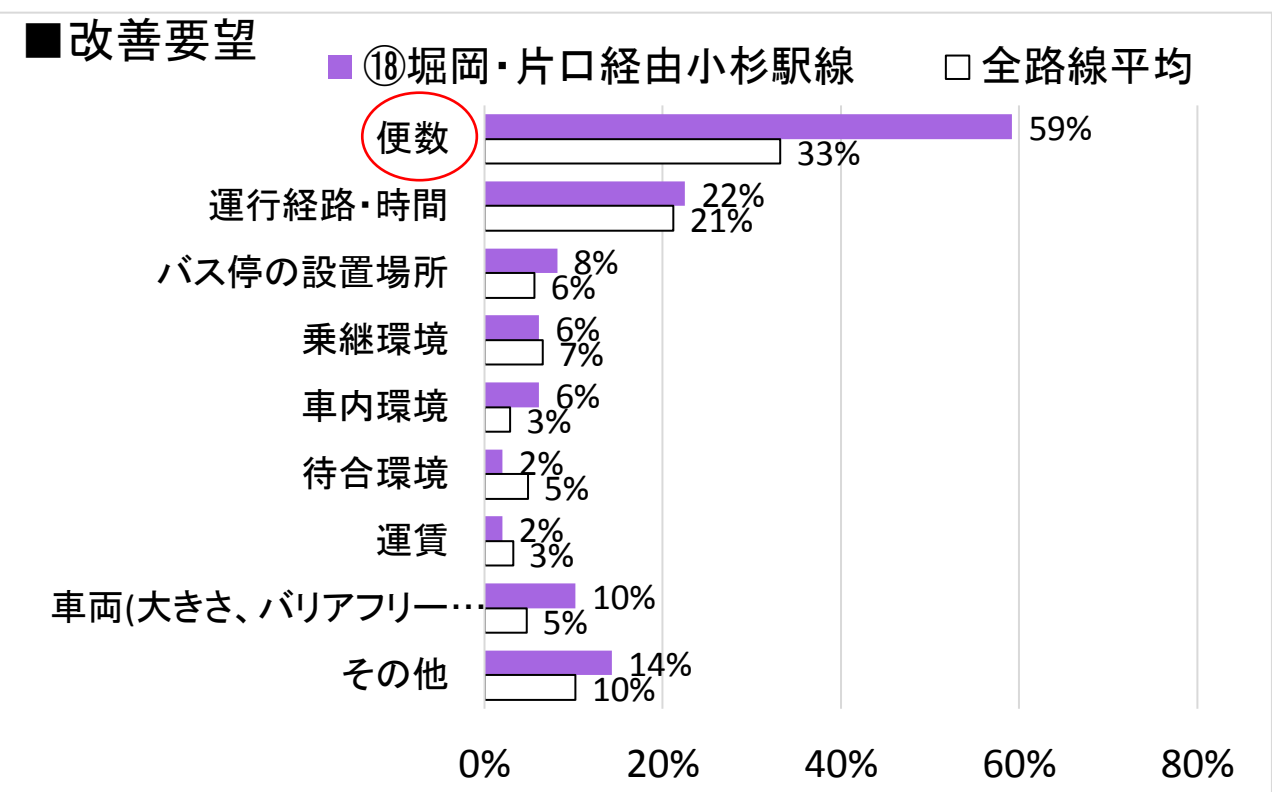
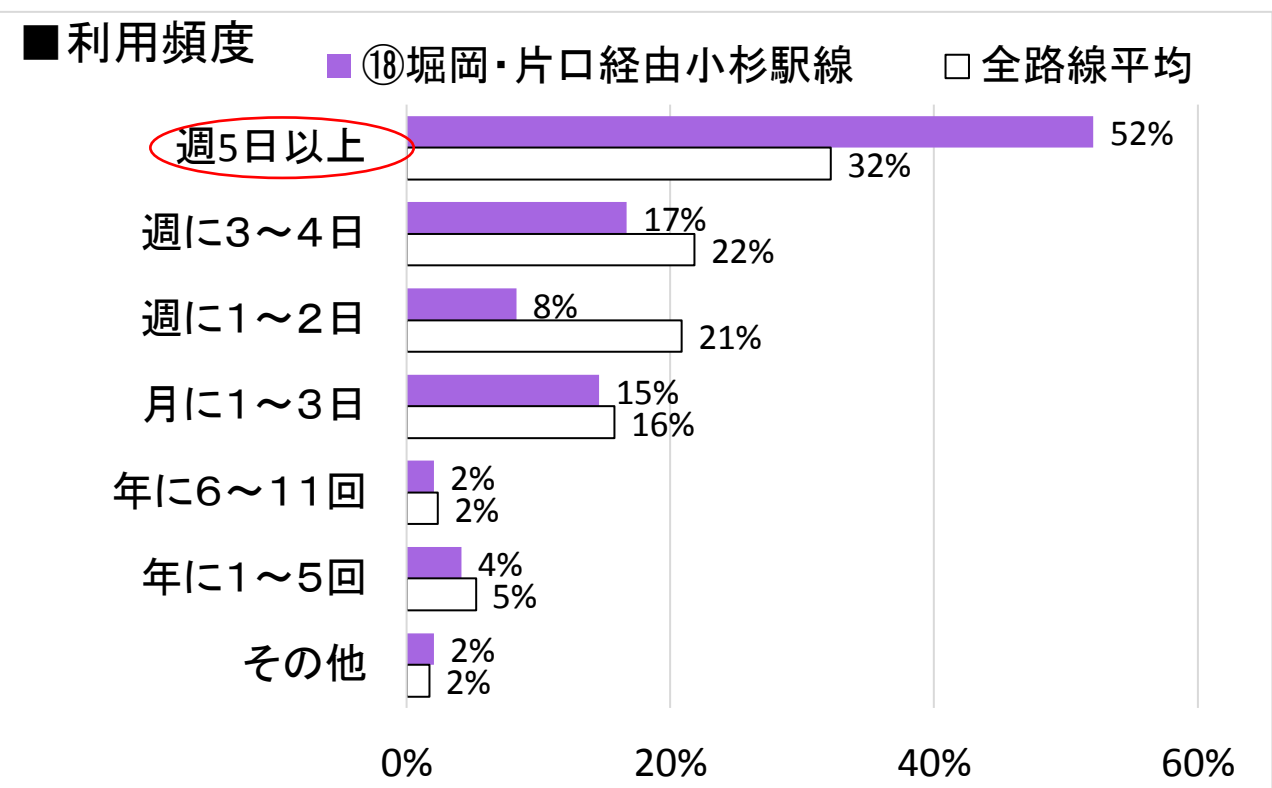
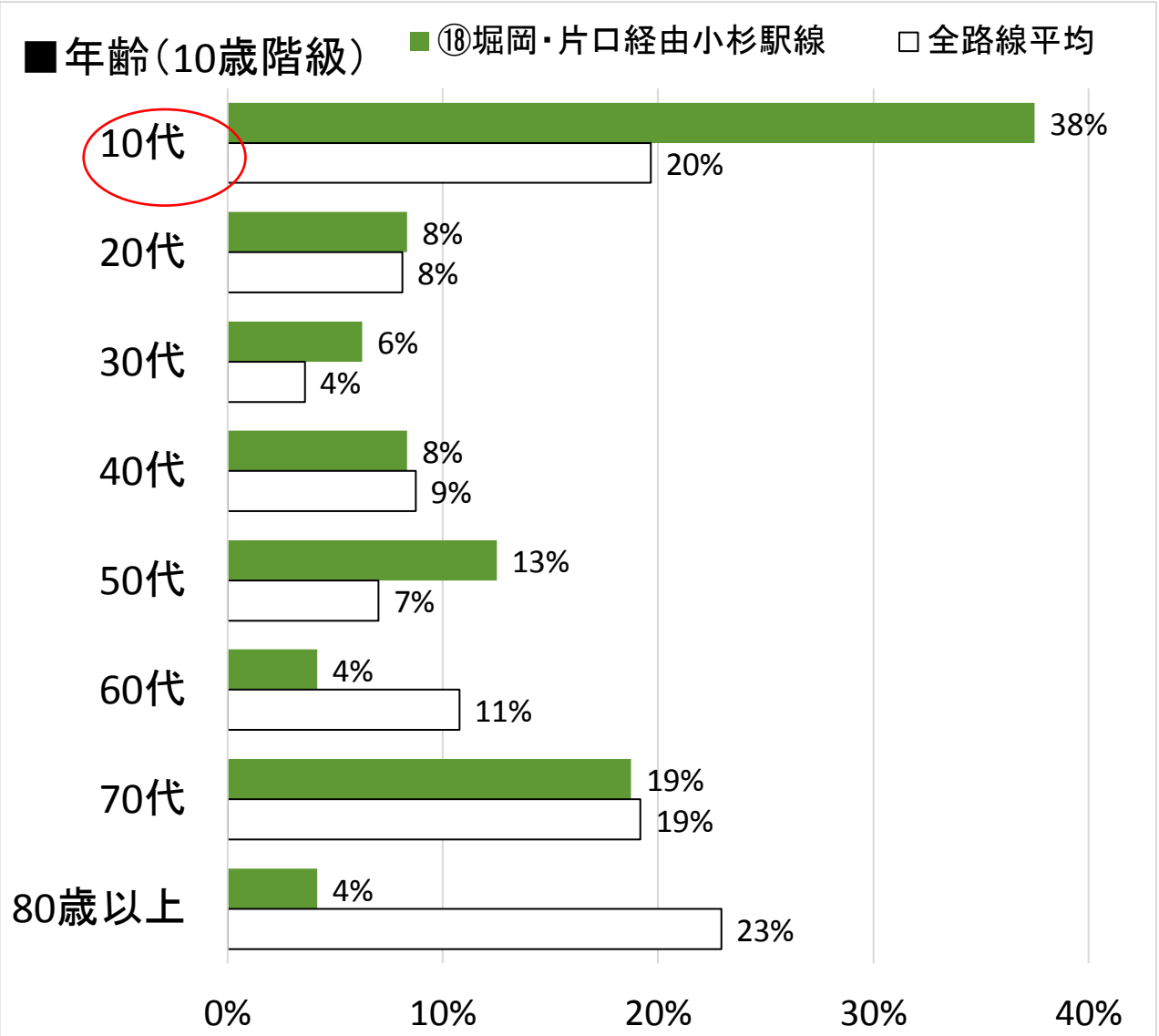
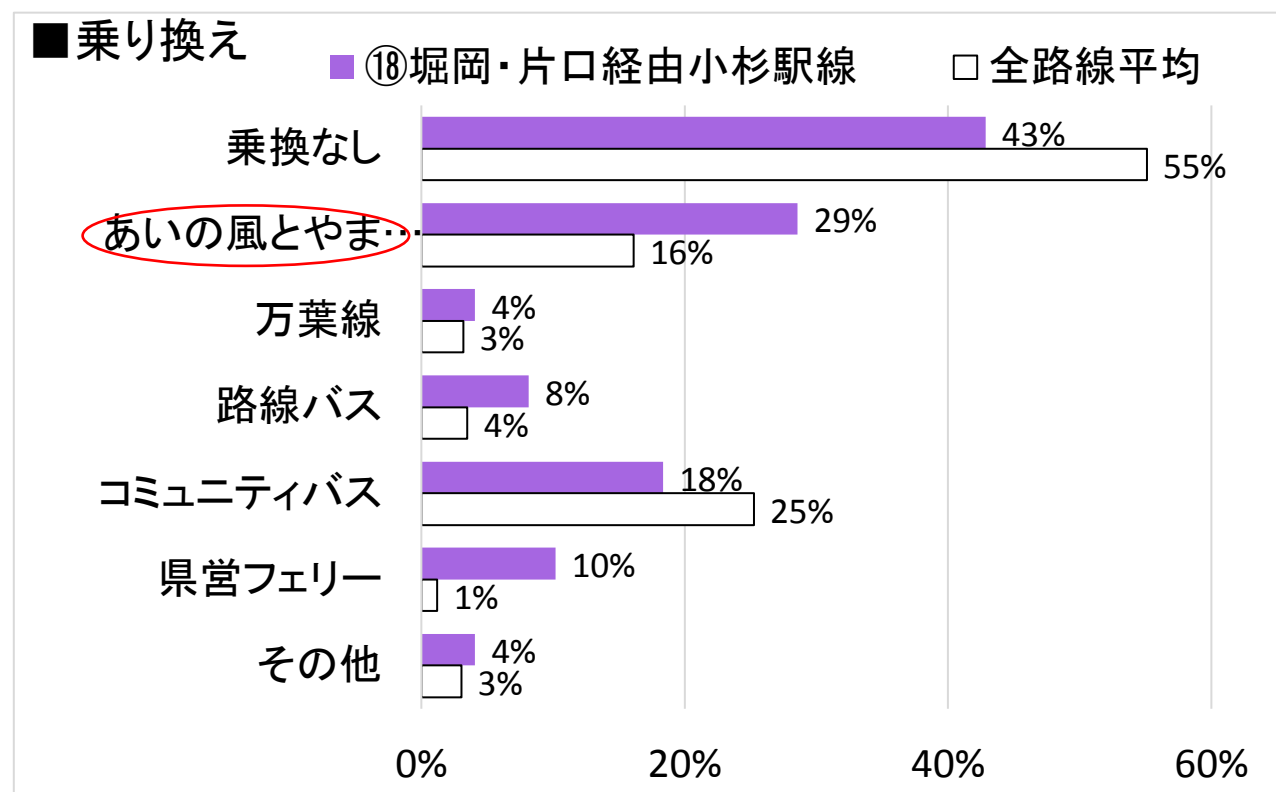
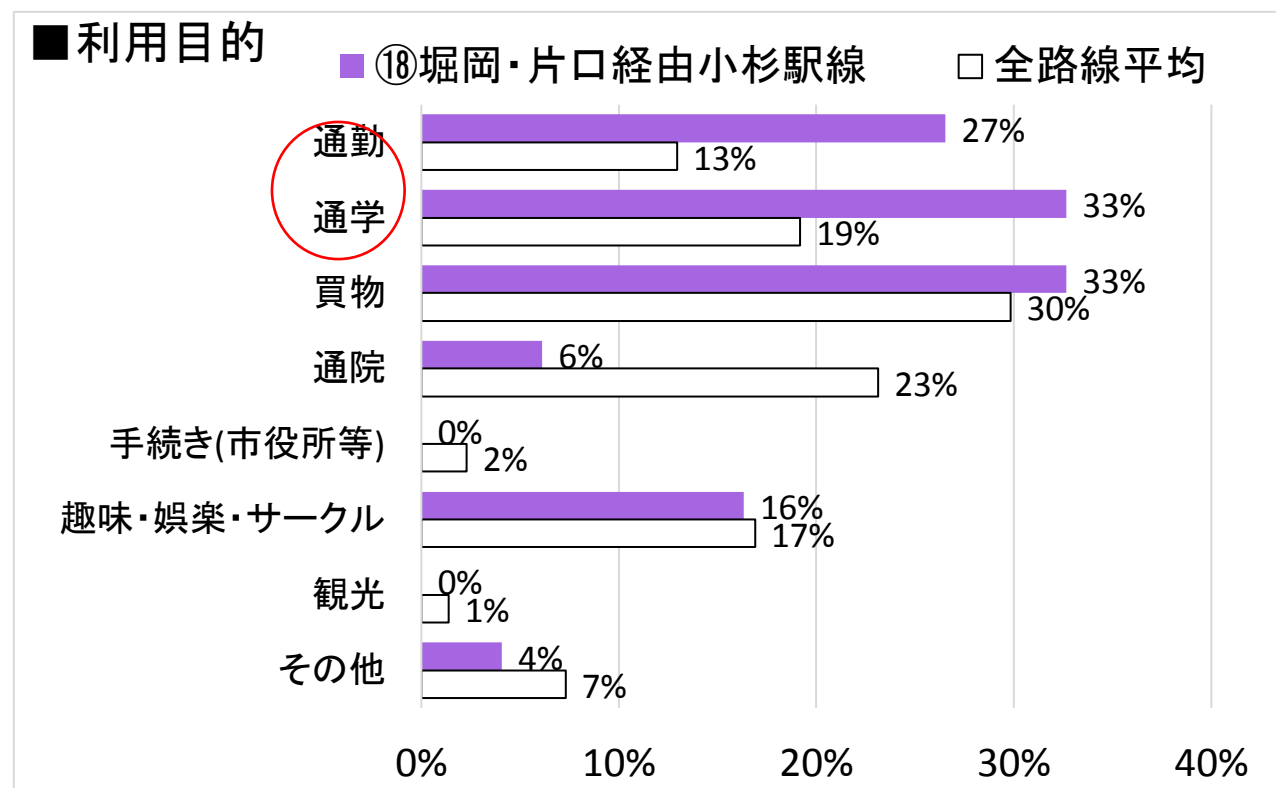
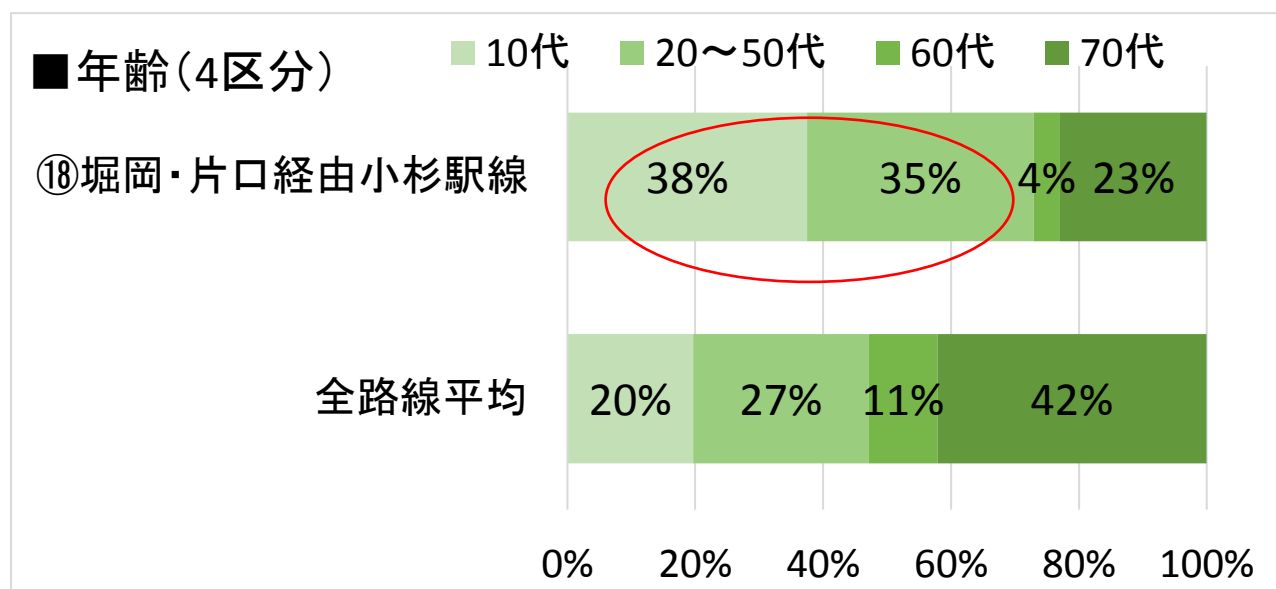
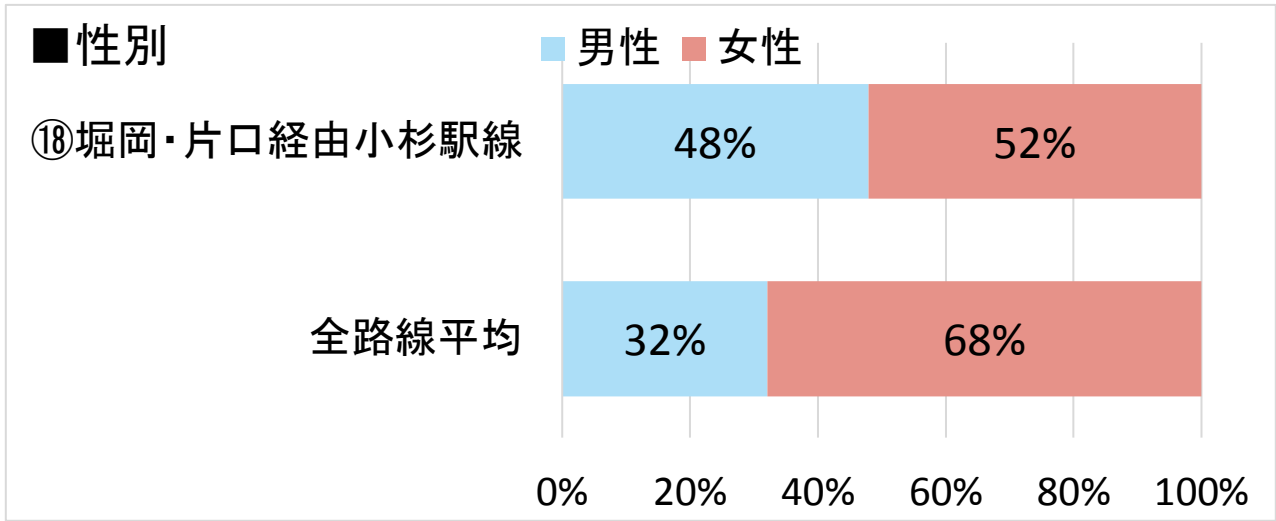
■便別利用者数（人/便）



⑩堀岡・片口經由小杉駅線

・10代の通学利用、及び20-50代通勤、高齢者の買物利用が多い。小杉駅、片口小学校、射北中学校が主な目的地となっている。
・便別の利用状況を見ると、午前便は小杉駅行きの利用が多く、帰りは堀岡・片口方面行きへの利用が多い。
・長期的に利用は大きく伸びており、便数の改善要望が多いことから、さらなる利用促進策による利用の増加が期待される。

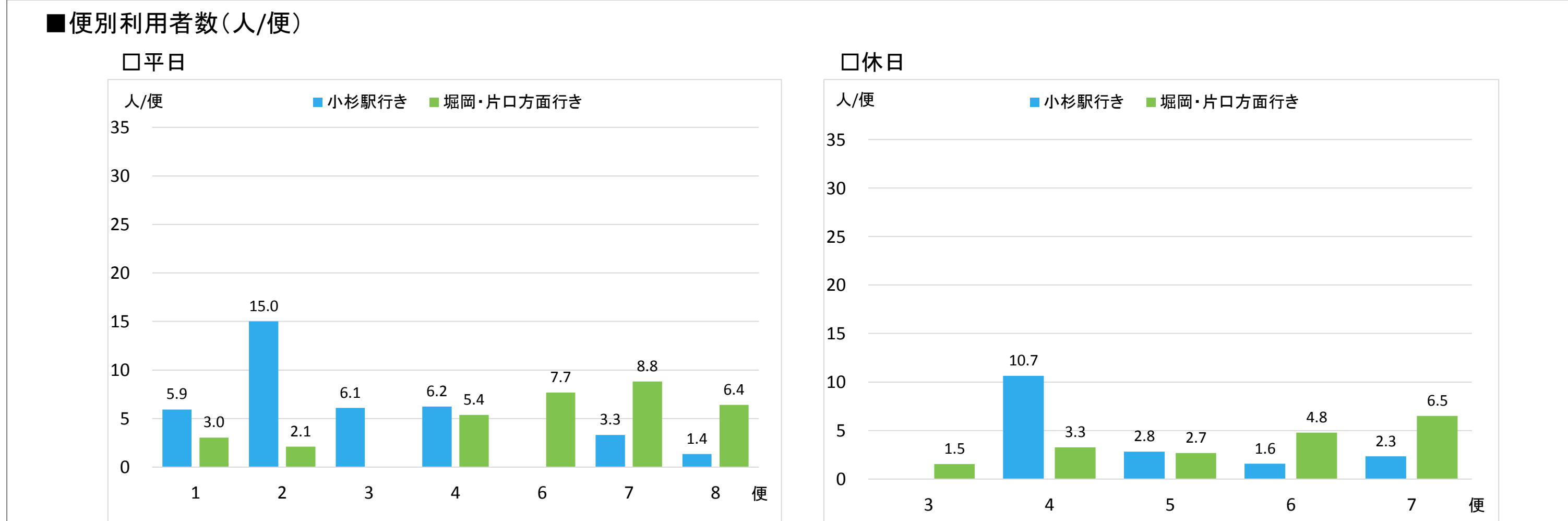
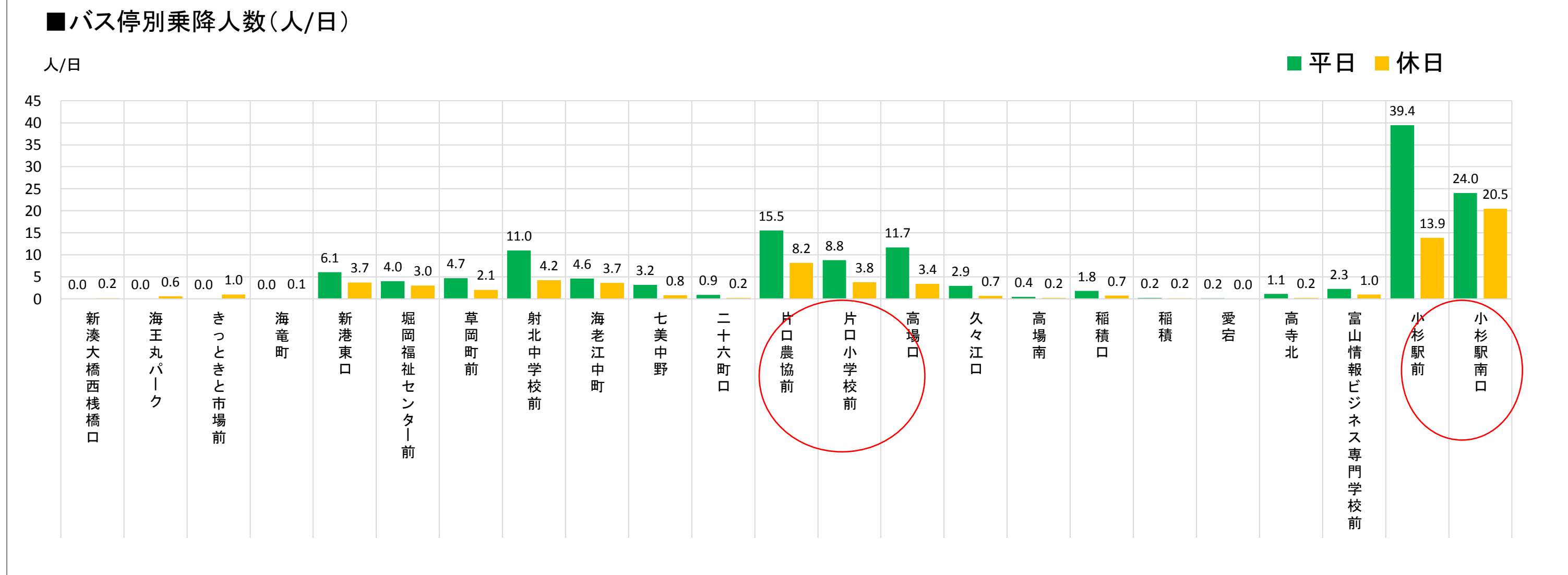
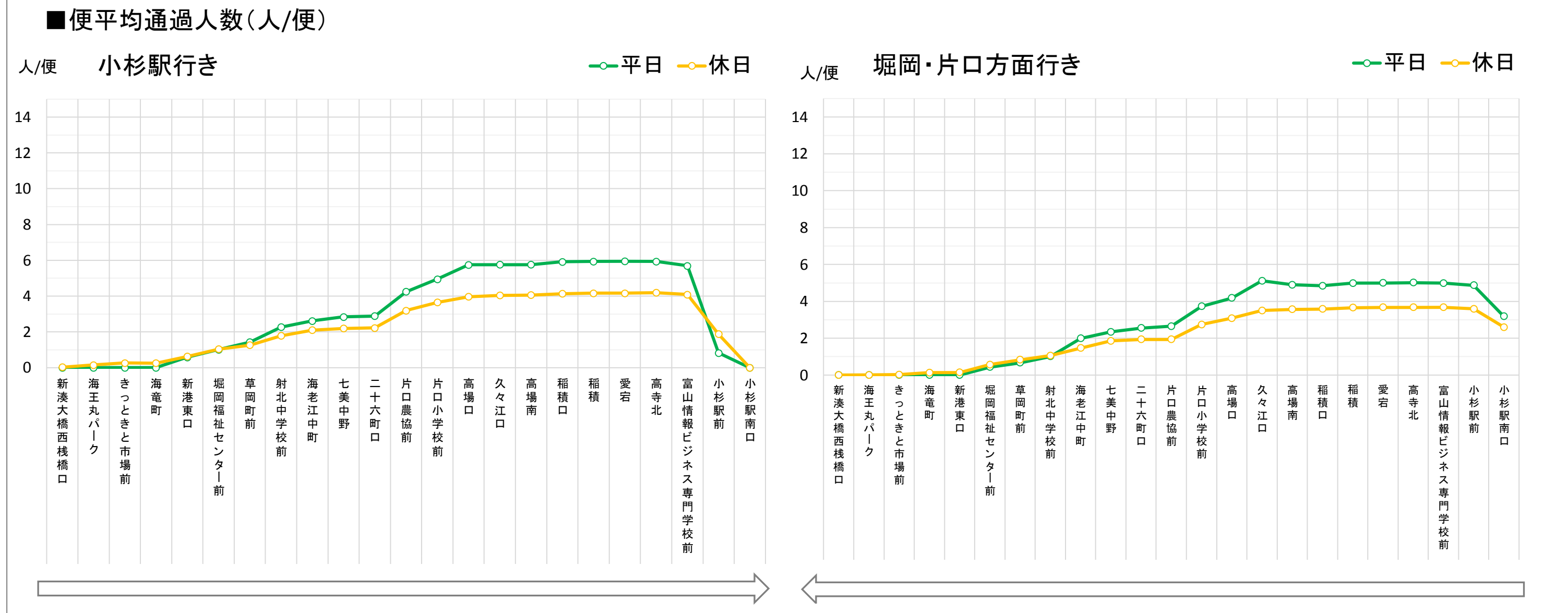
○利用者の実態(利用者アンケート調査(H30)より)



○利用動向(利用実績(2018年度))

■終日利用者数
(人/日)

	平日	休日
2017	62	30
2018	71	36
伸び率	14%	0



デマンドタクシーの減便について

1 変更理由

デマンドタクシーの運行事業者（大門タクシー株式会社）において、運転手の退職に伴い就労基準を満たした人員の確保が困難な状況になっており、現在、午前 7 時便の予約申込みがあっても、運転手の確保ができない場合はお断りしている状況である。

運転手不足が年々深刻化しており、運転手を募集しても応募がない状況が続いている。運行事業者だけでなく、市内の他のタクシー事業者も同様に、運転手確保の見通しが立たないことから、運行便数の見直しを行うもの。

2 変更内容

現 行	令和 2 年 4 月 1 日～
午前 7 時便	—
午前 8 時便	午前 8 時便
午前 9 時便	午前 9 時便
午前 10 時便	午前 10 時便
午前 11 時便	午前 11 時便
午前 12 時便	午前 12 時便
午後 1 時便	午後 1 時便
午後 2 時便	午後 2 時便
午後 3 時便	午後 3 時便
午後 4 時便	午後 4 時便
午後 5 時便	午後 5 時便
午後 6 時便	午後 6 時便
12 便	11 便

3 利用者への対応

恒常的な利用者に対しては、運転手確保の見通しが立たないことや代替えの移動方法を説明したところ、現在は別の移動手段で対応されている。

4 今年度の月別利用状況

	運行日数	総利用者数	うち午前 7 時便 の利用者数
平成 31 年 4 月	30	1,268	64
令和元年 5 月	31	1,206	50
令和元年 6 月	30	1,324	56
令和元年 7 月	31	1,391	62
令和元年 8 月	31	1,314	46
令和元年 9 月	30	1,301	40
令和元年 10 月	31	1,383	0